

第2章 身体障害者の状況

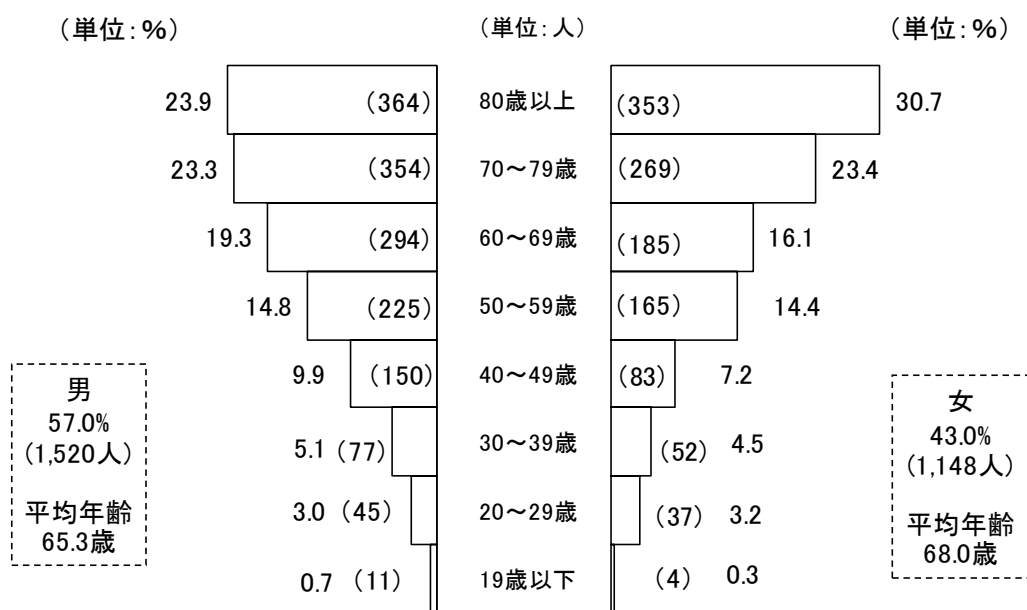
本章では、身体障害者 2,669 人の状況について述べる。

1 基本的属性

(1) 性・年齢階級

回答者を性別にみると、「男性」の割合は 57.0%(1,520 人)、「女性」の割合は 43.0%(1,148 人)となっている。年齢階級別にみると、男女共に「80 歳以上」の割合が最も高く、男性は 23.9%、女性は 30.7%となっている。（図 II-1-1）

図 II-1-1 性・年齢階級



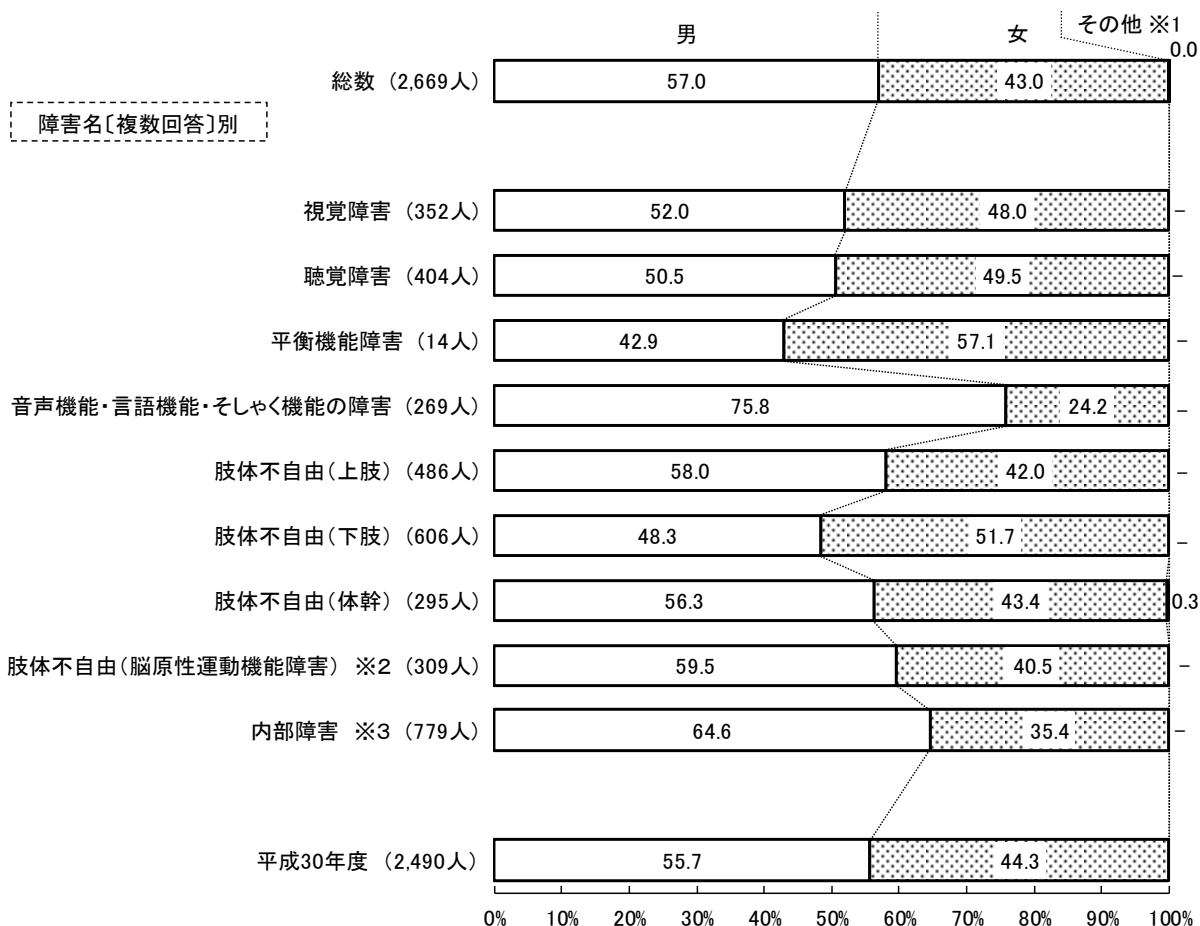
注) 性別のうち、「その他」は1人のため省略した。

(2) 性別－障害名〔複数回答〕別

性別を障害名別にみると、「平衡機能障害」及び「肢体不自由（下肢）」以外の障害で男性の割合が高くなっている。（50.5%～75.8%）

女性の割合は、平衡機能障害では 57.1%、肢体不自由（下肢）では 51.7%となっている。（図 II-1-2）

図 II-1-2 性別－障害名〔複数回答〕別



注1) ※1 性別のうち、「その他」は、平成30年度調査では選択肢として設けていなかった。

2) ※2 このグラフの「肢体不自由（脳原性運動機能障害）」は、「脳性麻痺または乳幼児期以前に発現した脳性麻痺と類似の症状がある方」を示す。本頁以降のグラフ・表も同じ。

3) ※3 このグラフの内部障害は、「心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこうまたは直腸、小腸、肝臓の機能の障害、免疫機能障害」を示す。本頁以降のグラフ・表も同じ。

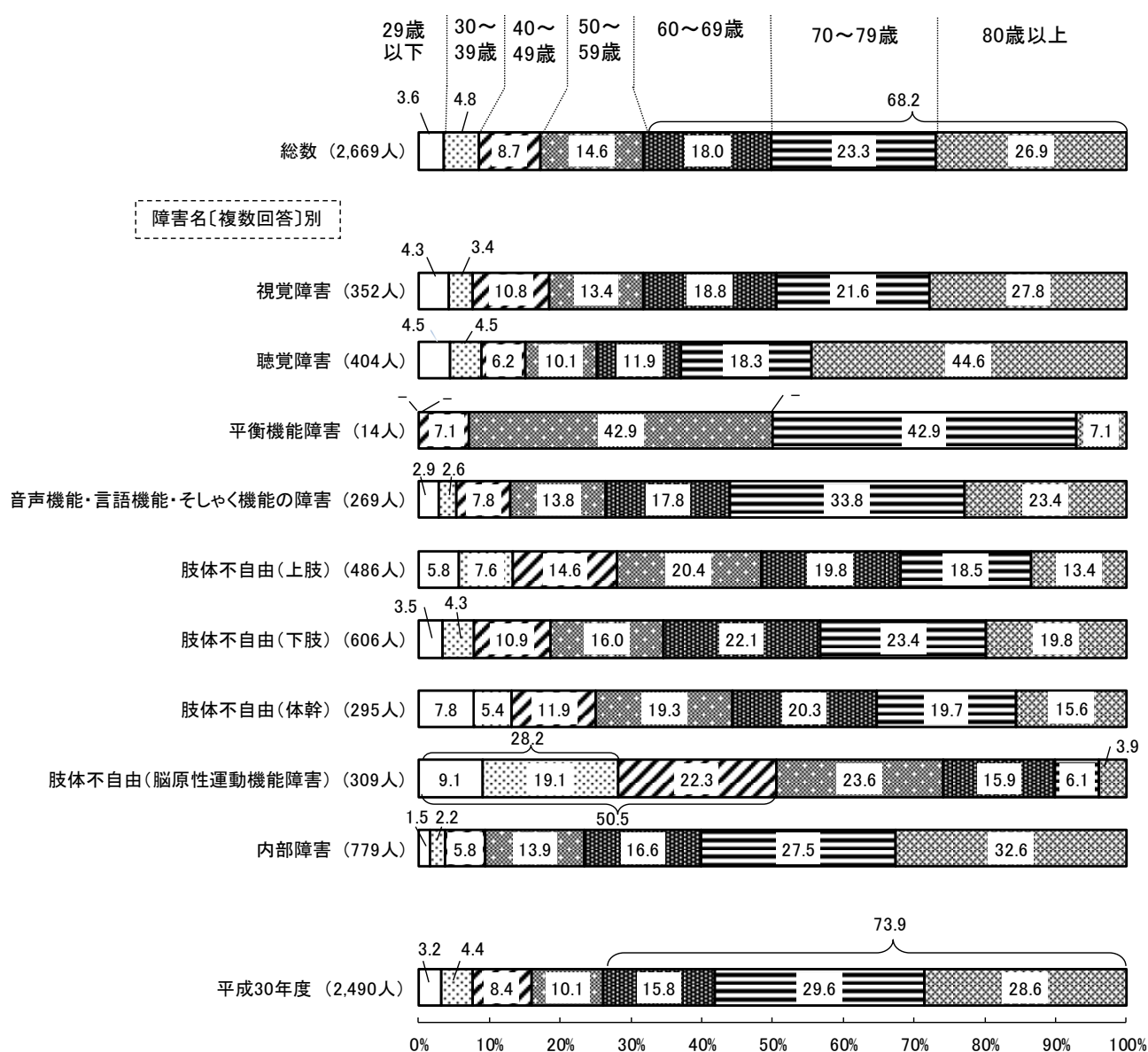
(3) 年齢階級－障害名〔複数回答〕別

年齢階級別では、「80歳以上」の割合が26.9%、「70代」が23.3%、「60代」が18.0%となっており、これらを合わせた60歳以上の割合は68.2%で、平成30年度調査(73.9%)と比べて、5.7ポイント減少している。

障害名別に年齢階級をみると、聴覚障害では「80歳以上」の割合が44.6%、内部障害では「80歳以上」が32.6%となっている。

一方、「肢体不自由（脳原性運動機能障害）」では、「29歳以下」（9.1%）と「30代」（19.1%）を合わせた39歳以下の合計が28.2%、「40代」が22.3%となっており、これらを合わせた49歳以下の割合は50.5%となっている。（図II-1-3）

図II-1-3 年齢階級－障害名〔複数回答〕別



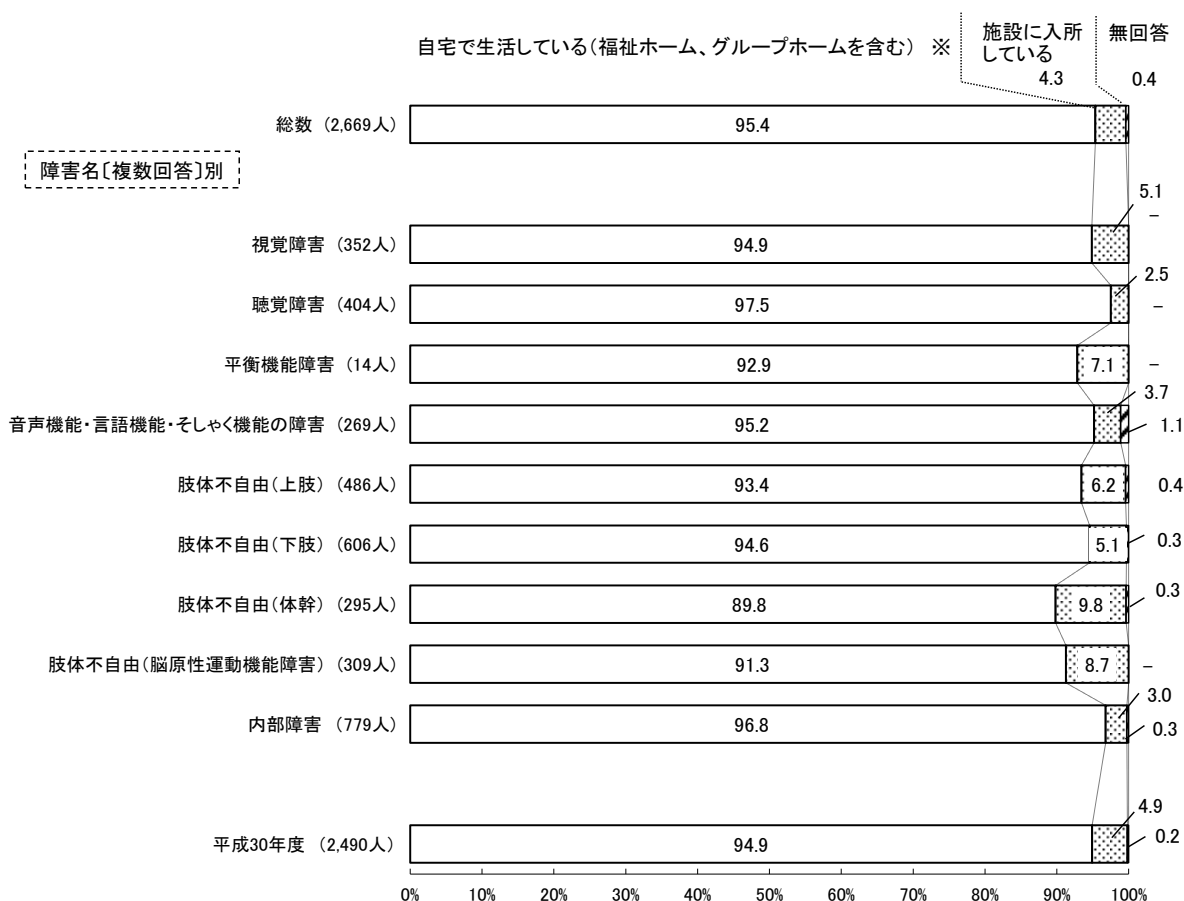
(4) 現在の生活の場－障害名〔複数回答〕別

「^{じたく}「^{せいかつ}自宅で生活している」が 95.4%、「^{しせつ}「^{にゅうしょ}施設に入所している」が 4.3%

現在の生活の場を聞いたところ、「自宅で生活している」の割合は 95.4%、「施設に入所している」は 4.3%となっている。

障害名別にみると、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（脳原性運動機能障害）では、「施設に入所している」割合がそれぞれ 9.8%、8.7%となっている。（図 II-1-4）

図 II-1-4 現在の生活の場－障害名〔複数回答〕別



注) ※平成 30 年度調査では「在宅で生活している（福祉ホーム、グループホームを含む）」としていた。

(5) 住居の種類－障害名〔複数回答〕別

住居の種類は「持家」が63.8%、「借家・賃貸住宅等」が32.5%

自宅で生活している人（2,545人）に住居の種類を聞いたところ、「持家」の割合が63.8%で最も高く、次いで「借家・賃貸住宅等」が32.5%となっている。また「福祉ホーム、グループホーム、重度身体障害者グループホーム」の割合は1.4%となっている。

障害名別にみると、肢体不自由（脳原性運動機能障害）では、「福祉ホーム、グループホーム、重度身体障害者グループホーム」の割合が7.8%となっている。（表Ⅱ-1-1）

表Ⅱ-1-1 住居の種類－障害名〔複数回答〕別

	総数	持家			借家・賃貸住宅等							福祉ホーム、グループホーム、重度身体障害者グループホーム	その他	無回答
		持家（一戸建て）	持家（分譲マンション等）	借家	都・区市町村の公営賃貸住宅	賃貸住宅	都市再生機構・公社などの賃貸住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（共同住宅）	間借り	社宅などの給与住宅			
総数	100.0 (2,545)	63.8	43.3	20.5	32.5	9.0	5.4	1.3	15.7	0.4	0.6	1.4	0.6	1.7
視覚障害	100.0 (334)	58.1	41.9	16.2	38.0	9.9	6.6	2.7	18.0	0.3	0.6	1.5	0.3	2.1
聴覚障害	100.0 (394)	65.0	46.2	18.8	33.2	10.9	6.9	1.0	14.0	0.3	0.3	0.8	0.5	0.5
平衡機能障害	100.0 (13)	69.2	38.5	30.8	30.8	7.7	7.7	—	15.4	—	—	—	—	—
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (256)	67.6	45.7	21.9	30.1	7.0	6.6	1.2	14.1	0.4	0.8	0.8	—	1.6
肢体不自由（上肢）	100.0 (454)	64.3	38.3	26.0	30.8	8.1	6.4	1.8	14.3	—	0.2	2.0	1.3	1.5
肢体不自由（下肢）	100.0 (573)	63.7	39.6	24.1	32.1	9.1	5.8	1.2	15.9	—	0.2	1.0	1.0	2.1
肢体不自由（体幹）	100.0 (265)	64.2	39.6	24.5	32.8	9.8	5.7	1.1	16.2	—	—	1.1	1.1	0.8
肢体不自由（脳原性運動機能障害）	100.0 (282)	57.1	36.2	20.9	29.8	11.0	5.0	1.1	12.1	0.4	0.4	7.8	2.8	2.5
内部障害	100.0 (754)	66.3	46.3	20.0	31.2	6.8	5.3	1.2	15.9	0.9	1.1	0.4	0.4	1.7
平成30年度	100.0 (2,363)	63.7	47.7	16.0	33.9	13.2	3.9	1.6	14.5	0.4	0.4	0.9	—	1.4

注）住居の種類については、所有、賃貸の名義を障害者本人と限定していない。そのため、家族等の名義になっている場合も含まれており、必ずしも対象者本人が住居の所有者又は賃貸の名義人とは限らない。

(6) 現在一緒に生活している人〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別

いっしょに生活している人は、「配偶者」が48.3%、「子供」が25.7%

自宅で生活している人(2,545人)に現在誰と一緒に生活しているか聞いたところ、「配偶者」の割合が48.3%、「子供」が25.7%、「一人で暮らしている」が23.5%となっている。

障害名別にみると、肢体不自由(脳原性運動機能障害)では「親」の割合が55.7%となっている。

障害者になった時期別にみると、40代以上の階級で「配偶者」の割合が5割を超えている。(52.7%~67.1%) (表II-1-2)

表II-1-2 現在一緒に生活している人〔複数回答〕
－障害名〔複数回答〕、障害者になった時期別

		総数	親	配偶者	子供	兄弟姉妹	その他の親族	その他	一人で暮らしている	無回答
総数		100.0 (2,545)	15.0	48.3	25.7	6.7	2.3	1.8	23.5	2.3
障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (334)	13.8	47.0	27.5	6.3	2.7	1.2	23.7	3.3
	聴覚障害	100.0 (394)	9.1	44.4	30.2	6.9	2.8	1.0	27.4	1.0
	平衡機能障害	100.0 (13)	30.8	53.8	30.8	-	-	7.7	15.4	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (256)	11.7	58.6	21.5	6.6	2.3	1.2	19.9	2.0
	肢体不自由(上肢)	100.0 (454)	28.4	41.6	22.5	10.8	1.5	2.6	20.3	1.8
	肢体不自由(下肢)	100.0 (573)	18.8	44.5	24.8	6.5	1.6	1.9	25.0	2.4
	肢体不自由(体幹)	100.0 (265)	29.4	42.3	17.0	9.8	1.9	1.1	23.8	1.1
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (282)	55.7	10.3	4.3	20.6	0.7	6.7	21.6	3.2
	内部障害	100.0 (754)	7.8	56.6	28.6	4.1	2.4	2.0	23.2	2.4
障害者になった時期別	出生前または出生時	100.0 (370)	48.6	16.5	8.1	19.5	1.6	4.9	23.8	2.7
	0~3歳	100.0 (114)	36.8	36.0	14.9	13.2	-	0.9	16.7	-
	4~12歳	100.0 (64)	26.6	35.9	18.8	9.4	-	-	32.8	-
	13~17歳	100.0 (33)	24.2	36.4	27.3	12.1	-	3.0	24.2	6.1
	18~29歳	100.0 (110)	21.8	40.0	31.8	7.3	0.9	2.7	29.1	0.9
	30~39歳	100.0 (133)	12.8	48.1	23.3	2.3	1.5	3.0	28.6	2.3
	40~49歳	100.0 (222)	13.1	52.7	27.9	5.4	0.5	1.4	27.9	3.6
	50~59歳	100.0 (390)	6.4	58.7	30.5	5.6	1.5	1.3	22.6	4.1
	60~69歳	100.0 (359)	2.5	67.1	31.2	2.8	3.1	0.8	18.7	1.9
	70歳以上	100.0 (539)	-	59.9	34.1	0.7	4.8	0.6	20.6	1.1
	不明	100.0 (164)	14.0	34.1	20.1	6.7	3.0	1.8	32.3	1.8
(再掲)65歳以上	100.0 (685)	0.3	61.0	33.9	0.9	4.4	0.6	20.4	1.3	
平成30年度	100.0 (2,363)	13.6	47.8	27.6	5.3	4.4	1.5	25.3	1.3	

(7) 現在の主な介護者－年齢階級、障害名〔複数回答〕別

主な介護者は「配偶者」が26.3%、「介護者はいない」が30.6%

自宅で生活している人(2,545人)に現在の主な介護者は誰か聞いたところ、介護者がいると答えた割合は53.8%で、そのうち「配偶者」と回答した割合が最も高く、26.3%となっている。一方で、「介護者はいない」と回答した割合は、30.6%となっている。

主な介護者を障害名別にみると、肢体不自由(脳原性運動機能障害)では「母親」の割合が34.8%となっている。(表II-1-3)

表II-1-3 現在の主な介護者－年齢階級、障害名〔複数回答〕別

	総数	介護者がいる 53.8									介護者はいない	無回答
		父親	母親	配偶者	子供	兄弟姉妹	その他の親族	業者(ホームヘルパーなど)※	その他			
総数	100.0 (2,545)	1.2	7.7	<u>26.3</u>	9.4	2.3	0.2	5.9	0.6	<u>30.6</u>	15.7	
年齢階級別	29歳以下 (94)	100.0	7.4	52.1	-	-	-	3.2	1.1	26.6	9.6	
	30～39歳 (124)	100.0	4.8	37.9	2.4	0.8	-	12.1	1.6	33.9	6.5	
	40～49歳 (222)	100.0	3.2	24.3	12.2	0.9	1.8	7.7	-	41.9	8.1	
	50～59歳 (381)	100.0	1.8	10.8	18.9	1.8	3.4	0.3	5.8	0.5	43.6	13.1
	60～69歳 (463)	100.0	0.6	1.3	32.8	3.7	3.2	-	6.3	1.7	35.4	14.9
	70～79歳 (600)	100.0	-	-	36.0	9.0	3.2	0.3	5.0	0.2	27.5	18.8
	80歳以上 (661)	100.0	-	-	30.3	23.9	1.2	0.5	5.3	0.3	18.6	20.0
	(再掲)65歳以上 (1,498)	100.0	0.1	0.2	33.1	14.8	2.5	0.3	5.3	0.5	24.3	18.9
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害 (334)	100.0	1.2	7.5	25.4	9.6	2.4	-	6.9	0.3	28.4	18.3
	聴覚障害 (394)	100.0	0.5	2.3	18.8	15.2	2.8	0.8	2.5	-	42.9	14.2
	平衡機能障害 (13)	100.0	-	7.7	30.8	-	-	-	7.7	-	38.5	15.4
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (256)	100.0	1.2	5.1	34.0	5.1	4.3	0.4	5.9	2.0	23.8	18.4
	肢体不自由(上肢) (454)	100.0	2.9	17.2	28.9	6.4	2.9	0.2	10.8	0.4	20.9	9.5
	肢体不自由(下肢) (573)	100.0	2.1	11.0	28.8	9.6	2.4	0.3	8.2	0.5	25.3	11.7
	肢体不自由(体幹) (265)	100.0	1.9	19.2	32.5	4.2	1.9	0.4	15.8	-	15.8	8.3
	肢体不自由(脳原性運動機能障害) (282)	100.0	5.0	<u>34.8</u>	6.4	1.4	3.5	0.4	17.7	0.4	17.7	12.8
	内部障害 (754)	100.0	0.8	2.7	29.3	9.4	1.7	0.1	2.3	1.1	32.8	19.9
平成30年度 (2,363)	100.0	0.9	7.1	26.2	9.9	1.7	0.4	-	4.6	45.0	4.2	

注) ※平成30年度調査では選択肢として設けていなかった。

(8) 主な介護者の年齢－年齢階級、障害名〔複数回答〕別

主な介護者の年齢は70代が25.6%、60代が24.2%

介護者がいる人（介護者がホームヘルパー等の業者の場合を除く1,217人）に、主な介護者の年齢を聞いたところ、70代が25.6%、60代が24.2%となっている。60代は平成30年度調査（19.1%）と比べて、5.1ポイント増加している。

年齢階級別にみると、回答者が40代で介護者が「65歳以上」である割合は64.9%で、平成30年度調査（54.0%）と比べて10.9ポイント増加している。一方、回答者が60代で介護者が「65歳以上」である割合は37.3%で、平成30年度調査（47.4%）と比較して10.1ポイント減少している。

障害名別にみると、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（脳原性運動機能障害）では、「65歳以上」の介護者の割合がそれぞれ59.7%、57.5%となっており、平成30年度調査（52.8%、41.3%）と比べて、それぞれ6.9ポイント、16.2ポイント増加している。

(表II-1-4)

表II-1-4 主な介護者の年齢－年齢階級、障害名〔複数回答〕別

	総数	主な介護者の年齢											平成30年度	
		19歳以下	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳以上	不明	無回答	65歳以上 (再掲)		
総数	100.0 (1,217)	0.2	0.8	1.6	6.8	18.7	24.2	25.6	15.9	0.7	5.5	52.5	53.9	
(回答者の年齢階級別)	29歳以下	100.0 (57)	-	1.8	-	8.8	68.4	15.8	3.5	-	-	1.8	5.3	4.1
	30～39歳	100.0 (59)	1.7	-	5.1	3.4	10.2	64.4	10.2	1.7	-	3.4	40.7	34.5
	40～49歳	100.0 (94)	1.1	1.1	3.2	22.3	4.3	7.4	50.0	7.4	1.1	2.1	64.9	54.0
	50～59歳	100.0 (143)	-	4.2	-	3.5	35.0	16.8	9.8	23.1	-	7.7	39.9	32.0
	60～69歳	100.0 (201)	-	0.5	6.0	3.0	15.9	55.7	10.0	3.5	-	5.5	37.3	47.4
	70～79歳	100.0 (292)	-	0.3	0.7	10.6	8.2	16.4	47.6	9.9	1.4	4.8	69.2	70.3
	80歳以上	100.0 (371)	-	-	-	3.5	19.4	15.4	22.6	31.3	0.8	7.0	58.5	57.0
	(再掲)65歳以上	100.0 (771)	-	0.1	1.0	6.2	13.4	21.5	31.5	19.5	0.9	5.8	62.6	62.1
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (155)	1.3	1.3	1.3	10.3	16.1	25.8	20.6	17.4	0.6	5.2	52.3	52.0
	聴覚障害	100.0 (159)	-	0.6	2.5	8.2	19.5	22.6	18.9	20.8	1.3	5.7	49.7	47.7
	平衡機能障害	100.0 (5)	-	-	-	-	20.0	60.0	20.0	-	-	-	80.0	36.4
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (133)	-	-	1.5	6.0	17.3	21.8	33.1	11.3	-	9.0	57.1	61.4
	肢体不自由(上肢)	100.0 (267)	-	0.7	1.1	5.2	20.2	27.0	27.0	12.4	0.4	6.0	50.9	48.9
	肢体不自由(下肢)	100.0 (314)	-	1.3	2.2	6.1	18.5	24.8	24.2	14.6	0.6	7.6	49.0	49.7
	肢体不自由(体幹)	100.0 (159)	-	1.3	1.3	5.0	18.9	23.3	34.0	13.8	-	2.5	59.7	52.8
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (146)	-	0.7	1.4	4.1	15.8	25.3	30.8	15.8	0.7	5.5	57.5	41.3
	内部障害	100.0 (340)	-	0.9	0.6	7.1	18.8	21.2	27.4	19.4	0.6	4.1	54.4	60.0
平成30年度	100.0 (1,200)	0.3	0.6	1.3	7.5	16.8	19.1	28.4	15.5	4.1	6.5	53.9		

注) 総数は、現在の主な介護者について「父親」、「母親」、「配偶者」、「子供」、「兄弟姉妹」、「その他の親族」、「その他」のいずれかを選択した1,217人である。

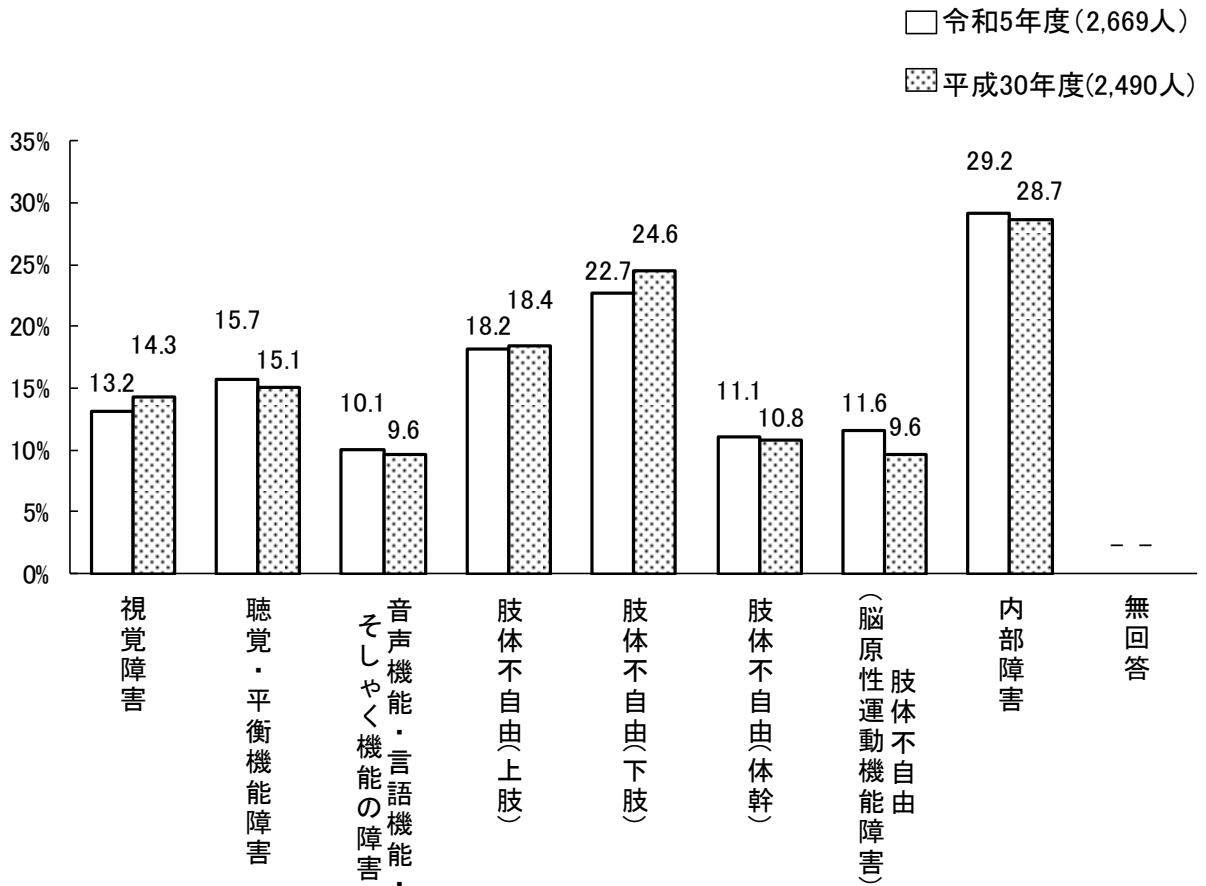
2 障害の状況

(1) 障害の種類〔複数回答〕

身体障害者手帳に記載されている障害名を聞いたところ、「内部障害」の割合が29.2%、「肢体不自由（下肢）」が22.7%、「肢体不自由（上肢）」が18.2%となっている。

（図Ⅱ-2-1）

図Ⅱ-2-1 障害の種類〔複数回答〕

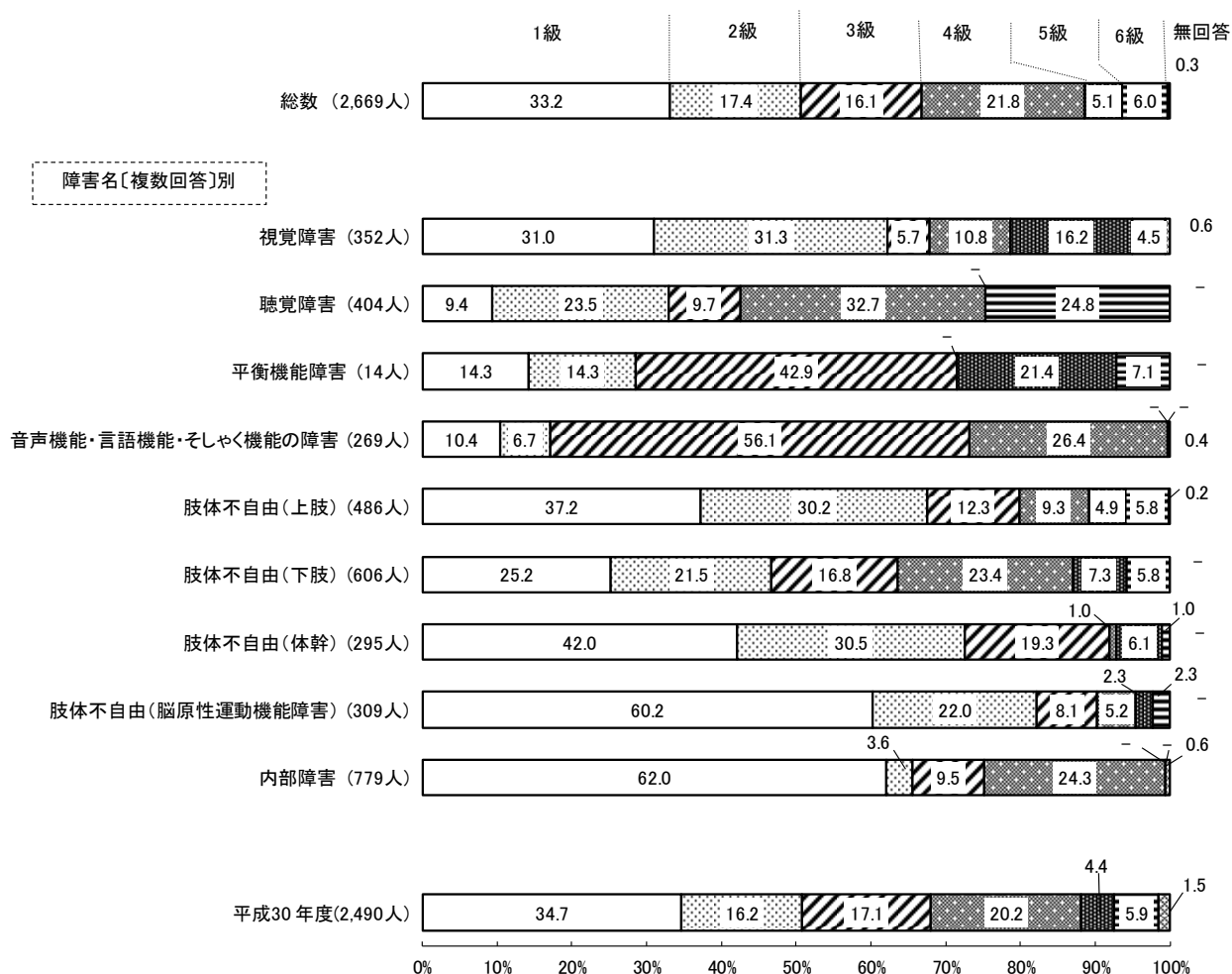


(2) 身体障害者手帳の程度（総合等級）－障害名〔複数回答〕別

身体障害者手帳の程度(総合等級)をみると、「1級」の割合が33.2%、「4級」が21.8%、「2級」が17.4%となっている。

障害名別にみると、最も割合が高いのは、視覚障害は「2級」で31.3%、聴覚障害は4級で32.7%、平衡機能障害及び音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害は「3級」でそれぞれ42.9%、56.1%となっている。また、肢体不自由(上肢)、肢体不自由(下肢)、肢体不自由(体幹)、肢体不自由(脳原性運動機能障害)及び内部障害は「1級」で、それぞれ37.2%、25.2%、42.0%、60.2%、62.0%となっている。(図II-2-2)

図II-2-2 身体障害者手帳の程度（総合等級）－障害名〔複数回答〕別



(3) 身体障害者手帳の程度（障害名別）－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

身体障害者手帳の程度（個別等級）をみると、それぞれ割合が最も高いのは、視覚障害は「2級」で32.1%、聴覚障害は「4級」で33.9%、平衡機能障害は「3級」で42.9%、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害は「3級」で65.4%となっている。また、肢体不自由（上肢）は「2級」で26.7%、肢体不自由（下肢）は「4級」で30.9%、肢体不自由（体幹）は「1級」で32.5%、肢体不自由（脳原性運動機能障害）は「1級」で51.8%、内部障害は「1級」で60.7%となっている。（表II-2-1）

表II-2-1 身体障害者手帳の程度（障害名別）－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

障害名別 総合等級	視覚障害									聴覚障害									平衡機能障害									
	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答
総数	100.0 (352)	27.8	32.1	6.3	10.8	17.6	4.3	0.6	0.6	100.0 (404)	5.0	23.3	9.4	33.9	26.7	0.7	1.0	100.0 (14)	42.9	21.4	21.4	14.3	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
1級	100.0 (109)	89.9	4.6	1.8	0.9	0.9	-	1.8	-	100.0 (38)	50.0	18.4	5.3	7.9	7.9	5.3	5.3	100.0 (2)	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
2級	100.0 (110)	-	96.4	-	0.9	1.8	-	-	0.9	100.0 (95)	1.1	91.6	-	4.2	2.1	1.1	-	100.0 (2)	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0
3級	100.0 (20)	-	5.0	95.0	-	-	-	-	-	100.0 (39)	-	-	92.3	-	5.1	-	2.6	100.0 (6)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4級	100.0 (38)	-	-	-	94.7	2.6	-	-	2.6	100.0 (132)	-	-	-	98.5	0.8	-	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5級	100.0 (57)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 (3)	-	-	-	-	66.7	-	-	-	33.3	-
6級	100.0 (16)	-	-	-	-	6.3	93.8	-	-	100.0 (100)	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

障害名別 総合等級	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害									肢体不自由(上肢)									肢体不自由(下肢)										
	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答
総数	100.0 (269)	-	-	65.4	30.5	-	-	2.6	1.5	100.0 (486)	23.9	26.7	16.7	9.3	4.1	8.4	6.0	2.1	2.9	100.0 (606)	16.5	15.0	17.7	30.9	7.6	5.8	3.3	2.1	1.2
1級	100.0 (28)	-	-	42.9	25.0	-	-	17.9	14.3	100.0 (181)	64.1	19.9	8.3	-	-	-	1.1	2.2	4.4	100.0 (153)	64.7	13.7	12.4	4.6	-	1.3	-	0.7	2.6
2級	100.0 (18)	-	-	72.2	16.7	-	-	11.1	-	100.0 (147)	-	63.9	15.0	7.5	1.4	6.1	3.4	2.0	0.7	100.0 (130)	0.8	53.8	6.2	30.0	-	3.1	0.8	5.4	-
3級	100.0 (151)	-	-	99.3	0.7	-	-	-	-	100.0 (60)	-	-	73.3	5.0	-	8.3	3.3	5.0	5.0	100.0 (102)	-	-	77.5	6.9	2.9	2.0	3.9	4.9	2.0
4級	100.0 (71)	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0 (45)	-	-	-	66.7	2.2	8.9	20.0	-	2.2	100.0 (142)	-	-	0.7	94.4	2.1	0.7	2.1	-	-
5級	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 (24)	-	-	-	-	66.7	25.0	4.2	-	4.2	100.0 (44)	-	-	-	-	90.9	9.1	-	-	-
6級	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 (28)	-	-	-	-	3.6	60.7	35.7	-	-	100.0 (35)	-	-	-	-	-	62.9	34.3	-	2.9

障害名別 総合等級	肢体不自由(体幹)									肢体不自由(脳原性運動機能障害)									内部障害											
	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答	総数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明	無回答	
総数	100.0 (295)	32.5	30.5	20.7	-	8.5	-	1.7	6.1	100.0 (309)	51.8	21.0	7.4	6.5	1.6	2.9	0.6	1.0	7.1	100.0 (779)	60.7	2.3	10.1	25.4	-	-	-	-	1.0	0.4
1級	100.0 (124)	77.4	9.7	4.0	-	1.6	-	2.4	4.8	100.0 (186)	85.5	3.8	0.5	1.6	-	0.5	0.5	0.5	7.0	100.0 (483)	97.1	-	1.4	0.6	-	-	-	-	0.6	0.2
2級	100.0 (90)	-	85.6	8.9	-	1.1	-	-	4.4	100.0 (68)	-	83.8	1.5	2.9	1.5	1.5	1.5	1.5	5.9	100.0 (28)	7.1	64.3	3.6	14.3	-	-	-	-	10.7	-
3級	100.0 (57)	-	1.8	84.2	-	1.8	-	3.5	8.8	100.0 (25)	4.0	-	84.0	-	-	4.0	-	4.0	4.0	100.0 (74)	-	-	93.2	4.1	-	-	-	-	2.7	-
4級	100.0 (3)	-	-	-	-	66.7	-	-	33.3	100.0 (16)	-	6.3	-	87.5	-	-	-	-	6.3	100.0 (189)	-	-	0.5	98.4	-	-	-	-	1.1	-
5級	100.0 (18)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0 (7)	-	-	-	14.3	57.1	-	-	-	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6級	-	-	-	-	-	33.3	-	-	66.7	100.0 (7)	-	-	-	-	-	85.7	-	-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

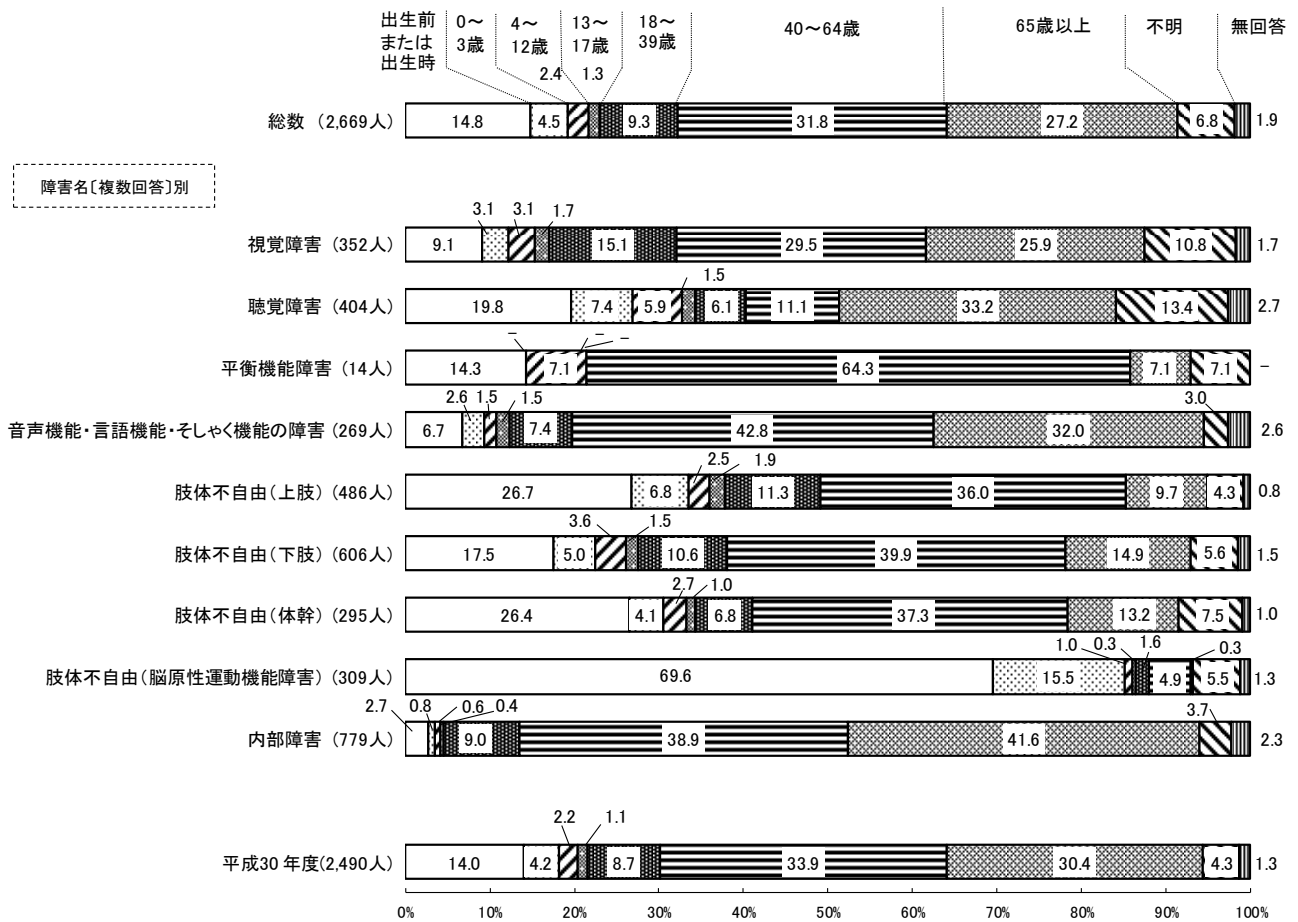
注) 総合等級とは、2つ以上の障害が重複する場合に、重複する障害の合計指数に応じて認定されるものである。障害が1つのみの場合は、その障害の個別等級で回答してもらっている。

(4) 障害者になった時期－障害名〔複数回答〕別

障害者になった時期について聞いたところ、「40～64歳」の割合が31.8%で最も高く、次いで「65歳以上」が27.2%となっている。

障害名別にみると、聴覚障害及び内部障害では「65歳以上」の割合が最も高い(33.2%、41.6%)。視覚障害、平衡機能障害、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害、肢体不自由(上肢)、肢体不自由(下肢)及び肢体不自由(体幹)では、「40～64歳」の割合が最も高い(29.5%、64.3%、42.8%、36.0%、39.9%、37.3%)。肢体不自由(脳原性運動機能障害)では、「出生前または出生時」が最も高く、69.6%となっている。(図II-2-3)

図II-2-3 障害者になった時期－障害名〔複数回答〕別



(5) 障害者になった時期－年齢階級別

障害者になった時期について年齢階級別にみると、40代以下の各階級においては「出生時前または出生時」が最も高くなっている(34.3%~62.9%)。50代及び60代においては「50代」が最も高く(27.2%、31.0%)、70代では「60代」が31.3%、80歳以上では「70歳以上」が57.0%で、それぞれ最も高くなっている。(表II-2-2)

表II-2-2 障害者になった時期－年齢階級別

調査基準日 現在の年齢	障害者になった 時期	総 数	出 生 前 ま た は 出 生 時	0	4	1	1	3	4	5	6	7	不 明	無 回 答	6	
				5	5	3	8	0	0	0	0	0			5	5
				3	1	7	9	9	9	9	9	9			9	9
				歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳			歳	歳
				以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上	以上			以上	以上
総数		100.0 (2,669)	14.8	4.5	2.4	1.3	4.2	5.0	8.5	15.1	14.4	21.1	6.8	1.9	27.2	
29歳以下		100.0 (97)	<u>62.9</u>	11.3	6.2	5.2	8.2	-	-	-	-	-	4.1	2.1	-	
30~39歳		100.0 (129)	<u>55.0</u>	14.0	7.0	0.8	10.9	10.1	-	-	-	-	2.3	-	-	
40~49歳		100.0 (233)	<u>34.3</u>	7.7	3.4	4.3	14.6	17.2	12.0	-	-	-	6.4	-	-	
50~59歳		100.0 (390)	21.5	3.8	1.8	2.1	5.6	9.7	20.0	<u>27.2</u>	-	-	6.4	1.8	-	
60~69歳		100.0 (480)	12.5	5.0	1.3	0.8	2.9	5.4	14.0	<u>31.0</u>	18.8	-	7.1	1.3	3.5	
70~79歳		100.0 (623)	3.7	3.2	2.9	0.3	1.4	1.8	5.6	16.9	<u>31.3</u>	24.9	6.4	1.6	40.6	
80歳以上		100.0 (717)	2.1	2.0	1.4	0.8	1.7	0.8	2.5	5.9	13.8	<u>57.0</u>	8.5	3.5	63.6	
(再掲) 65歳以上		100.0 (1,589)	4.2	2.9	2.0	0.6	1.6	1.7	5.1	13.5	23.0	35.5	7.3	2.6	45.7	

(6) 主な障害の原因－障害名〔複数回答〕別

主な障害の原因について障害名別にみると、視覚障害、平衡機能障害、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（下肢）、肢体不自由（体幹）及び内部障害では「疾患」の割合が最も高い（28.1%～49.2%）。聴覚障害では「加齢」の割合が最も高く、24.5%となっている。肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「生まれた時から（出生時の損傷含む）※」の割合が最も高く、75.4%となっている。（表Ⅱ-2-3）

表Ⅱ-2-3 主な障害の原因－障害名〔複数回答〕別

	総数	生まれた時から （出生時の損傷含む）※	交通事故	労働災害	戦傷病・戦災等	その他の事故	感染症	中毒性疾患	その他の疾患	薬害	加齢	その他	不明	無回答
総数	100.0 (2,669)	18.5	2.3	1.8	0.0	2.7	3.4	0.1	29.0	1.1	8.5	12.5	17.6	2.2
							32.6							
視覚障害	100.0 (352)	15.6	2.6	0.9	-	2.0	1.1	0.3	29.3	0.9	7.4	13.6	23.9	2.6
							30.7							
聴覚障害	100.0 (404)	20.0	0.5	0.2	0.2	2.5	2.2	-	8.4	4.5	24.5	12.9	21.0	3.0
平衡機能障害	100.0 (14)	14.3	-	-	-	7.1	-	-	28.6	-	7.1	28.6	7.1	7.1
							28.6							
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	8.9	3.0	1.1	-	1.9	1.1	0.4	41.3	0.4	2.6	24.5	12.3	2.6
							42.8							
肢体不自由（上肢）	100.0 (486)	30.0	4.9	4.7	-	4.3	2.5	0.2	27.8	0.4	1.0	12.6	9.9	1.6
							30.5							
肢体不自由（下肢）	100.0 (606)	22.9	4.5	3.1	-	6.1	2.8	-	25.2	0.5	6.4	14.2	12.2	2.0
							28.1							
肢体不自由（体幹）	100.0 (295)	29.5	4.1	1.4	-	4.4	2.4	-	30.8	0.3	1.4	10.8	13.2	1.7
							33.2							
肢体不自由（脳原性運動機能障害）	100.0 (309)	75.4	0.3	0.3	-	1.3	2.3	-	6.8	0.6	0.3	3.9	7.8	1.0
内部障害	100.0 (779)	6.3	0.1	1.0	-	0.1	6.3	0.1	42.7	0.5	8.1	9.8	22.5	2.4
							49.2							
平成30年度	100.0 (2,490)	8.6	2.3	2.4	0.2	3.7	3.0	0.0	35.1	0.7	8.1	12.0	22.5	1.3
							38.1							

注1) ここでいう「疾患」は、「感染症」、「中毒性疾患」及び「その他の疾患」の合計とする。

2) ※平成30年度調査では「出生時の損傷」としていた。

(7) 障害の疾病名〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

障害の疾病名について障害名別にみると、「その他」以外で割合が高いのは、視覚障害では「網脈絡膜・視神経性疾患」で33.0%、聴覚障害では「内耳性疾患」で33.4%、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「脳血管障害」で24.9%となっている。

肢体不自由（上肢）、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「脳性まひ」で、それぞれ26.3%、23.4%、80.6%となっている。また、肢体不自由（下肢）では「骨関節疾患」で19.1%、内部障害では「心臓疾患」で44.8%となっている。（表Ⅱ-2-4）

表Ⅱ-2-4 障害の疾病名〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	総数	脳性まひ	脊髄性小児まひ	(対まひ) 脊髄損傷Ⅰ	(四肢損傷Ⅱ) 脊髄損傷Ⅱ	筋萎縮性疾患	進行性筋萎縮性疾患	脳血管障害	脳挫傷	その他の神経疾患	骨関節疾患	リウマチ性疾患	中耳性疾患	内耳性疾患
総数	100.0 (2,669)	10.2	1.0	0.8	1.4	0.4	7.6	0.7	3.8	5.1	1.7	3.0	5.2	
視覚障害	100.0 (352)	1.1	-	-	0.3	0.3	3.1	1.4	2.3	0.9	0.3	0.3	0.6	
聴覚障害	100.0 (404)	2.5	0.2	-	0.2	-	0.2	-	4.7	1.0	0.2	19.8	<u>33.4</u>	
平衡機能障害	100.0 (14)	7.1	-	-	-	-	21.4	-	21.4	-	-	-	21.4	
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	5.9	0.7	0.4	0.7	0.4	<u>24.9</u>	4.5	7.1	0.4	-	0.4	0.7	
肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	<u>26.3</u>	2.1	1.0	4.3	1.4	25.1	2.1	6.8	3.7	6.8	-	-	
肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	16.3	3.1	1.8	3.6	0.8	19.0	1.8	4.5	<u>19.1</u>	5.8	0.3	0.3	
肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	<u>23.4</u>	0.3	4.1	7.1	2.4	14.6	1.7	9.2	1.4	0.3	-	-	
肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	<u>80.6</u>	1.3	0.3	1.6	-	4.2	0.3	6.1	1.3	0.3	-	0.3	
内部障害	100.0 (779)	0.5	-	0.1	0.4	0.1	1.7	-	0.6	0.6	0.6	0.3	0.5	
平成30年度	100.0 (2,490)	9.9	0.7	0.7	1.0	0.2	9.7	0.8	3.9	8.2	2.0	2.9	6.5	

(次ページへ続く)

表 II-2-4 障害の疾病名〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別（続）

	角膜疾患	水晶体疾患	視網脈絡膜・神経性疾患	じん臓疾患	心臓疾患	呼吸器疾患	ぼうこう疾患	大腸疾患	小腸疾患	肝臓疾患	症候群 後天性免疫不全	その他	不明	無回答
総数	1.4	0.8	4.4	8.2	13.5	2.4	2.1	3.0	0.5	0.4	1.3	24.6	5.8	3.3
視覚障害	9.4	5.4	<u>33.0</u>	3.1	1.1	0.3	0.3	-	-	-	0.3	33.8	10.2	4.5
聴覚障害	0.5	0.2	0.2	0.7	2.2	0.2	0.5	0.2	-	-	-	26.7	16.8	9.4
平衡機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28.6	7.1	-
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	0.4	-	0.4	1.1	0.7	15.2	0.7	1.1	0.4	-	-	44.2	2.6	3.0
肢体不自由(上肢)	0.2	0.4	0.4	1.0	2.3	1.0	0.6	0.4	-	-	0.4	22.2	3.9	1.2
肢体不自由(下肢)	0.3	0.2	0.2	1.5	2.1	0.7	0.8	0.7	0.2	0.3	0.3	22.6	5.1	1.8
肢体不自由(体幹)	0.7	0.7	0.7	1.0	3.4	0.7	1.0	1.0	0.3	-	0.7	35.9	4.1	1.7
肢体不自由(脳原性運動機能障害)	-	-	0.3	0.3	1.0	0.3	-	0.3	0.3	-	-	9.4	2.6	0.6
内部障害	0.1	0.1	0.5	27.5	<u>44.8</u>	3.5	6.4	9.9	1.5	1.2	4.2	8.0	0.5	1.8
平成30年度	1.4	1.2	7.5	8.6	15.0	4.9	1.3	3.3	0.2	0.5	0.6	9.4	10.0	1.9

(8) 身体障害者手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

「^{あい}てちょう^も愛の手帳」を持っている割合は8.5%、「^{せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう}せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう^も精神障害者保健福祉手帳」を持っている割合は3.9%

身体障害者手帳以外の障害者手帳を持っているか聞いたところ、「愛の手帳（療育手帳）」を「持っている」割合は8.5%、「持っていない」は79.6%となっている。「精神障害者保健福祉手帳」については、「持っている」の割合が3.9%、「持っていない」が82.9%となっている。

障害名別でみると、「愛の手帳」を持っている割合は、「肢体不自由（脳原性運動機能障害）」が最も高く39.5%、「精神障害者保健福祉手帳」を持っている割合は、「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」が最も高く8.6%となっている。（表Ⅱ-2-5）

表Ⅱ-2-5 身体障害者手帳以外の手帳所持の有無〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	愛の手帳					福祉精神障害者保健				
	総数	持っている	申請中	持っていない	無回答	総数	持っている	申請中	持っていない	無回答
総数	100.0 (2,669)	8.5	0.1	79.6	11.8	100.0 (2,669)	3.9	0.1	82.9	13.1
視覚障害	100.0 (352)	6.0	-	80.7	13.4	100.0 (352)	2.6	-	82.7	14.8
聴覚障害	100.0 (404)	5.0	0.2	85.4	9.4	100.0 (404)	3.5	0.2	87.4	8.9
平衡機能障害	100.0 (14)	-	-	78.6	21.4	100.0 (14)	7.1	-	78.6	14.3
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	7.4	0.4	79.2	13.0	100.0 (269)	8.6	0.4	78.8	12.3
肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	15.0	-	72.8	12.1	100.0 (486)	3.7	-	78.0	18.3
肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	9.6	-	77.1	13.4	100.0 (606)	4.5	-	80.5	15.0
肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	16.6	-	73.6	9.8	100.0 (295)	4.1	-	78.0	18.0
肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	39.5	-	50.8	9.7	100.0 (309)	5.5	-	63.1	31.4
内部障害	100.0 (779)	3.1	0.1	83.6	13.2	100.0 (779)	3.1	-	86.6	10.3

3 健康・医療

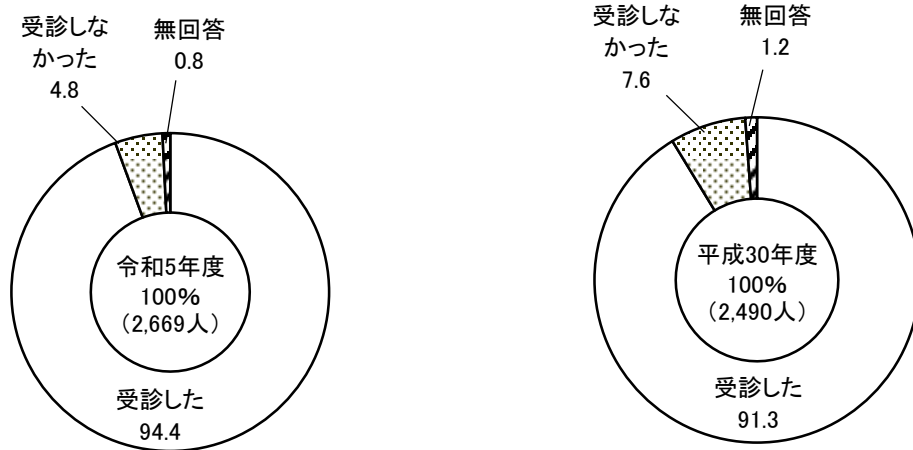
(1) 過去1年間の受診の有無

過去1年間に医療機関を「受診した」割合は94.4%

過去1年間に、障害に起因する場合に限らず、全ての病気・ケガ等により医療機関を受診したことがあるか聞いたところ、「受診した」割合が94.4%となっている。

(図II-3-1)

図II-3-1 過去1年間の受診の有無

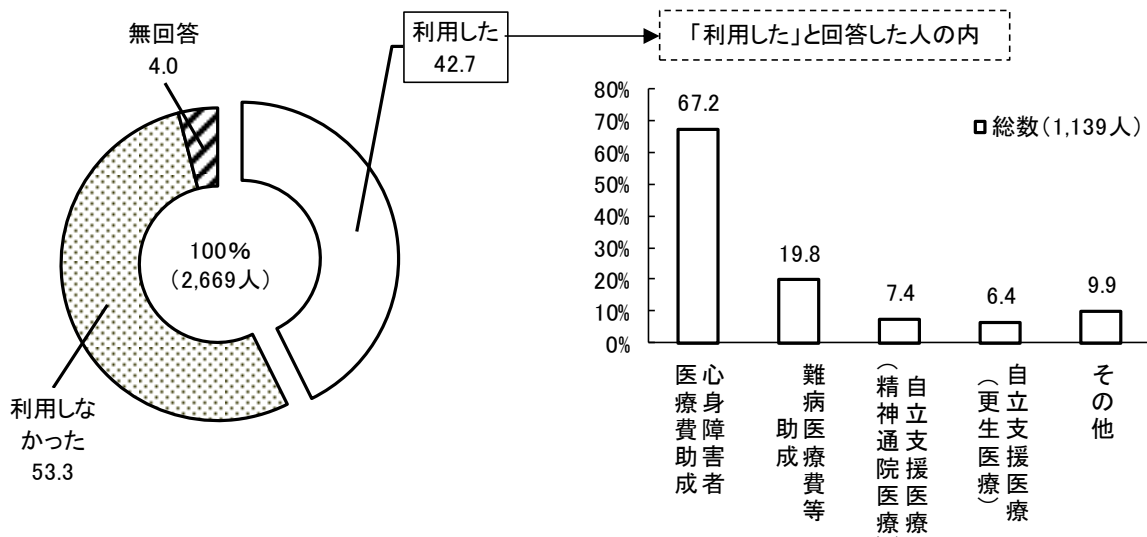


(2) 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕

過去1年間に医療費助成等を「利用した」割合は42.7%

過去1年間に医療費助成等を利用したか聞いたところ、「利用した」割合が42.7%、「利用しなかった」が53.3%となっている。利用した制度では、「心身障害者医療費助成」が67.2%で最も高く、次いで「難病医療費等助成」が19.8%となっている。(図II-3-2)

図II-3-2 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕



(3) 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕－年齢階級別

過去1年間に医療費助成等を「利用した」割合は、平成30年度と比べて増加

過去1年間に医療費助成等を「利用した」人の割合は42.7%で、平成30年度(30.6%)と比べて12.1ポイント増加している。利用した医療費助成等の内訳をみると、「心身障害者医療費助成(マル障)」が28.7%で、平成30年度(19.2%)と比べて9.5ポイント増えている。

年齢階級別にみると、「利用した」割合は、29歳以下及び30代が7割を超えており(71.1%、73.6%)、40代以降年齢が高くなるにつれて減少している。(表II-3-1)

表II-3-1 過去1年間の医療費助成等の利用の有無〔複数回答〕－年齢階級別

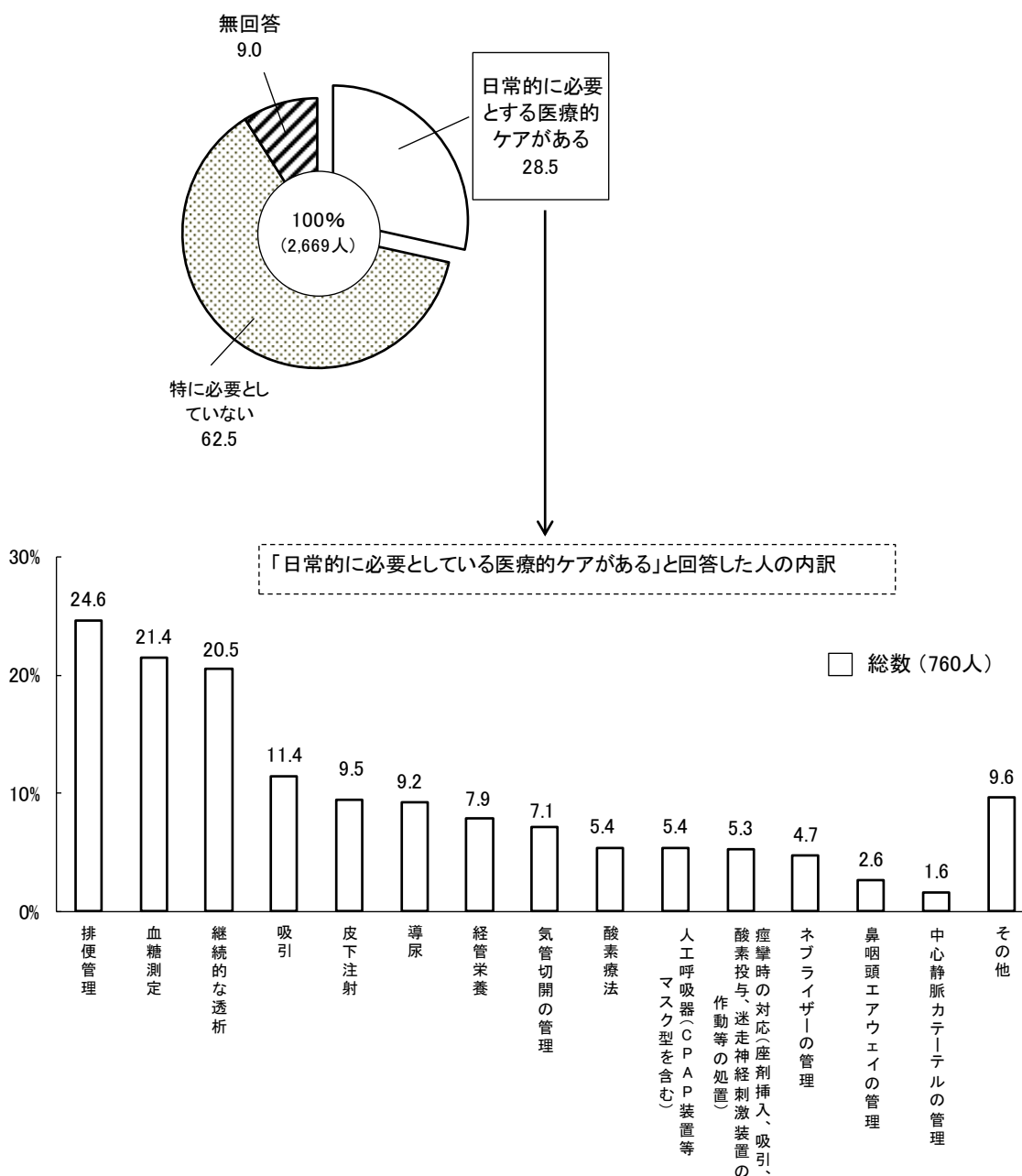
	総数	利用した	助成心身障害者医療費(マル障)	自立更生医療(更生医療)	自立支援医療(精神通院医療)	難病医療費等助成	その他	利用しなかった	無回答
総数	100.0 (2,669)	<u>42.7</u>	<u>28.7</u>	2.7	3.1	8.5	4.2	53.3	4.0
29歳以下	100.0 (97)	<u>71.1</u>	54.6	2.1	3.1	8.2	2.1	28.9	-
30～39歳	100.0 (129)	<u>73.6</u>	61.2	4.7	6.2	6.2	1.6	26.4	-
40～49歳	100.0 (233)	<u>64.4</u>	49.4	6.9	4.7	6.4	3.0	34.3	1.3
50～59歳	100.0 (390)	<u>58.5</u>	42.8	4.6	4.6	12.1	3.6	39.5	2.1
60～69歳	100.0 (480)	<u>47.3</u>	32.7	3.1	5.0	9.0	3.5	49.4	3.3
70～79歳	100.0 (623)	<u>36.6</u>	21.2	1.4	1.8	9.1	5.8	58.9	4.5
80歳以上	100.0 (717)	<u>19.8</u>	8.6	0.8	0.3	6.7	4.9	72.8	7.4
(再掲) 65歳以上	100.0 (1,589)	29.7	16.7	1.4	1.0	8.1	5.2	64.5	5.8
平成30年度	100.0 (2,490)	<u>30.6</u>	<u>19.2</u>	2.5	1.8	6.8	1.8	64.8	4.7

(4) 日常的に必要としている医療的ケア〔複数回答〕

日常的に必要としている医療的ケアがある人の割合は 28.5%

医療的ケアの状況を聞いたところ、日常的に必要としている医療的ケアが「ある」が 28.5%、「特に必要としていない」が 62.5%となっている。必要としている医療的ケアがあると回答があった人（760人）にその内容を聞いたところ、「排便管理」が 24.6%、「血糖測定」が 21.4%、「継続的な透析」が 20.5%となっている。（図 II -3-3）

図 II -3-3 日常的に必要としている医療的ケア〔複数回答〕



4 日常生活の状況

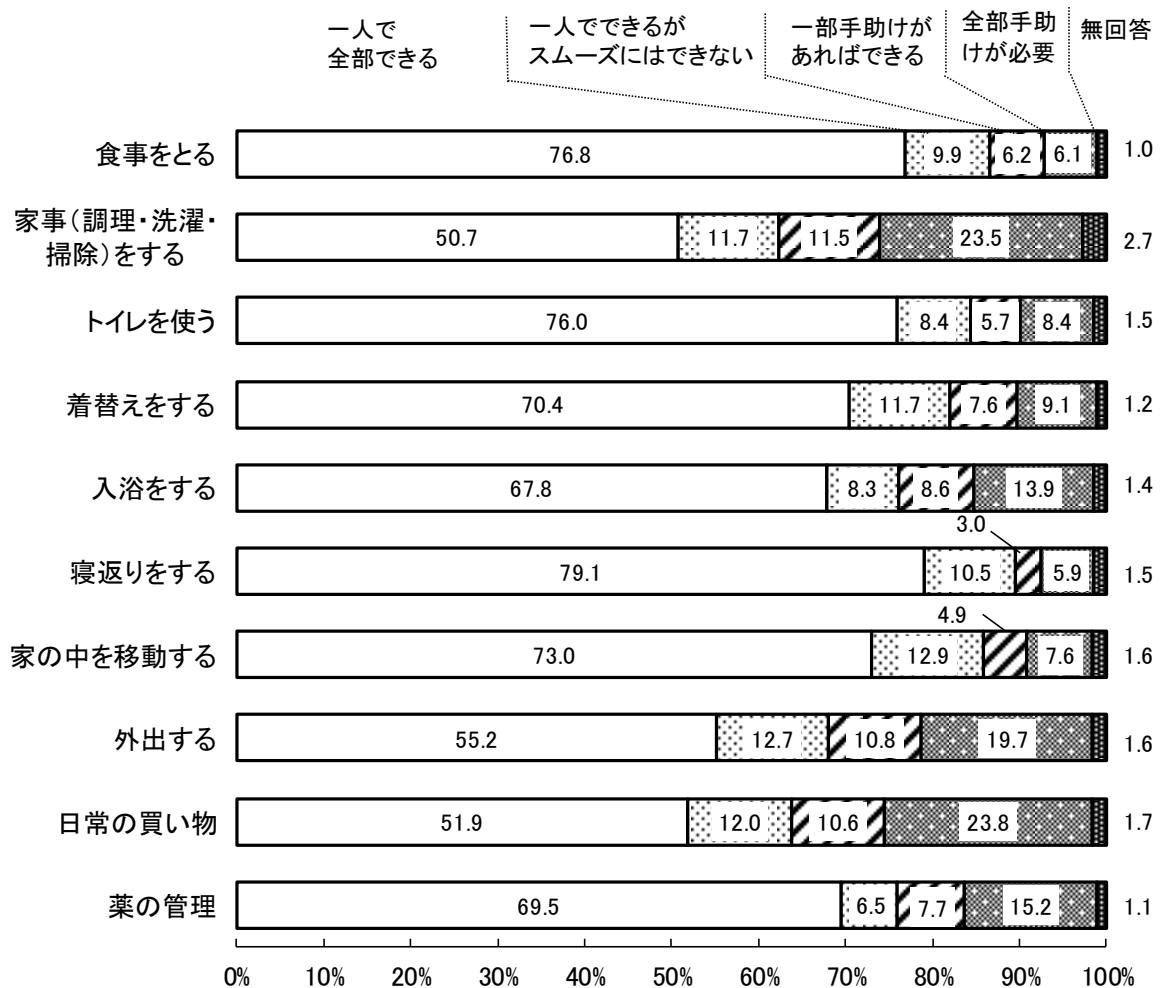
(1) 日常生活動作能力

日常生活動作能力で「全部手助けが必要」の割合が高いのは、「日常の買い物」、「家事（調理・洗濯・掃除）」で2割を超えている

10項目の日常生活動作能力について、「一人で全部できる」と答えた割合が最も高かったのは「寝返りをする」が79.1%で、次いで「食事をとる」が76.8%、「トイレを使う」が76.0%となっている。

一方、「全部手助けが必要」と答えた割合が最も高かったのは、「日常の買い物」が23.8%で、次いで「家事（調理・洗濯・掃除）をする」が23.5%、「外出する」が19.7%となっている。（図Ⅱ-4-1）

図Ⅱ-4-1 日常生活動作能力



注1) できる、できないの判断について、現に補装具等を使用している人は、使用した状態で聞いている。

2) 総数は、10項目とも2,669人である。

(2) 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う
 - 障害名 [複数回答]、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別
 日常生活動作能力のうち、「b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする」を障害名別にみると、
 肢体不自由 (体幹) 及び肢体不自由 (脳原性運動機能障害) では「全部手助けが必要」
 は約 6 割となっている (61.4%、58.6%)。

「c トイレを使う」については、肢体不自由 (体幹) 及び肢体不自由 (脳原性運動機能障害) では「全部手助けが必要」が 3 割を超えている (32.5%、32.4%)。(表 II-4-1)

表 II-4-1 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする
 c トイレを使う) - 障害名 [複数回答]、身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別

	a 食事をとる						b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする						c トイレを使う										
	総数	一人で全部できる	一人でできるがスリム	一人でできるがスリムでない	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるがスリム	一人でできるがスリムでない	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるがスリム	一人でできるがスリムでない	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答		
総数	100.0 (2,669)	76.8	9.9	6.2	6.1	1.0	100.0 (2,669)	50.7	11.7	11.5	23.5	2.7	100.0 (2,669)	76.0	8.4	5.7	8.4	1.5					
身体障害者手帳の障害名 (複数回答) 別	視覚障害	100.0 (352)	71.9	13.9	9.9	2.8	1.4	100.0 (352)	38.9	15.6	18.2	23.9	3.4	100.0 (352)	81.3	7.1	6.3	4.0	1.4				
	聴覚障害	100.0 (404)	88.9	5.2	2.5	2.5	1.0	100.0 (404)	73.3	6.7	7.2	11.4	1.5	100.0 (404)	89.9	4.2	3.0	2.2	0.7				
	平衡機能障害	100.0 (14)	78.6	7.1	-	7.1	7.1	100.0 (14)	28.6	28.6	21.4	21.4	-	100.0 (14)	71.4	7.1	7.1	-	14.3				
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	75.5	10.4	7.1	5.2	1.9	100.0 (269)	55.4	8.2	12.3	21.2	3.0	100.0 (269)	78.4	7.8	6.3	4.5	3.0				
	肢体不自由 (上肢)	100.0 (486)	52.5	19.1	11.3	16.3	0.8	100.0 (486)	21.6	11.7	18.1	46.7	1.9	100.0 (486)	50.2	15.8	11.1	21.8	1.0				
	肢体不自由 (下肢)	100.0 (606)	68.6	12.7	8.3	9.1	1.3	100.0 (606)	34.8	13.4	15.3	34.3	2.1	100.0 (606)	61.9	14.0	8.1	14.0	2.0				
	肢体不自由 (体幹)	100.0 (295)	44.4	18.3	10.5	26.1	0.7	100.0 (295)	14.9	9.5	10.8	<u>61.4</u>	3.4	100.0 (295)	38.6	15.6	10.8	<u>32.5</u>	2.4				
	肢体不自由 (脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	44.3	14.6	14.6	25.9	0.6	100.0 (309)	15.2	9.1	14.9	<u>58.6</u>	2.3	100.0 (309)	42.7	11.0	12.6	<u>32.4</u>	1.3				
	内部障害	100.0 (779)	89.2	5.9	2.4	1.5	0.9	100.0 (779)	65.5	10.7	8.1	12.3	3.5	100.0 (779)	87.4	5.4	3.3	2.3	1.5				
身体障害者手帳の程度 (総合等級) 別	1級	100.0 (886)	67.0	10.3	8.1	13.5	1.0	100.0 (886)	40.5	9.8	11.6	35.0	3.0	100.0 (886)	65.1	8.2	7.8	17.2	1.7				
	2級	100.0 (465)	67.3	17.8	9.7	4.5	0.6	100.0 (465)	34.4	15.1	17.6	30.8	2.2	100.0 (465)	68.8	12.7	8.8	8.8	0.9				
	3級	100.0 (430)	84.0	8.8	4.0	1.9	1.4	100.0 (430)	62.6	12.3	8.4	14.9	1.9	100.0 (430)	84.0	8.6	3.7	2.1	1.6				
	4級	100.0 (582)	88.1	4.8	4.0	1.9	1.2	100.0 (582)	65.1	11.2	9.1	11.9	2.7	100.0 (582)	85.4	7.4	3.3	2.4	1.5				
	5級	100.0 (136)	85.3	10.3	2.2	1.5	0.7	100.0 (136)	53.7	11.0	13.2	18.4	3.7	100.0 (136)	87.5	5.9	2.2	4.4	-				
	6級	100.0 (161)	90.1	5.6	1.9	1.2	1.2	100.0 (161)	68.3	12.4	7.5	8.7	3.1	100.0 (161)	90.7	3.1	1.9	1.2	3.1				

(3) 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う)
 - 障害者になった時期、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別
 日常生活動作能力のうち、「b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする」を障害者になった時期別にみると、「出生前または出生時」及び「0～3歳」では、「全部手助けが必要」の割合が約4割となっている (41.4%、39.2%)。

現在一緒に生活している人別にみると、親、兄弟姉妹及びその他親族では「全部手助けが必要」の割合が3割を超えている (35.6%～43.8%)。(表II-4-2)

表II-4-2 日常生活動作能力 (a 食事をとる b 家事 (調理・洗濯・掃除) をする c トイレを使う) - 障害者になった時期、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	a 食事をとる						b 家事(調理・洗濯・掃除)をする						c トイレを使う						
	総数	一人で全部できる	一人でできるがスライズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるがスライズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるがスライズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	
総数	100.0 (2,669)	76.8	9.9	6.2	6.1	1.0	100.0 (2,669)	50.7	11.7	11.5	23.5	2.7	100.0 (2,669)	76.0	8.4	5.7	8.4	1.5	
障害者になった時期別	出生前または出生時	100.0 (394)	59.1	10.2	10.4	19.3	1.0	100.0 (394)	33.8	8.9	13.7	41.4	2.3	100.0 (394)	57.9	7.4	9.9	23.4	1.5
	0～3歳	100.0 (120)	67.5	5.8	12.5	13.3	0.8	100.0 (120)	43.3	10.0	5.8	39.2	1.7	100.0 (120)	65.0	6.7	10.0	16.7	1.7
	4～12歳	100.0 (64)	85.9	3.1	3.1	4.7	3.1	100.0 (64)	60.9	9.4	12.5	17.2	-	100.0 (64)	82.8	6.3	3.1	6.3	1.6
	13～17歳	100.0 (36)	83.3	11.1	2.8	-	2.8	100.0 (36)	55.6	2.8	22.2	11.1	8.3	100.0 (36)	80.6	8.3	2.8	2.8	5.6
	18～29歳	100.0 (113)	85.8	7.1	4.4	2.7	-	100.0 (113)	62.8	10.6	11.5	14.2	0.9	100.0 (113)	85.8	9.7	0.9	3.5	-
	30～39歳	100.0 (134)	84.3	11.2	2.2	0.7	1.5	100.0 (134)	56.7	21.6	13.4	6.7	1.5	100.0 (134)	90.3	7.5	1.5	-	0.7
	40～49歳	100.0 (226)	77.9	13.3	5.8	2.2	0.9	100.0 (226)	50.0	14.6	11.9	21.7	1.8	100.0 (226)	76.1	13.7	4.4	4.4	1.3
	50～59歳	100.0 (402)	80.3	10.7	5.0	3.5	0.5	100.0 (402)	55.5	15.7	10.0	17.2	1.7	100.0 (402)	80.1	9.2	4.7	4.7	1.2
	60～69歳	100.0 (384)	81.5	9.6	4.2	3.9	0.8	100.0 (384)	57.6	10.2	9.4	20.1	2.9	100.0 (384)	80.5	6.8	5.5	6.0	1.3
	70歳以上	100.0 (564)	80.3	10.3	4.8	3.7	0.9	100.0 (564)	50.9	10.5	12.4	22.0	4.3	100.0 (564)	80.1	7.6	4.8	6.0	1.4
不明	100.0 (182)	76.4	9.9	8.2	5.5	-	100.0 (182)	54.4	8.8	9.3	26.9	0.5	100.0 (182)	72.5	9.9	8.2	8.8	0.5	
(再掲) 65歳以上	100.0 (726)	80.6	10.6	4.0	4.0	0.8	100.0 (726)	52.9	9.6	11.7	21.6	4.1	100.0 (726)	79.8	7.7	5.0	6.1	1.5	
総数	100.0 (2,545)	78.7	9.7	5.7	4.9	1.0	100.0 (2,545)	52.7	11.9	11.6	21.2	2.6	100.0 (2,545)	78.5	8.3	5.0	6.7	1.4	
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	100.0 (381)	59.1	11.0	13.1	16.0	0.8	100.0 (381)	29.7	9.7	15.0	43.8	1.8	100.0 (381)	58.0	10.5	10.5	19.7	1.3
	配偶者	100.0 (1,230)	83.6	8.9	4.2	2.4	0.9	100.0 (1,230)	57.3	11.6	10.2	17.3	3.6	100.0 (1,230)	83.8	6.9	4.0	3.7	1.5
	子供	100.0 (654)	82.4	8.3	5.0	3.4	0.9	100.0 (654)	55.7	11.9	10.7	19.0	2.8	100.0 (654)	81.2	8.9	3.8	4.9	1.2
	兄弟姉妹	100.0 (171)	65.5	9.4	14.0	10.5	0.6	100.0 (171)	35.7	10.5	14.6	37.4	1.8	100.0 (171)	66.1	7.6	8.8	17.0	0.6
	その他の親族	100.0 (59)	78.0	11.9	3.4	6.8	-	100.0 (59)	40.7	10.2	10.2	35.6	3.4	100.0 (59)	69.5	11.9	11.9	6.8	-
	その他	100.0 (47)	59.6	8.5	23.4	8.5	-	100.0 (47)	34.0	4.3	17.0	42.6	2.1	100.0 (47)	55.3	10.6	21.3	12.8	-
	一人で暮らしている	100.0 (597)	84.4	9.4	2.7	2.7	0.8	100.0 (597)	61.8	15.4	12.2	9.5	1.0	100.0 (597)	85.3	7.5	2.5	3.7	1.0

注) 「現在一緒に生活している人」〔複数回答〕別は在宅者を対象とした設問のため、総数は2,545人である。

(4) 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害名〔複数回答〕、身体障害者手帳の程度（総合等級）別

日常生活動作能力のうち、「d 着替えをする」を障害名別にみると、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「全部手助けが必要」の割合が3割を超えている（34.9%、34.3%）。「e 入浴をする」を障害別にみると、肢体不自由（体幹）と肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「全部助けが必要」の割合が4割を超えている（43.4%、40.8%）。

「e 入浴をする」を身体障害者手帳の程度別にみると、1級では「全部手助けが必要」の割合が24.8%となっている。（表Ⅱ-4-3）

表Ⅱ-4-3 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害名〔複数回答〕、身体障害者手帳の程度（総合等級）別

	d 着替えをする						e 入浴をする						f 寝返りをする										
	総数	一人で全部できる	一人でできるがスリ	一人でできるがスリ	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるがスリ	一人でできるがスリ	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるがスリ	一人でできるがスリ	一部手助けがあれば	全部手助けが必要	無回答		
総数	100.0 (2,669)	70.4	11.7	7.6	9.1	1.2	100.0 (2,669)	67.8	8.3	8.6	13.9	1.4	100.0 (2,669)	79.1	10.5	3.0	5.9	1.5					
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (352)	78.1	8.2	7.7	4.5	1.4	100.0 (352)	75.0	6.8	7.7	8.8	1.7	100.0 (352)	87.2	6.5	2.3	2.3	1.7				
	聴覚障害	100.0 (404)	86.9	6.4	3.2	3.0	0.5	100.0 (404)	83.4	4.2	5.2	6.2	1.0	100.0 (404)	90.8	5.2	1.7	1.2	1.0				
	平衡機能障害	100.0 (14)	64.3	28.6	-	7.1	-	100.0 (14)	64.3	21.4	7.1	-	7.1	100.0 (14)	85.7	7.1	-	-	7.1				
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	73.2	10.4	8.6	5.9	1.9	100.0 (269)	71.4	8.2	8.9	9.7	1.9	100.0 (269)	80.7	11.2	2.6	3.7	1.9				
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	38.1	22.4	15.0	24.1	0.4	100.0 (486)	37.2	14.6	15.8	31.7	0.6	100.0 (486)	55.3	21.2	6.0	16.5	1.0				
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	52.6	18.3	12.5	15.2	1.3	100.0 (606)	50.5	12.0	12.5	23.4	1.5	100.0 (606)	64.5	17.3	5.0	11.2	2.0				
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	29.2	19.7	14.9	<u>34.9</u>	1.4	100.0 (295)	22.0	14.9	18.0	<u>43.4</u>	1.7	100.0 (295)	41.4	21.4	8.1	26.8	2.4				
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	35.9	14.2	14.6	<u>34.3</u>	1.0	100.0 (309)	33.3	9.7	14.9	<u>40.8</u>	1.3	100.0 (309)	55.7	18.8	5.8	18.1	1.6				
	内部障害	100.0 (779)	83.2	8.2	4.6	2.7	1.3	100.0 (779)	81.1	5.3	5.8	6.3	1.5	100.0 (779)	89.6	5.5	1.7	1.7	1.5				
身体障害者手帳の程度(総合等級)別	1級	100.0 (886)	60.7	10.3	8.6	19.0	1.5	100.0 (886)	57.7	6.1	9.7	<u>24.8</u>	1.7	100.0 (886)	70.3	11.5	4.4	12.2	1.6				
	2級	100.0 (465)	59.8	17.6	12.3	9.5	0.9	100.0 (465)	54.6	15.3	14.4	15.1	0.6	100.0 (465)	73.1	15.1	4.5	5.4	1.9				
	3級	100.0 (430)	77.4	12.8	6.0	2.6	1.2	100.0 (430)	76.3	8.8	6.7	6.7	1.4	100.0 (430)	84.9	10.0	2.1	1.6	1.4				
	4級	100.0 (582)	82.6	9.1	4.8	2.4	1.0	100.0 (582)	81.1	6.0	4.6	6.7	1.5	100.0 (582)	87.8	7.7	1.4	1.7	1.4				
	5級	100.0 (136)	77.9	12.5	6.6	2.9	-	100.0 (136)	75.0	8.8	9.6	6.6	-	100.0 (136)	87.5	6.6	1.5	4.4	-				
	6級	100.0 (161)	83.9	8.7	4.3	1.2	1.9	100.0 (161)	83.9	6.2	5.0	2.5	2.5	100.0 (161)	91.9	5.6	-	0.6	1.9				

(5) 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害者になった時期、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別
日常生活動作能力のうち、「d 着替えをする」及び「e 入浴をする」を障害者になった
時期別にみると、「出生前または出生時」では「全部手助けが必要」の割合がそれぞれ
24.9%、28.9%となっている。(表Ⅱ-4-4)

表Ⅱ-4-4 日常生活動作能力 (d 着替えをする e 入浴をする f 寝返りをする)

－障害者になった時期、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	d 着替えをする						e 入浴をする						f 寝返りをする						
	総 数	一 人 で 全 部 で 可 能	一 人 で 可 能 な が ら い	一 部 手 助 け が あ ら ば 可 能	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	一 人 で 全 部 で 可 能	一 人 で 可 能 な が ら い	一 部 手 助 け が あ ら ば 可 能	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	総 数	一 人 で 全 部 で 可 能	一 人 で 可 能 な が ら い	一 部 手 助 け が あ ら ば 可 能	全 部 手 助 け が 必 要	無 回 答	
総数	100.0 (2,669)	70.4	11.7	7.6	9.1	1.2	100.0 (2,669)	67.8	8.3	8.6	13.9	1.4	100.0 (2,669)	79.1	10.5	3.0	5.9	1.5	
障害者 になっ た時 期別	出生前または出生時	100.0 (394)	53.3	10.9	9.6	24.9	1.3	100.0 (394)	53.0	5.8	10.7	28.9	1.5	100.0 (394)	68.8	11.7	5.1	12.7	1.8
	0～3歳	100.0 (120)	61.7	6.7	12.5	17.5	1.7	100.0 (120)	56.7	8.3	10.8	22.5	1.7	100.0 (120)	73.3	14.2	1.7	9.2	1.7
	4～12歳	100.0 (64)	81.3	4.7	4.7	9.4	-	100.0 (64)	75.0	6.3	6.3	10.9	1.6	100.0 (64)	87.5	6.3	1.6	3.1	1.6
	13～17歳	100.0 (36)	72.2	16.7	5.6	2.8	2.8	100.0 (36)	75.0	5.6	2.8	13.9	2.8	100.0 (36)	83.3	11.1	2.8	-	2.8
	18～29歳	100.0 (113)	81.4	11.5	3.5	3.5	-	100.0 (113)	81.4	9.7	4.4	4.4	-	100.0 (113)	92.0	5.3	-	2.7	-
	30～39歳	100.0 (134)	79.9	15.7	3.7	-	0.7	100.0 (134)	81.3	11.2	6.0	0.7	0.7	100.0 (134)	85.8	10.4	0.7	0.7	2.2
	40～49歳	100.0 (226)	68.6	17.3	6.6	6.6	0.9	100.0 (226)	67.7	11.9	8.0	11.5	0.9	100.0 (226)	79.6	12.4	2.2	4.4	1.3
	50～59歳	100.0 (402)	74.9	11.9	8.0	4.2	1.0	100.0 (402)	71.4	10.7	8.5	8.5	1.0	100.0 (402)	78.1	13.4	2.7	4.7	1.0
	60～69歳	100.0 (384)	73.2	11.5	6.8	7.8	0.8	100.0 (384)	72.1	7.3	8.1	11.5	1.0	100.0 (384)	81.0	8.9	2.6	6.5	1.0
	70歳以上	100.0 (564)	74.8	11.3	6.7	6.0	1.1	100.0 (564)	70.2	6.0	9.2	13.3	1.2	100.0 (564)	82.4	8.7	3.0	4.4	1.4
	不明	100.0 (182)	67.6	10.4	12.6	8.8	0.5	100.0 (182)	62.1	9.3	9.9	17.0	1.6	100.0 (182)	78.0	9.9	6.0	6.0	-
(再掲) 65歳以上	100.0 (726)	74.9	11.6	6.5	6.2	0.8	100.0 (726)	70.9	5.8	9.0	13.1	1.2	100.0 (726)	82.1	8.5	2.9	5.2	1.2	
総数	100.0 (2,545)	72.9	11.6	6.8	7.5	1.1	100.0 (2,545)	70.3	8.4	8.1	11.8	1.3	100.0 (2,545)	81.4	9.9	2.7	4.6	1.4	
現在一 緒に 生活 して いる 人 〔複 数 回 答〕 別	親	100.0 (381)	53.5	12.3	13.1	20.2	0.8	100.0 (381)	50.9	8.9	14.4	24.7	1.0	100.0 (381)	70.6	14.4	4.5	9.2	1.3
	配偶者	100.0 (1,230)	77.7	9.7	6.5	4.9	1.2	100.0 (1,230)	76.3	7.2	7.2	7.9	1.4	100.0 (1,230)	83.7	8.5	2.4	3.7	1.6
	子供	100.0 (654)	75.8	11.5	6.0	5.7	1.1	100.0 (654)	74.6	6.0	6.6	11.3	1.5	100.0 (654)	82.9	9.3	2.3	4.0	1.5
	兄弟姉妹	100.0 (171)	58.5	12.3	11.7	17.0	0.6	100.0 (171)	55.6	10.5	10.5	22.8	0.6	100.0 (171)	73.1	14.6	4.1	7.6	0.6
	その他の親族	100.0 (59)	66.1	13.6	11.9	8.5	-	100.0 (59)	61.0	1.7	15.3	22.0	-	100.0 (59)	79.7	13.6	1.7	5.1	-
	その他	100.0 (47)	51.1	12.8	25.5	10.6	-	100.0 (47)	42.6	6.4	29.8	21.3	-	100.0 (47)	76.6	10.6	6.4	6.4	-
	一人で暮らしている	100.0 (597)	79.6	13.1	1.8	4.9	0.7	100.0 (597)	75.7	10.9	4.4	8.0	1.0	100.0 (597)	85.9	8.7	2.2	2.3	0.8

注)「現在一緒に生活している人」〔複数回答〕別は在宅者を対象とした設問のため、総数は2,545人である。

(6) 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出する i 日常の買い物 j 薬の管理)

－障害名〔複数回答〕、身体障害者手帳の程度(総合等級)別

日常生活動作能力のうち、「h 外出する」を障害名別にみると、肢体不自由(体幹)及び肢体不自由(脳原性運動機能障害)では「全部手助けが必要」の割合が約5割となっている(51.2%、47.6%)。「i 日常の買い物」については、肢体不自由(体幹)及び肢体不自由(脳原性運動機能障害)では「全部手助けが必要」の割合が5割を超えている(55.9%、50.5%)。「j 薬の管理」については、肢体不自由(体幹)及び肢体不自由(脳原性運動機能障害)では、「全部手助けが必要」の割合が約4割となっている(38.3%、41.4%)。

「i 日常の買い物」を身体障害者手帳の程度別にみると、1級及び2級では「全部手助けが必要」の割合が3割を超えている(35.6%、31.6%)。(表II-4-5)

表II-4-5 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出する i 日常の買い物 j 薬の管理)

－障害名〔複数回答〕、身体障害者手帳の程度(総合等級)別

	g 家の中を移動する						h 外出する						i 日常の買い物						j 薬の管理						
	総数	一人で全部できる	一人でできるがスライズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるがスライズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるがスライズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるがスライズにはできない	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	
総数	100.0 (2,669)	73.0	12.9	4.9	7.6	1.6	100.0 (2,669)	55.2	12.7	10.8	19.7	1.6	100.0 (2,669)	51.9	12.0	10.6	23.8	1.7	100.0 (2,669)	69.5	6.5	7.7	15.2	1.1	
身体障害者手帳の障害名 (複数回答)別	視覚障害	100.0 (352)	74.1	14.8	4.5	5.1	1.4	100.0 (352)	40.9	15.1	17.0	24.7	2.3	100.0 (352)	36.9	14.8	16.5	30.4	1.4	100.0 (352)	59.9	7.1	12.5	19.0	1.4
	聴覚障害	100.0 (404)	87.6	6.2	2.7	2.7	0.7	100.0 (404)	75.7	7.7	5.9	9.4	1.2	100.0 (404)	72.3	7.9	5.7	12.9	1.2	100.0 (404)	79.5	6.2	4.0	9.7	0.7
	平衡機能障害	100.0 (14)	64.3	28.6	0.0	0.0	7.1	100.0 (14)	21.4	28.6	28.6	14.3	7.1	100.0 (14)	21.4	35.7	21.4	21.4	0.0	100.0 (14)	71.4	14.3	0.0	14.3	0.0
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	78.1	12.6	3.0	3.3	3.0	100.0 (269)	63.2	11.2	11.9	11.2	2.6	100.0 (269)	56.1	12.3	12.3	17.5	1.9	100.0 (269)	66.5	9.7	10.0	12.3	1.5
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	49.8	21.8	9.9	16.9	1.6	100.0 (486)	30.2	16.3	15.8	36.6	1.0	100.0 (486)	27.2	15.8	12.8	42.6	1.6	100.0 (486)	49.6	9.5	11.7	28.8	0.4
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	57.9	19.8	7.9	12.0	2.3	100.0 (606)	38.9	17.2	14.2	28.1	1.7	100.0 (606)	37.6	15.7	10.7	34.0	2.0	100.0 (606)	60.9	9.2	8.7	20.0	1.2
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	34.6	21.4	12.9	28.8	2.4	100.0 (295)	18.0	14.2	15.3	51.2	1.4	100.0 (295)	17.3	10.5	13.9	55.9	2.4	100.0 (295)	39.7	9.2	11.9	38.3	1.0
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	43.0	18.4	12.6	23.9	1.9	100.0 (309)	25.9	12.3	13.3	47.6	1.0	100.0 (309)	24.6	10.0	13.9	50.5	1.0	100.0 (309)	40.8	6.5	9.7	41.4	1.6
内部障害	100.0 (779)	84.9	8.6	2.1	3.0	1.5	100.0 (779)	69.6	10.7	8.1	10.0	1.7	100.0 (779)	66.0	9.8	9.2	13.1	1.9	100.0 (779)	82.4	4.6	5.8	6.0	1.2	
身体障害者手帳の程度(総合等級)別	1級	100.0 (886)	63.1	13.4	7.0	14.8	1.7	100.0 (886)	44.8	10.6	10.8	32.2	1.6	100.0 (886)	41.5	9.0	12.2	35.6	1.7	100.0 (886)	58.7	6.5	9.5	23.8	1.5
	2級	100.0 (465)	63.2	19.1	8.2	7.7	1.7	100.0 (465)	39.4	17.4	16.3	25.6	1.3	100.0 (465)	37.2	17.4	12.5	31.6	1.3	100.0 (465)	60.2	9.2	11.4	18.3	0.9
	3級	100.0 (430)	81.4	11.9	2.3	2.8	1.6	100.0 (430)	65.1	14.9	8.1	10.7	1.2	100.0 (430)	62.1	13.0	7.4	15.8	1.6	100.0 (430)	80.2	5.8	4.7	8.6	0.7
	4級	100.0 (582)	84.0	8.8	3.1	2.6	1.5	100.0 (582)	71.5	10.0	8.6	8.2	1.7	100.0 (582)	66.7	10.7	9.6	11.3	1.7	100.0 (582)	79.9	5.0	6.2	7.7	1.2
	5級	100.0 (136)	82.4	12.5	0.7	4.4	-	100.0 (136)	60.3	13.2	13.2	13.2	-	100.0 (136)	56.6	12.5	11.0	18.4	1.5	100.0 (136)	78.7	6.6	4.4	10.3	-
	6級	100.0 (161)	85.7	9.9	1.9	0.6	1.9	100.0 (161)	68.9	14.9	7.5	5.6	3.1	100.0 (161)	65.8	14.3	8.1	9.3	2.5	100.0 (161)	80.1	5.6	4.3	8.1	1.9

(7) 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出する i 日常の買い物 j 薬の管理)

－障害者になった時期、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別
日常生活動作能力のうち、「h 外出する」、「i 日常の買い物」、「j 薬の管理」をそれぞれ障害者になった時期別にみると、「出生前または出生時」では「全部手助けが必要」の割合が3割を超えている (34.5%、37.6%、30.5%)。

「i 日常の買い物」を現在一緒に生活している人別にみると、親、兄弟姉妹及びその他親族では「全部手助けが必要」の割合が3割を超えている (33.9%～38.3%)。

(表 II-4-6)

表 II-4-6 日常生活動作能力 (g 家の中を移動する h 外出する i 日常の買い物 j 薬の管理)
－障害者になった時期、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

	g 家の中を移動する						h 外出する						i 日常の買い物						j 薬の管理						
	総数	一人で全部できる	一人でできるが難しい	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるが難しい	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるが難しい	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	総数	一人で全部できる	一人でできるが難しい	一部手助けがあればできる	全部手助けが必要	無回答	
総数	1000 (2,669)	73.0	12.9	4.9	7.6	1.6	100.0	55.2	12.7	10.8	19.7	1.6	100.0	51.9	12.0	10.6	23.8	1.7	100.0	69.5	6.5	7.7	15.2	1.1	
障害者になった時期別	出生前または出生時	1000 (394)	58.4	13.2	9.4	17.5	1.5	100.0	41.9	11.9	10.7	34.5	1.0	100.0	40.1	9.4	11.4	37.6	1.5	100.0	53.8	5.1	9.1	30.5	1.5
	0～3歳	1000 (120)	69.2	10.8	5.8	11.7	2.5	100.0	51.7	6.7	10.8	29.2	1.7	100.0	45.0	9.2	13.3	30.8	1.7	100.0	63.3	4.2	4.2	25.8	2.5
	4～12歳	1000 (64)	82.8	7.8	1.6	4.7	3.1	100.0	64.1	6.3	10.9	15.6	3.1	100.0	60.9	4.7	10.9	21.9	1.6	100.0	78.1	3.1	4.7	12.5	1.6
	13～17歳	1000 (36)	75.0	11.1	8.3	0.0	5.6	100.0	58.3	11.1	16.7	11.1	2.8	100.0	58.3	5.6	13.9	19.4	2.8	100.0	72.2	2.8	11.1	11.1	2.8
	18～29歳	1000 (113)	84.1	11.5	2.7	1.8	-	100.0	70.8	14.2	7.1	8.0	-	100.0	64.6	15.9	10.6	8.8	-	100.0	82.3	4.4	7.1	6.2	-
	30～39歳	1000 (134)	82.1	16.4	0.7	-	0.7	100.0	59.0	26.1	9.0	5.2	0.7	100.0	57.5	24.6	9.7	6.7	1.5	100.0	84.3	5.2	6.7	3.0	0.7
	40～49歳	1000 (226)	73.5	15.9	5.3	4.4	0.9	100.0	54.4	13.7	12.4	18.6	0.9	100.0	50.4	12.8	13.3	22.1	1.3	100.0	73.5	8.4	5.3	11.9	0.9
	50～59歳	1000 (402)	74.6	14.7	4.7	5.0	1.0	100.0	60.0	15.7	9.2	14.7	0.5	100.0	56.2	14.2	9.7	18.4	1.5	100.0	76.4	8.7	5.7	8.5	0.7
	60～69歳	1000 (384)	75.5	12.2	4.9	6.3	1.0	100.0	59.6	9.6	11.2	18.2	1.3	100.0	57.8	10.9	7.3	22.4	1.6	100.0	73.7	7.8	6.3	11.7	0.5
	70歳以上	1000 (564)	76.8	11.3	3.0	7.3	1.6	100.0	54.1	12.4	12.2	19.3	2.0	100.0	49.5	11.2	11.9	25.5	2.0	100.0	67.2	5.5	11.0	15.2	1.1
不明	1000 (182)	70.9	12.1	6.6	9.3	1.1	100.0	56.6	9.3	9.9	22.0	2.2	100.0	54.9	9.9	8.8	25.3	1.1	100.0	65.4	6.6	9.3	18.7	-	
(再掲) 65歳以上	1000 (726)	76.4	11.3	3.4	7.6	1.2	100.0	56.1	11.3	11.4	19.3	1.9	100.0	52.1	10.6	10.5	24.8	2.1	100.0	68.7	6.1	9.9	14.5	0.8	
総数	1000 (2,545)	75.3	13.0	4.4	5.8	1.5	100.0	57.4	13.0	10.8	17.3	1.6	100.0	53.9	12.4	10.6	21.5	1.6	100.0	72.2	6.6	7.2	12.9	1.1	
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	1000 (381)	60.1	15.0	9.7	13.9	1.3	100.0	39.6	11.8	15.2	32.3	1.0	100.0	36.7	10.8	13.1	38.3	1.0	100.0	51.2	7.1	10.0	30.7	1.0
	配偶者	1000 (1,230)	79.6	11.7	2.8	4.4	1.5	100.0	62.4	12.2	10.5	13.4	1.5	100.0	58.4	11.8	10.3	17.7	1.8	100.0	77.0	6.4	6.6	9.1	0.9
	子供	1000 (654)	77.8	12.5	3.1	5.0	1.5	100.0	58.7	12.1	11.2	16.2	1.8	100.0	55.5	12.7	9.3	20.6	1.8	100.0	73.9	5.8	7.2	12.2	0.9
	兄弟姉妹	1000 (171)	65.5	12.9	9.9	11.1	0.6	100.0	42.1	12.9	14.0	29.8	1.2	100.0	42.7	8.2	14.0	34.5	0.6	100.0	58.5	7.6	6.4	26.3	1.2
	その他の親族	1000 (59)	69.5	20.3	3.4	6.8	-	100.0	45.8	10.2	15.3	28.8	-	100.0	44.1	11.9	10.2	33.9	-	100.0	52.5	6.8	10.2	30.5	-
	その他	1000 (47)	61.7	12.8	14.9	10.6	-	100.0	38.3	12.8	14.9	34.0	-	100.0	38.3	10.6	10.6	40.4	-	100.0	42.6	6.4	14.9	36.2	-
一人で暮らしている	1000 (597)	80.6	13.2	2.5	2.7	1.0	100.0	65.7	15.6	7.7	9.9	1.2	100.0	61.3	15.6	9.2	12.9	1.0	100.0	82.9	6.4	5.9	4.0	0.8	

注) 「現在一緒に生活している人」〔複数回答〕別は在宅者を対象とした設問のため、総数は2,545人である。

(8) 外出するときに使う手段やサービス（視覚障害者）〔複数回答〕－性・年齢階級別

「^{かぞく}家族、^{ゆうじん}友人の^{どうこう}同行やサポートのもと^{がいしゅつ}外出する」が 48.9%、「^{ひとり}一人で^{ある}歩いて^{がいしゅつ}外出する（^{とくに}特に何も必要としない）」が 38.9%

視覚障害者（352人）に、外出するときどのような手段やサービスを使っているか聞いたところ、「家族、友人の同行やサポートのもと外出する」が 48.9%、「一人で歩いて外出する（特に何も必要としない）」が 38.9%、「白杖を使って外出する」が 32.1%となっている。

性・年齢階級別にみると「スマートフォンアプリを利用して外出する」の割合は、40歳代以下の各階級では2割を超えている（23.7%～26.7%）。（表Ⅱ-4-7）

表Ⅱ-4-7 外出するときに使う手段やサービス（視覚障害者）〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総数	一人 （特 に 何 も 必 要 と し な い ） で 歩 い て 外 出 す る	白 杖 を 使 っ て 外 出 す る	盲 導 犬 を 使 っ て 外 出 す る	ス マ ー ト フ ォ ン ア プ リ を 利 用 し て 外 出 す る	支 援 し て 外 出 す る （ 移 動 ヘ ル パ ー ）	サ ポ ー ト 、 友 人 の 同 行 や 外 出 す る	無 回 答
総数	100.0 (352)	<u>38.9</u>	<u>32.1</u>	-	6.3	21.0	<u>48.9</u>	5.4
29歳以下	100.0 (15)	20.0	60.0	-	<u>26.7</u>	46.7	60.0	-
30～39歳	100.0 (12)	41.7	33.3	-	<u>25.0</u>	25.0	50.0	8.3
40～49歳	100.0 (38)	47.4	34.2	-	<u>23.7</u>	21.1	44.7	2.6
50～59歳	100.0 (47)	48.9	27.7	-	6.4	17.0	42.6	4.3
60～69歳	100.0 (66)	45.5	33.3	-	4.5	25.8	50.0	1.5
70～79歳	100.0 (76)	39.5	32.9	-	-	17.1	48.7	7.9
80歳以上	100.0 (98)	28.6	27.6	-	-	18.4	51.0	8.2
（再掲）65歳以上	100.0 (208)	36.1	29.8	-	-	18.8	50.5	6.7

5 就労の状況

(1) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

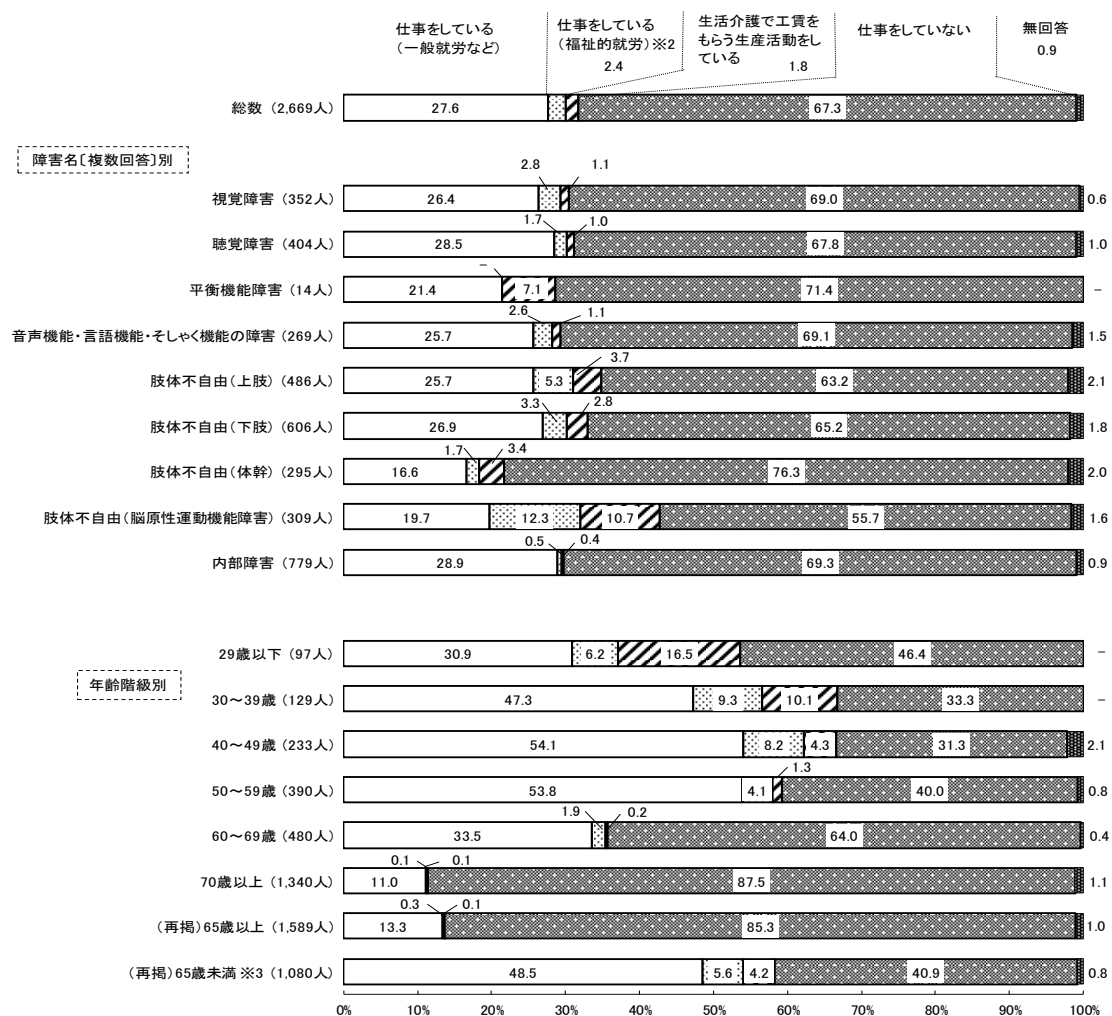
「^{しごと}仕事をしている（^{いっばんしゅうろう}一般就労など）」は^{さいいみまん}65歳未満では48.5%

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている（一般就労※1など）」の割合は27.6%、「仕事をしている（福祉的就労※2）」は2.4%、「生活介護で工賃をもらう生産活動をしている」は1.8%、「仕事をしていない」は67.3%となっている。

障害名別にみると、「仕事をしている（一般就労など）」の割合は内部障害では28.9%、「仕事をしている（福祉的就労）」は肢体不自由（脳原性運動機能障害）では12.3%となっている。

年齢階級別にみると、「仕事をしている（一般就労など）」の割合は、65歳未満では48.5%となっている。（図Ⅱ-5-1）

図Ⅱ-5-1 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別



注1) ※1 「一般就労」とは、企業などに就職し、雇用契約を結んで働くこと。

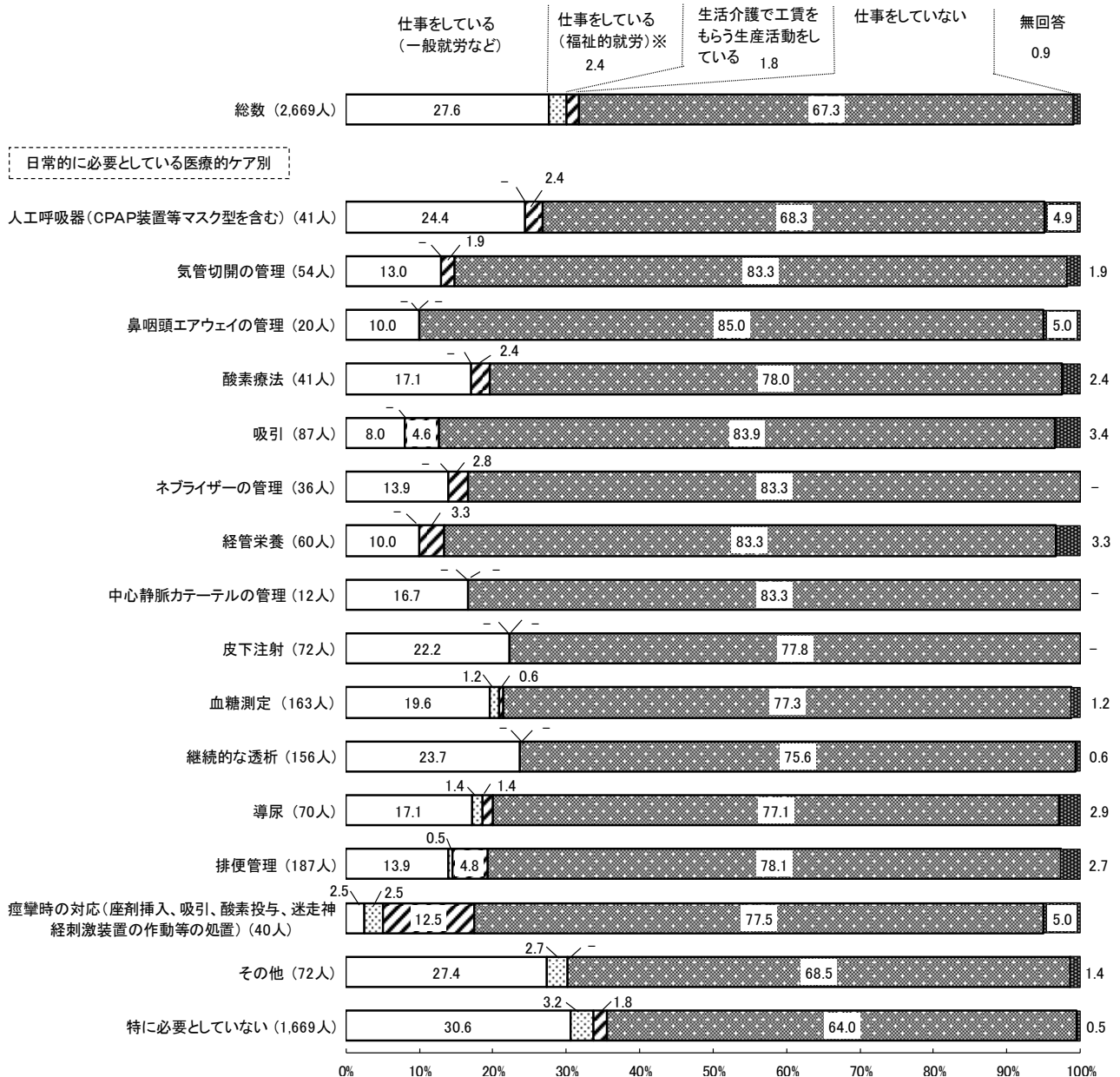
2) ※2 「福祉的就労」とは、一般就労が難しい障害のある方が障害福祉サービスの中で就労の機会を選択しながら働くこと。障害者総合支援法に基づく就労継続支店事業所などで作業を行う。ここでは、「就労継続支援A型で働いている」、「就労継続支援B型で働いている」、「就労移行支援の事業所で働いている」を合わせた割合を計上している。

3) ※3 本項目については、他の障害種別との比較のため、「65歳未満」を再掲で表示している。

(2) 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－医療的ケアの内容別〔複数回答〕

収入を伴う仕事の状況について、日常的に必要なとしている医療的ケアの有無別にみると、何らかの医療的ケアを必要としている人の「仕事をしている（一般就労など）」割合は、医療的ケアを「特に必要としていない」人（30.6%）よりも低くなっている（2.5%～27.4%）。（図Ⅱ-5-2）

図Ⅱ-5-2 収入を伴う仕事の有無（調査基準日現在）－医療的ケアの内容別〔複数回答〕



注) ※ ここでは、「就労継続支援 A 型で働いている」、「就労継続支援 B 型で働いている」、「就労移行支援の事業所で働いている」を合わせた割合を計上している。

(3) 雇用形態〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

正規の職員・従業員は41.8%で、平成30年度調査と比べて8.1ポイント増加

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した人（736人）に雇用形態を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が41.8%、「非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））」が31.9%、「自営業」が14.5%となっている。正規の職員・従業員の割合は、平成30年度（33.7%）と比べて8.1ポイント増えている。

障害名別にみると、「正規の職員・従業員」の割合は、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由（上肢）及び内部障害で4割を超えている（44.1%、49.6%、40.8%、44.0%）。

年齢階級別にみると、「正規の職員・従業員」の割合は、40代以下の年齢階級で6割を超えている（60.3%～67.2%）。（表Ⅱ-5-1）

表Ⅱ-5-1 雇用形態〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	正規の職員・従業員	会社等の役員	派遣職員等（パート・アルバイト・日雇等を含む職員）	自営業	家業の手伝い	内職	その他	無回答	
総数	100.0 (736)	41.8	9.8	31.9	14.5	1.5	-	2.0	2.0	
身体障害者手帳の障害名 〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (93)	44.1	6.5	28.0	18.3	2.2	-	1.1	2.2
	聴覚障害	100.0 (115)	49.6	6.1	30.4	13.0	1.7	-	1.7	0.9
	平衡機能障害	100.0 (3)	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (69)	33.3	10.1	37.7	17.4	1.4	-	1.4	4.3
	肢体不自由(上肢)	100.0 (125)	40.8	10.4	36.0	9.6	1.6	-	4.0	3.2
	肢体不自由(下肢)	100.0 (163)	36.8	11.0	36.8	11.7	2.5	-	3.1	3.1
	肢体不自由(体幹)	100.0 (49)	38.8	8.2	34.7	14.3	-	-	4.1	2.0
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (61)	39.3	3.3	45.9	9.8	-	-	6.6	1.6
内部障害	100.0 (225)	44.0	13.8	26.7	16.0	1.3	-	1.3	1.3	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (30)	66.7	-	30.0	-	3.3	-	-	-
	30～39歳	100.0 (61)	67.2	1.6	26.2	4.9	-	-	3.3	1.6
	40～49歳	100.0 (126)	60.3	2.4	27.0	8.7	-	-	0.8	0.8
	50～59歳	100.0 (210)	53.3	8.6	29.0	9.5	1.0	-	0.5	1.9
	60歳以上	100.0 (309)	19.1	16.2	37.2	23.6	2.6	-	3.6	2.9
	(再掲)65歳以上	100.0 (212)	10.8	17.5	37.7	28.8	3.3	-	3.8	3.8
平成30年度	100.0 (578)	33.7	9.9	33.0	17.5	1.9	1.2	1.9	2.4	

(4) 1週間の就労日数－障害名〔複数回答〕、雇用形態〔複数回答〕別

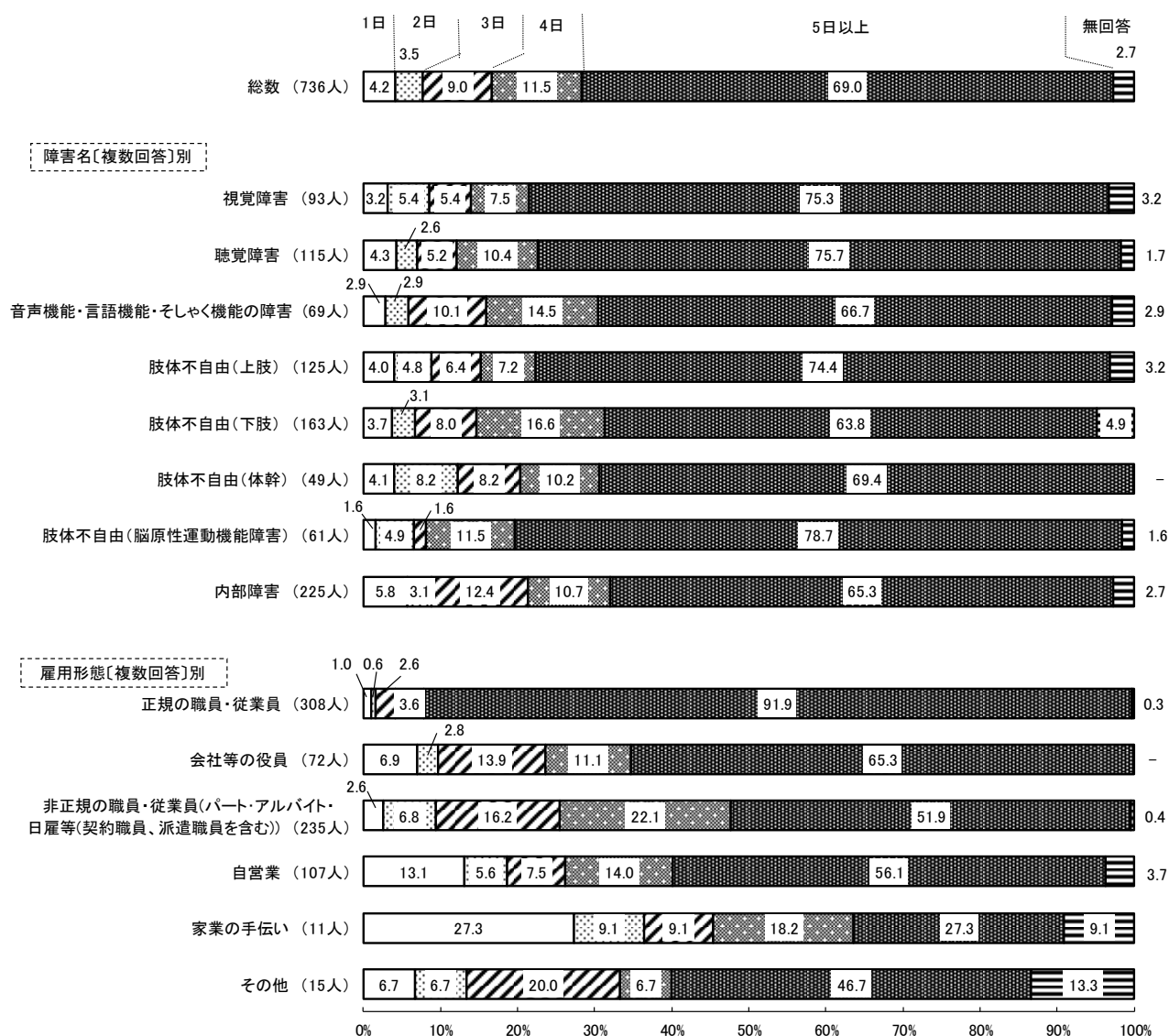
1週間の就労日数は「5日以上」が69.0%

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した人（736人）に1週間の就労日数を聞いたところ、「5日以上」の割合が最も高く69.0%となっている。

障害名別にみると、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「5日以上」の割合が7割を超えている（75.3%、75.7%、74.4%、78.7%）。

雇用形態別にみると、「5日以上」の割合は、正規の職員・従業員が91.9%となっている。（図Ⅱ-5-3）

図Ⅱ-5-3 1週間の就労日数－障害名〔複数回答〕、雇用形態〔複数回答〕別



注1) 障害名〔複数回答〕別のうち、「平衡機能障害」は3人のため省略した。

2) 雇用形態〔複数回答〕別のうち、「内職」は0人のため省略した。

(5) 1週間の労働時間－障害名〔複数回答〕、雇用形態〔複数回答〕別

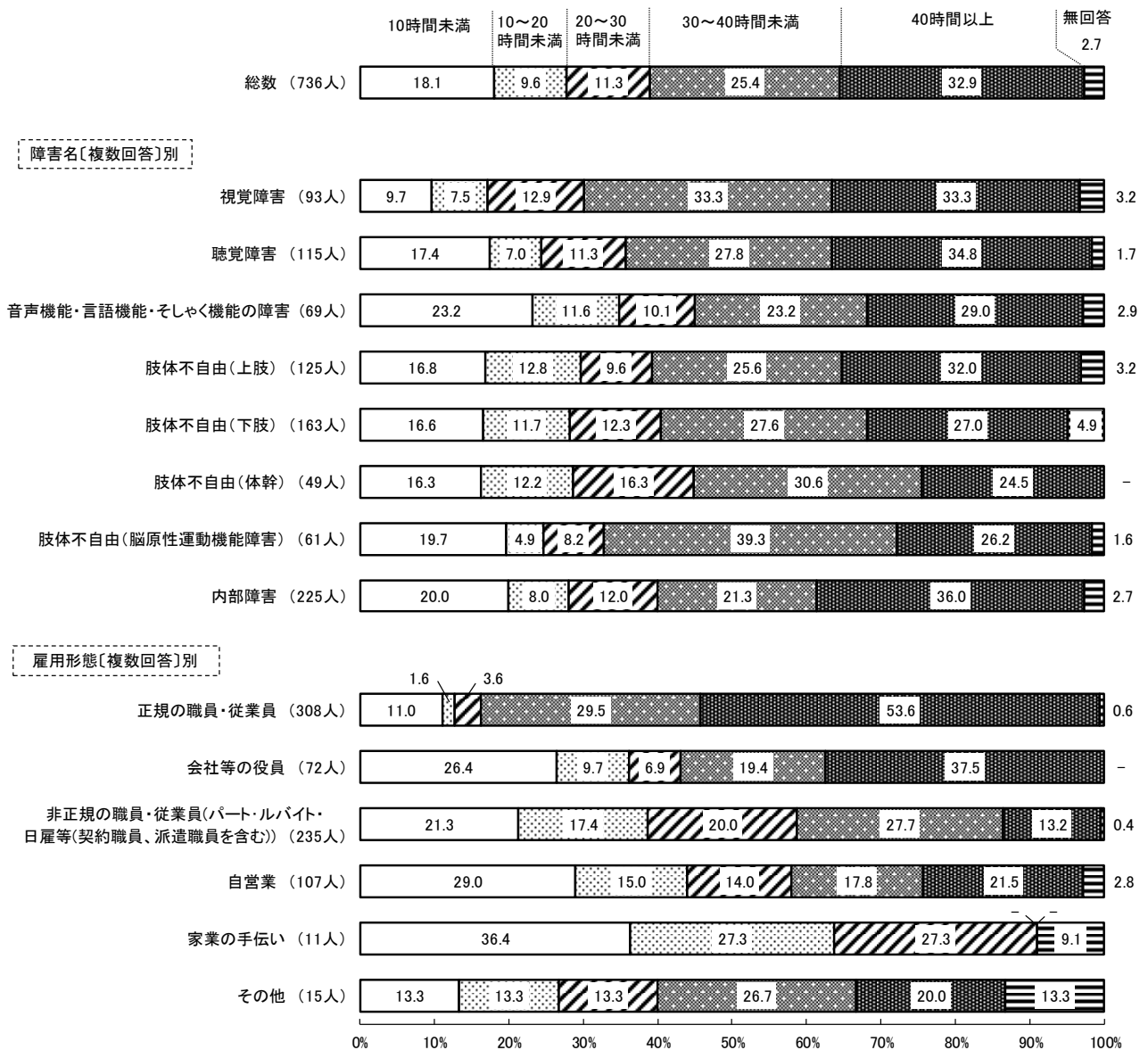
しゅうかん ろうどうじかん じかんいじょう
 1週間の労働時間は「40時間以上」が32.9%

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した人（736人）に1週間の労働時間を聞いたところ、「40時間以上」の割合が32.9%、「30～40時間未満」が25.4%となっている。

障害名別にみると、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由（上肢）及び内部障害では、「40時間以上」の割合が3割を超えている（33.3%、34.8%、32.0%、36.0%）。

雇用形態別にみると、「40時間以上」の割合は、正規の職員・従業員が53.6%となっている。（図II-5-4）

図II-5-4 1週間の労働時間－障害名〔複数回答〕、雇用形態〔複数回答〕別



注1) 障害名〔複数回答〕別のうち、「平衡機能障害」は3人のため省略した。

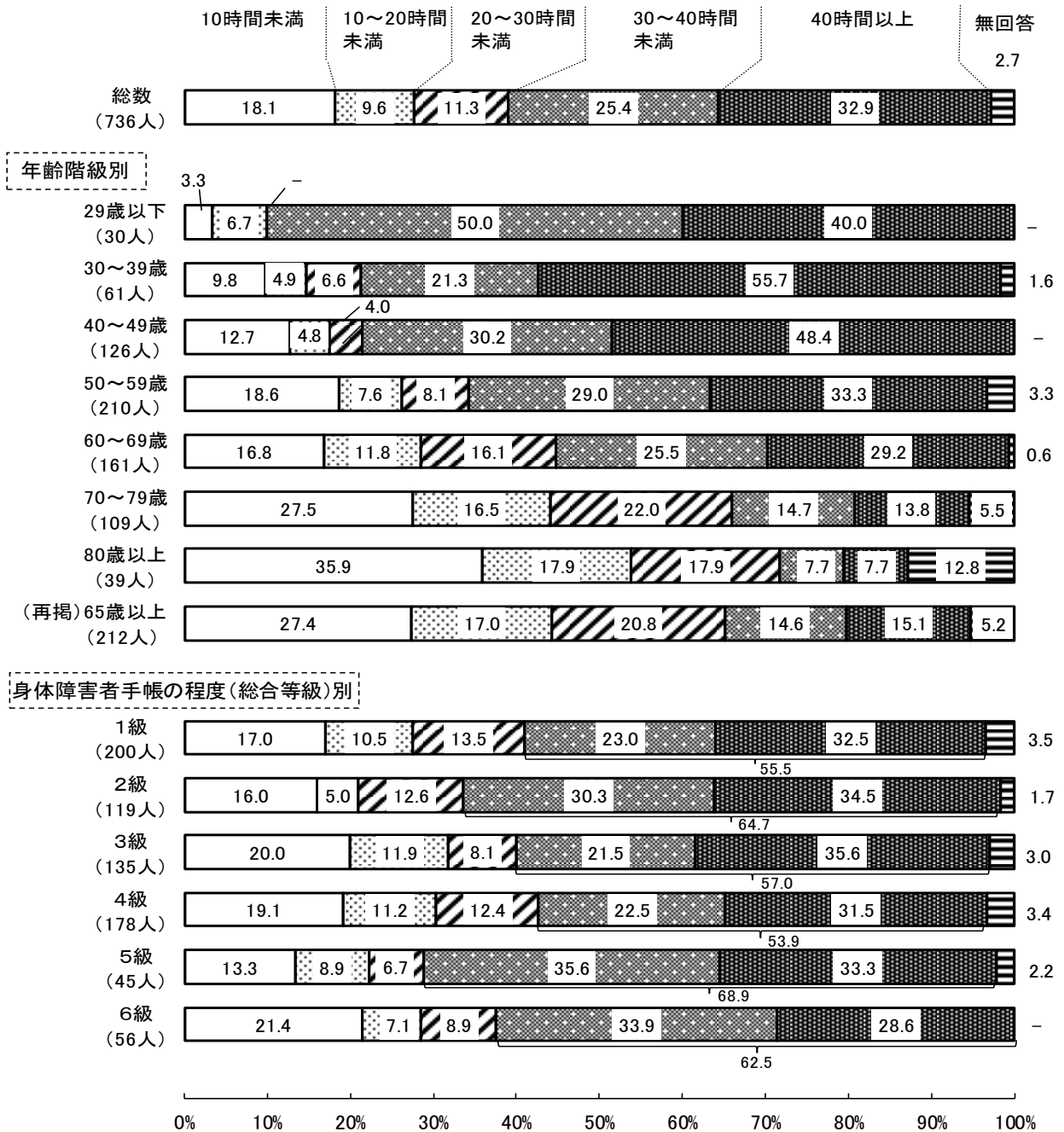
2) 雇用形態〔複数回答〕別のうち、「内職」は0人のため省略した。

(6) 1週間の労働時間－年齢階級、身体障害者手帳の程度（総合等級）別

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した人（736人）の1週間の労働時間を年齢階級別にみると、40代以下の年齢階級で「40時間以上」の割合が4割以上となっている（40.0%～55.7%）。

身体障害者手帳の程度（総合等級）別にみると、全ての階級で労働時間が30時間以上の割合が5割を超えている（53.9%～68.9%）。（図Ⅱ-5-5）

図Ⅱ-5-5 1週間の労働時間－年齢階級、身体障害者手帳の程度（総合等級）別



(7) 就職した時期－性別、障害名〔複数回答〕、年齢階級別

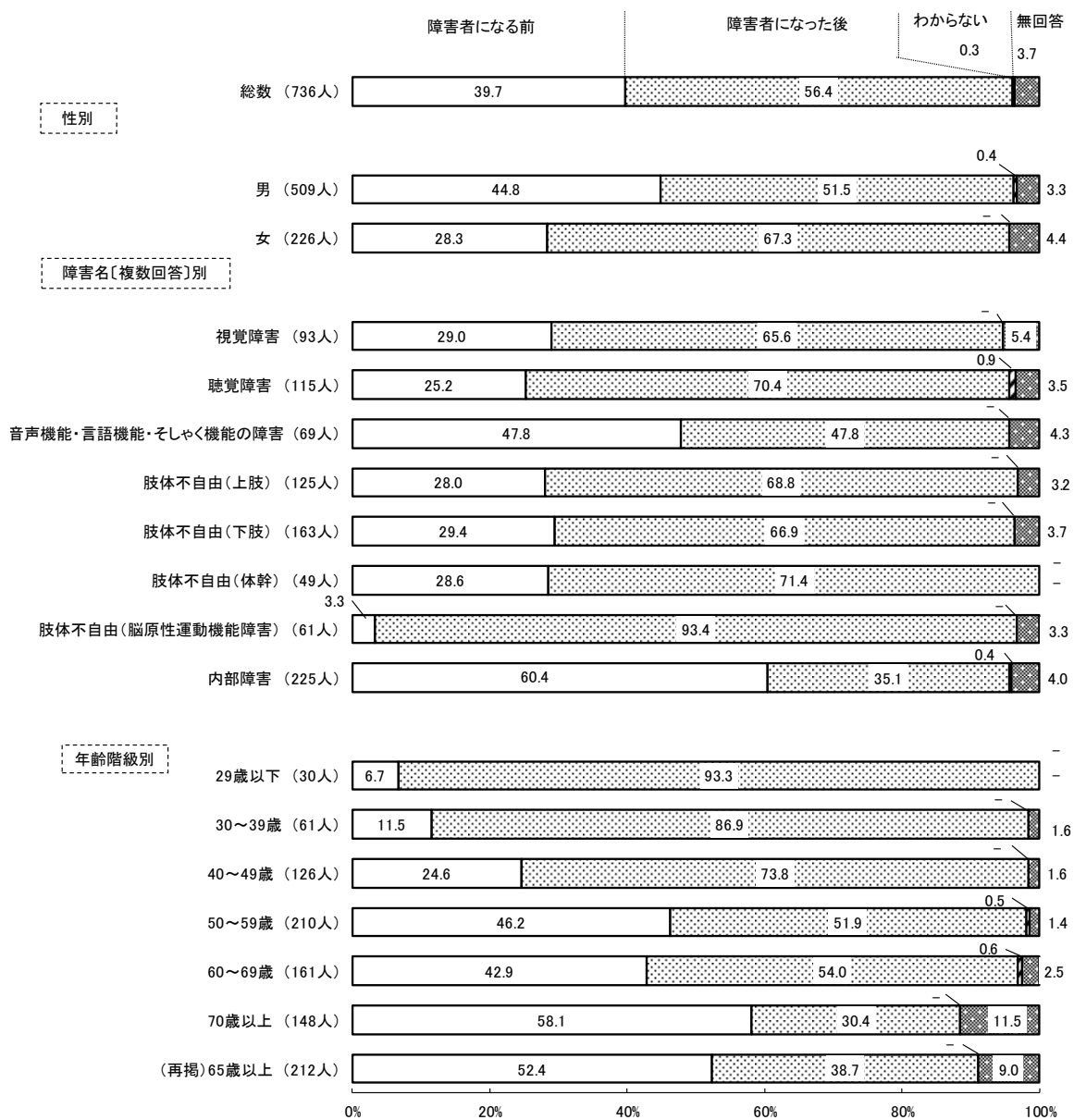
現在の就職先に就職をした時期は「障害者になった後」が56.4%

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した人（736人）に現在の就職先に就職したのは障害者になる前か、それとも障害者になった後か聞いたところ、「障害者になる前」の割合が39.7%、「障害者になった後」が56.4%となっている。

障害名別にみると、内部障害では「障害者になる前」が60.4%、肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「障害者になった後」の割合が93.4%となっている。

年齢階級別にみると、40代及び50代では「障害者になる前」が4割を超えている（46.2%、42.9%）（図II-5-6）

図II-5-6 就職した時期－性別、障害名〔複数回答〕、年齢階級別



注1) 性別のうち、「その他」は1人のため省略した。

2) 障害名〔複数回答〕別のうち、「平衡機能障害」は3人のため省略した。

(8) 就職をするために支援を受けたところ (人) [複数回答] - 性・年齢階級別

就職をするために支援を受けたところは「ハローワーク」が 22.9%

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した人（736人）のうち、障害者になった後に現在の就職先に就職した人（415人）に、どこ（誰）の支援を受けて現在の仕事に就いたか聞いたところ、「ハローワーク」の割合が22.9%、「民間の職業紹介会社」が14.2%、「知人」が9.9%となっている。一方、「支援は受けなかった」は31.6%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「学校」が21.4%、30代では「民間の職業紹介会社」が18.9%、50代及び60代では「ハローワーク」がそれぞれ28.4%、27.6%となっている。（表II-5-2）

表II-5-2 就職をするために支援を受けたところ (人) [複数回答] - 性・年齢階級別

		総数	ハローワーク （安定所）	民間の職業紹介会社	区市町村障害者就労支援センター	学校	家族	知人	就労移行支援事業所等	福祉法人など	福祉団体（障害者団体、NPO）	その他	支援は受けなかった	無回答
総数		100.0 (415)	22.9	14.2	6.7	7.7	5.3	9.9	4.1	2.2	5.5	31.6	1.0	
性別	男	100.0 (262)	24.8	11.8	7.3	8.8	5.3	10.3	5.7	0.8	4.6	31.3	1.1	
	女	100.0 (152)	19.1	18.4	5.9	5.9	5.3	9.2	1.3	4.6	7.2	32.2	0.7	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (28)	28.6	7.1	10.7	21.4	3.6	-	10.7	-	3.6	32.1	-	
	30～39歳	100.0 (53)	17.0	18.9	15.1	7.5	3.8	7.5	5.7	1.9	1.9	35.8	-	
	40～49歳	100.0 (93)	18.3	18.3	7.5	10.8	5.4	9.7	6.5	2.2	5.4	24.7	1.1	
	50～59歳	100.0 (109)	28.4	21.1	5.5	5.5	6.4	10.1	3.7	2.8	5.5	23.9	-	
	60～69歳	100.0 (87)	27.6	8.0	2.3	4.6	6.9	10.3	1.1	1.1	4.6	41.4	2.3	
	70歳以上	100.0 (45)	13.3	-	4.4	4.4	2.2	17.8	-	4.4	13.3	40.0	2.2	
	(再掲) 65歳以上	100.0 (82)	15.9	3.7	3.7	3.7	2.4	12.2	-	3.7	11.0	45.1	1.2	

注) 性別のうち、「その他」は1人のため省略した。

(9) 現在の仕事に就いてからの期間－性・年齢階級、雇用形態〔複数回答〕別

現在の仕事に就いてからの期間は「10年以上」が56.9%

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した人（736人）に現在の仕事に就いてからの期間を聞いたところ、「10年以上」の割合が56.9%で最も高く、次いで「5年以上10年未満」が15.9%となっている。

雇用形態別にみると、「10年以上」の割合は、「正規の職員・従業員」が64.3%、「非正規の職員・従業員」は32.3%となっている。（表Ⅱ-5-3）

表Ⅱ-5-3 現在の仕事に就いてからの期間－性・年齢階級、雇用形態〔複数回答〕別

		総数	3か月未満	6か月未満	1年以上未満	3年以上未満	5年以上未満	10年以上未満	10年以上	無回答
総数		100.0 (736)	1.4	1.9	3.7	9.0	7.9	15.9	56.9	3.4
性別	男	100.0 (509)	1.6	1.8	3.3	7.1	8.3	15.3	59.3	3.3
	女	100.0 (226)	0.4	2.2	4.4	13.3	7.1	17.3	51.8	3.5
年齢階級別	29歳以下	100.0 (30)	-	6.7	16.7	26.7	20.0	26.7	3.3	-
	30～39歳	100.0 (61)	-	3.3	1.6	11.5	8.2	37.7	36.1	1.6
	40～49歳	100.0 (126)	1.6	0.8	2.4	10.3	7.9	19.8	53.2	4.0
	50～59歳	100.0 (210)	1.0	1.9	3.3	9.0	6.2	13.3	62.4	2.9
	60～69歳	100.0 (161)	3.7	1.9	6.2	7.5	9.3	9.3	61.5	0.6
	70歳以上	100.0 (148)	-	1.4	0.7	4.7	6.1	12.2	66.9	8.1
	(再掲)65歳以上	100.0 (212)	0.9	1.4	2.8	5.7	7.1	13.2	63.2	5.7
雇用形態別	正規の職員・従業員	100.0 (308)	1.0	0.6	1.6	7.5	6.2	17.2	64.3	1.6
	会社等の役員	100.0 (72)	1.4	-	-	2.8	1.4	5.6	84.7	4.2
	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員・派遣職員を含む))	100.0 (235)	2.1	4.7	8.5	14.9	13.2	22.6	32.3	1.7
	自営業	100.0 (107)	0.9	0.9	-	5.6	3.7	8.4	78.5	1.9
	家業の手伝い	100.0 (11)	-	-	9.1	9.1	-	-	72.7	9.1
	その他	100.0 (15)	-	6.7	6.7	-	6.7	20.0	60.0	-

注1) 性別のうち、「その他」は1人のため省略した。

2) 雇用形態〔複数回答〕別のうち、「内職」は0人のため省略した。

(10) 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、障害名〔複数回答〕、雇用形態〔複数回答〕別

仕事をしていく上で困ることが「ある」割合は 54.6%で、困ることの内容は「通勤時の混雑」の割合が 15.6%

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した（736人）に仕事をしていく上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」が 54.6%、「困ることは特にない」が 42.7%となっている。困ることの内容は「通勤時の混雑」が最も高く、15.6%となっている。

障害名別にみると、視覚障害、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（下肢）、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「通勤時の混雑」の割合が最も高い（22.1%～29.5%）。また、聴覚障害では「相手の言っていることが分からない」が 35.7%、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「相手に対して、言いたい内容が伝わらない」が 33.3%、内部障害では「定期的な通院や健康管理との両立」が 22.7%となっている。

雇用形態別にみると、「困ることがある」の割合は、正規の職員・従業員で 61.0%、非正規の職員・従業員では 58.3%となっている。（表Ⅱ-5-4）

表Ⅱ-5-4 仕事をしていく上で困ること〔3つまでの複数回答〕

－性別、障害名〔複数回答〕、雇用形態〔複数回答〕別

	総数	困ることがある	勤務時間・日数が自分の希望と合わない	通勤距離・時間が長い	通勤時の混雑	仕事の内容が障害の特性上、自分に合っていない	職場の（物理的な）バリアフリー化が不十分	人間関係が難しい	相手に対して、言いたい内容が伝わらない	相手の言っていることが分からない	両立	定期的な通院や健康管理との両立	面などで合理的配慮がない	急な体調の変化や情報保障の面などで合理的配慮がない	その他	困ることは特にない	無回答
総数	100.0 (736)	54.6	5.0	8.7	15.6	4.8	5.6	11.3	7.1	6.7	12.5	4.8	8.7	42.7	2.7		
性別	男	100.0 (509)	52.5	4.5	9.4	13.9	4.5	5.1	11.4	7.9	5.9	13.0	4.9	7.1	44.6	2.9	
	女	100.0 (226)	59.7	6.2	7.1	19.5	5.3	6.6	11.1	5.3	8.4	11.5	4.4	12.4	38.1	2.2	
身体障害者手帳の障害名 〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (93)	64.5	4.3	10.8	26.9	4.3	6.5	15.1	4.3	1.1	7.5	6.5	16.1	32.3	3.2	
	聴覚障害	100.0 (115)	66.1	0.9	7.0	7.8	3.5	3.5	14.8	10.4	35.7	5.2	7.0	12.2	32.2	1.7	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (69)	60.9	2.9	11.6	10.1	7.2	1.4	15.9	33.3	7.2	10.1	2.9	2.9	39.1	-	
	肢体不自由(上肢)	100.0 (125)	57.6	4.8	12.8	22.4	5.6	10.4	15.2	4.0	1.6	12.8	3.2	8.0	37.6	4.8	
	肢体不自由(下肢)	100.0 (163)	57.1	5.5	12.3	22.1	5.5	11.7	12.9	3.1	1.2	12.3	4.3	9.8	38.7	4.3	
	肢体不自由(体幹)	100.0 (49)	65.3	6.1	12.2	22.4	8.2	12.2	14.3	6.1	2.0	10.2	4.1	14.3	34.7	-	
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (61)	62.3	1.6	18.0	29.5	4.9	14.8	18.0	4.9	1.6	4.9	-	4.9	36.1	1.6	
	内部障害	100.0 (100)	43.1	6.2	6.2	11.6	2.7	3.1	6.2	2.7	0.4	22.7	5.3	4.9	54.2	2.7	
	内部障害	100.0 (225)	43.1	6.2	6.2	11.6	2.7	3.1	6.2	2.7	0.4	22.7	5.3	4.9	54.2	2.7	
雇用形態 〔複数回答〕別	正規の職員・従業員	100.0 (308)	61.0	4.5	12.3	21.4	5.2	8.4	14.0	5.2	10.1	13.6	7.1	8.8	36.4	2.6	
	会社等の役員	100.0 (72)	41.7	2.8	4.2	6.9	2.8	1.4	1.4	9.7	4.2	11.1	1.4	11.1	58.3	-	
	非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・日雇等(契約職員・派遣職員を含む))	100.0 (235)	58.3	7.7	8.1	17.4	6.0	4.7	14.9	8.1	4.7	9.4	3.0	8.9	40.9	0.9	
	自営業	100.0 (107)	44.9	1.9	4.7	3.7	1.9	2.8	5.6	10.3	5.6	17.8	4.7	7.5	54.2	0.9	
	家業の手伝い	100.0 (11)	36.4	9.1	-	-	9.1	9.1	-	-	-	18.2	-	9.1	54.5	9.1	
	その他	100.0 (15)	40.0	-	-	-	-	13.3	6.7	-	-	13.3	-	13.3	60.0	-	

注1) 性別のうち、「その他」は1人のため省略した。

2) 障害名〔複数回答〕別のうち、「平衡機能障害」は3人のため省略した。

3) 雇用形態〔複数回答〕別のうち、「内職」は0人のため省略した。

(11) 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

－性別、障害名〔複数回答〕、雇用形態〔複数回答〕別

仕事で困ったことがあったときの相談先は「職場の上司」の割合が44.0%、
「家族」が33.3%、「職場の同僚」が29.5%

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した人（736人）に仕事で困ったことがあったとき誰に相談するか聞いたところ、「職場の上司」の割合が44.0%、「家族」が33.3%、「職場の同僚」が29.5%となっている。

「相談する相手がない」について、障害名別にみると視覚障害での割合が、雇用形態別にみると自営業での割合が高く、それぞれ10.8%、11.2%となっている。

（表Ⅱ-5-5）

表Ⅱ-5-5 仕事で困ったときの相談先〔複数回答〕

－性別、障害名〔複数回答〕、雇用形態〔複数回答〕別

		総数	職場の上司	職場の同僚	職場に派遣された ジョブコーチ	就労支援センター 等の職員	家族	職場の同僚以外の 友人	施設の職員、 グループホーム の世話人等	出身校の教員	その他	（相談する相手がない）	今まではない 特につらかった	無回答
総数		100.0 (736)	44.0	29.5	1.2	3.1	33.3	9.6	1.5	0.5	3.8	8.2	17.7	2.7
性別	男	100.0 (509)	43.2	27.5	1.0	2.8	29.5	7.5	1.2	0.4	3.3	8.6	18.5	3.1
	女	100.0 (226)	45.6	33.6	1.8	4.0	42.0	14.6	2.2	0.9	4.9	7.1	15.9	1.8
身体障害者手帳の 障害名 （複数回答）別	視覚障害	100.0 (93)	50.5	33.3	2.2	2.2	35.5	9.7	2.2	1.1	2.2	10.8	12.9	3.2
	聴覚障害	100.0 (115)	53.0	40.0	1.7	2.6	31.3	15.7	2.6	1.7	2.6	7.8	13.0	1.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (69)	37.7	29.0	2.9	7.2	40.6	8.7	1.4	-	5.8	5.8	13.0	1.4
	肢体不自由（上肢）	100.0 (125)	51.2	32.8	0.8	6.4	38.4	11.2	1.6	-	7.2	6.4	11.2	4.0
	肢体不自由（下肢）	100.0 (163)	42.9	28.2	1.2	2.5	33.7	11.7	0.6	0.6	5.5	8.6	17.2	3.1
	肢体不自由（体幹）	100.0 (49)	63.3	36.7	4.1	8.2	32.7	12.2	-	2.0	4.1	6.1	10.2	-
	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	100.0 (61)	59.0	41.0	-	11.5	41.0	16.4	1.6	-	1.6	4.9	6.6	-
	内部障害	100.0 (225)	37.3	24.0	0.4	0.9	31.6	6.2	1.3	0.4	3.6	7.6	24.4	3.6
雇用形態 （複数回答）別	正規の職員・従業員	100.0 (308)	62.7	38.3	1.0	1.6	35.4	14.3	1.0	1.0	3.2	8.1	10.1	1.3
	会社等の役員	100.0 (72)	8.3	13.9	-	-	34.7	4.2	-	-	6.9	8.3	36.1	2.8
	非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員・派遣職員を含む））	100.0 (235)	49.4	36.2	2.6	7.2	32.3	10.2	3.0	0.4	4.7	6.4	10.6	0.9
	自営業	100.0 (107)	7.5	8.4	-	-	40.2	1.9	0.9	-	1.9	11.2	36.4	3.7
	家業の手伝い	100.0 (11)	-	-	-	-	18.2	-	-	-	-	27.3	54.5	-
	その他	100.0 (15)	33.3	13.3	-	-	6.7	6.7	-	-	-	6.7	53.3	-

注1) 性別のうち、「その他」は1人のため省略した。

2) 障害名〔複数回答〕別のうち、「平衡機能障害」は3人のため省略した。

3) 雇用形態〔複数回答〕別のうち、「内職」は0人のため省略した。

(12) 福祉的就労経験の有無－性別、雇用形態〔複数回答〕別

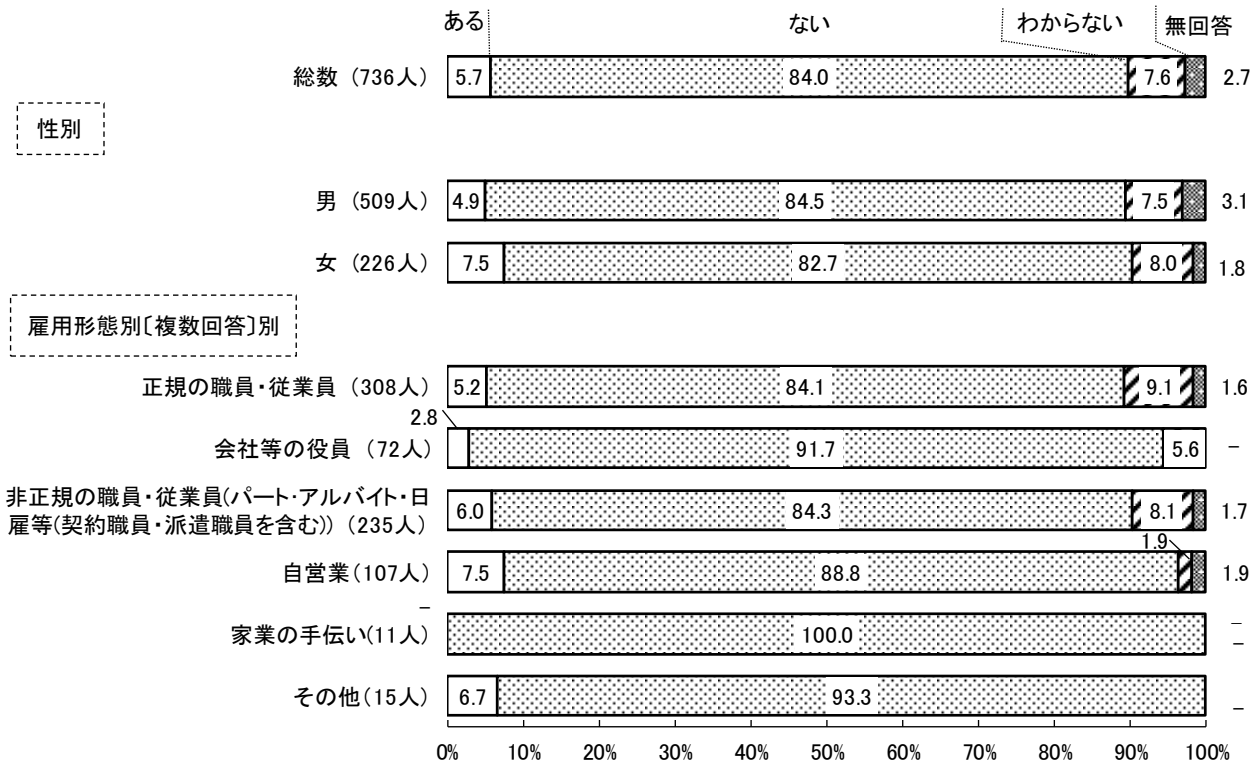
これまでに福祉的就労を経験したことが「ある」割合は5.7%

「仕事をしている（一般就労など）」と回答した人（736人）に、これまでに福祉的就労をしたことがあるか聞いたところ、「ある」の割合が5.7%、「ない」が84.0%となっている。

雇用形態別にみると、「ある」の割合は、自営業が7.5%、非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・日雇等（契約職員、派遣職員を含む））が6.0%となっている。

（図Ⅱ-5-7）

図Ⅱ-5-7 福祉的就労経験の有無－性別、雇用形態〔複数回答〕別



注1) 福祉的就労とは一般就労（企業などへ就職し、雇用契約を結んで働くこと）が難しい障害のある方が障害福祉サービスの中で就労の機会を選択しながら働くことで、障害者総合支援法に基づく就労継続支援事業所などで作業を行う。

2) 性別のうち、「その他」は1人のため省略した。

3) 雇用形態〔複数回答〕別のうち、「内職」は0人のため省略した。

(13) 現在、企業や公的機関などで働いていない（一般就労をしていない）理由

〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

65歳未満では「^{さいみまん}障害が^{しょうがい}重く^{おも}企業などで^{きぎょう}働くことが^{はたらく}難しい^{むづか}ため」が49.4%

現在、企業や公的機関などで働いていない（一般就労をしていない）人（1,908人）にその理由を聞いたところ、「高齢のため（定年を含む）」が54.8%で最も高く、次いで「障害が重く企業などで働くことが難しいため」が23.7%となっている。

年齢階級別にみると、50代以下の階級では「障害が重く企業などで働くことが難しいため」が5割を超えている（50.3%～63.2%）。また、30代及び40代では「受け入れてくられる職場が見つからないため」の割合がそれぞれ25.0%、18.6%となっている。

（表II-5-6）

表II-5-6 企業や公的機関などで働いていない（一般就労をしていない）理由

〔3つまでの複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	仕事や自分が望む条件に当ってはまる	障害が重く企業などで働くことが難しいため	健康面・体力面に不安があるため	人間関係を築くことが難しいため	受け入れてくれない職場が見つけられないため	会社倒産、人員整理など	学校などで勉強しているため	介護など（結婚、育児、高齡のため（定年を含む）	企業や公的機関などで働く必要がないため	企業や公的機関などで働きたくないため	その他	無回答		
総数	100.0 (1,908)	6.0	23.7	23.1	2.9	6.5	0.6	0.9	2.8	54.8	3.8	0.6	6.1	9.5	
身体障害者手帳の障害名 （複数回答）別	視覚障害	100.0 (257)	7.0	27.2	16.0	1.2	8.9	0.4	1.6	4.3	51.0	2.7	0.4	8.2	10.9
	聴覚障害	100.0 (285)	4.9	10.5	17.5	1.4	4.9	0.7	0.7	3.9	71.6	2.1	0.4	4.9	8.1
	平衡機能障害	100.0 (11)	9.1	9.1	36.4	-	-	-	-	-	45.5	-	-	9.1	18.2
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (196)	3.1	29.1	26.5	10.2	8.2	-	-	1.0	56.6	5.1	0.5	7.1	6.6
	肢体不自由（上肢）	100.0 (351)	8.8	43.3	23.1	6.0	8.3	0.3	1.1	2.3	36.5	2.8	0.6	9.4	9.4
	肢体不自由（下肢）	100.0 (432)	6.7	31.5	22.2	3.2	5.8	0.9	0.7	3.0	48.6	3.0	0.7	8.1	12.0
	肢体不自由（体幹）	100.0 (240)	5.4	46.3	21.7	2.1	6.3	-	1.7	1.3	37.1	3.3	0.4	11.7	11.7
	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	100.0 (243)	13.6	56.8	21.8	5.8	12.8	1.6	1.2	1.2	15.6	2.9	0.4	5.3	10.7
	内部障害	100.0 (547)	4.9	11.0	28.3	1.3	5.7	0.7	0.5	1.8	64.5	4.8	1.1	3.1	9.9
年齢階級別	29歳以下	100.0 (67)	7.5	53.7	13.4	4.5	9.0	-	23.9	1.5	-	-	-	7.5	7.5
	30～39歳	100.0 (68)	13.2	63.2	26.5	7.4	25.0	1.5	-	2.9	-	-	-	10.3	5.9
	40～49歳	100.0 (102)	12.7	52.0	34.3	10.8	18.6	2.0	-	9.8	-	1.0	1.0	13.7	8.8
	50～59歳	100.0 (177)	16.4	50.3	41.2	7.3	11.9	1.1	1.1	6.2	1.1	3.4	1.1	9.0	7.3
	60～69歳	100.0 (317)	11.7	29.7	36.3	3.2	9.5	1.6	-	5.7	41.3	5.4	0.9	7.9	6.3
	70～79歳	100.0 (509)	3.3	13.8	22.8	2.0	4.3	-	-	1.6	72.9	4.5	1.0	6.3	10.6
	80歳以上	100.0 (668)	0.7	10.2	11.2	0.4	1.3	0.3	-	0.6	81.0	3.7	0.1	2.7	11.4
	（再掲）65歳以上	100.0 (1,361)	2.7	13.4	19.0	1.3	2.9	0.2	-	1.4	74.1	4.2	0.6	4.6	10.8
	（再掲）65歳未満	100.0 (547)	14.3	49.4	33.5	6.8	15.5	1.6	3.3	6.4	6.6	2.7	0.7	10.1	6.2

(14) 企業や公的機関などでの就労経験の有無－年齢階級、収入を伴う仕事の有無別

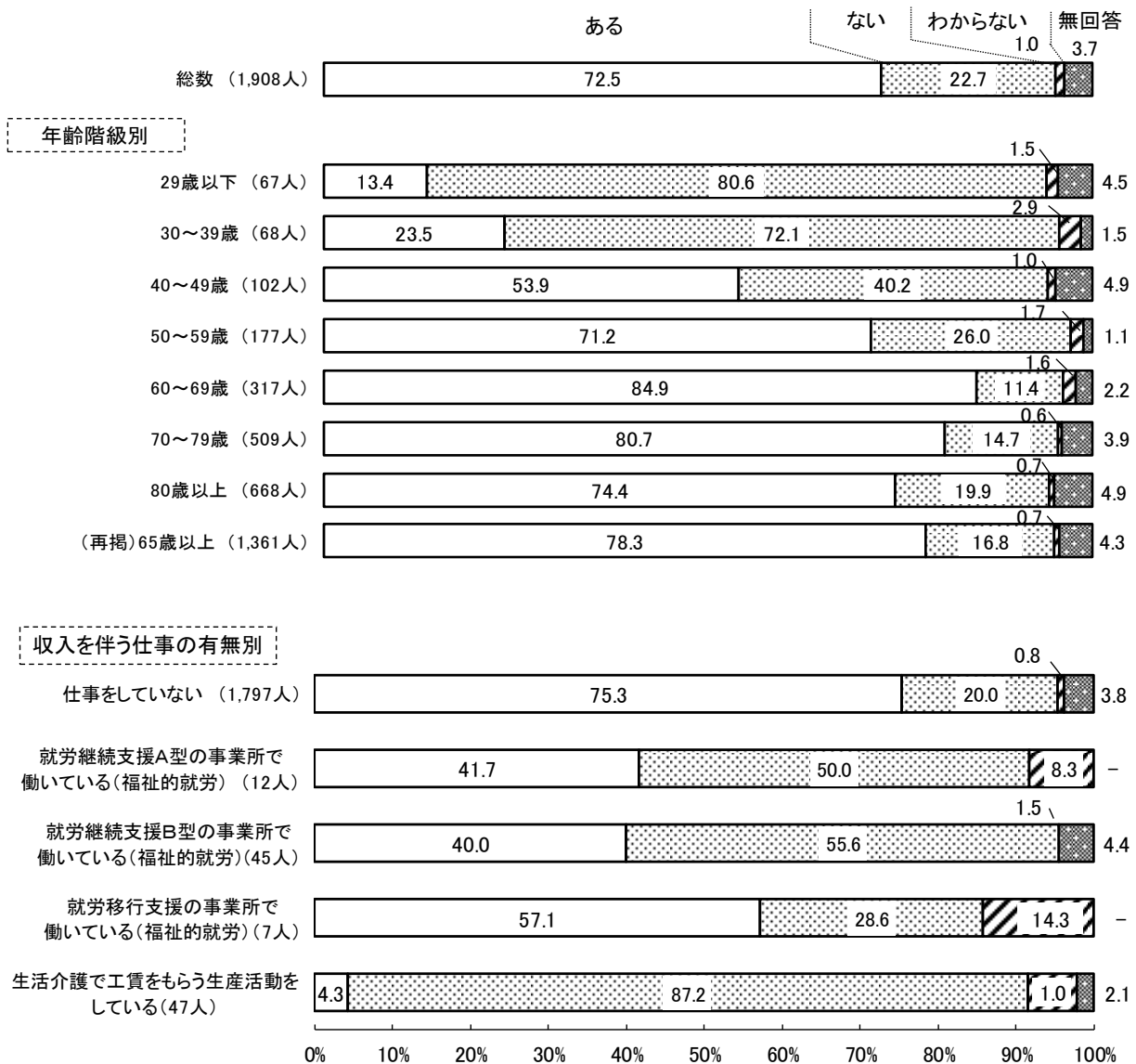
過去に企業や公的機関で働いたこと（パート、アルバイト等を含む）がある割合は72.5%

現在、企業や公的機関などで働いていない（一般就労をしていない）人（1,908人）に過去に企業や公的機関などで働いたこと（パート、アルバイト等を含む）があるか聞いたところ、「ある」の割合が72.5%、「ない」が22.7%となっている。

年齢階級別にみると、50歳以上の階級ではいずれも、過去に企業や公的機関などで働いたことが「ある」割合が7割を超えている（71.2%～84.9%）。

収入を伴う仕事の有無別にみると、福祉的就労をしている（就労継続支援A型、B型、就労移行支援の事業所で働いている）人で、過去に企業や公的機関などで働いたことが「ある」割合は4割以上となっている（40.0%～57.1%）。（図Ⅱ-5-8）

図Ⅱ-5-8 企業や公的機関などでの就労経験の有無－年齢階級、収入を伴う仕事の有無別



(15) 企業や公的機関などでの就労意向の有無－年齢階級別、収入を伴う仕事の有無別

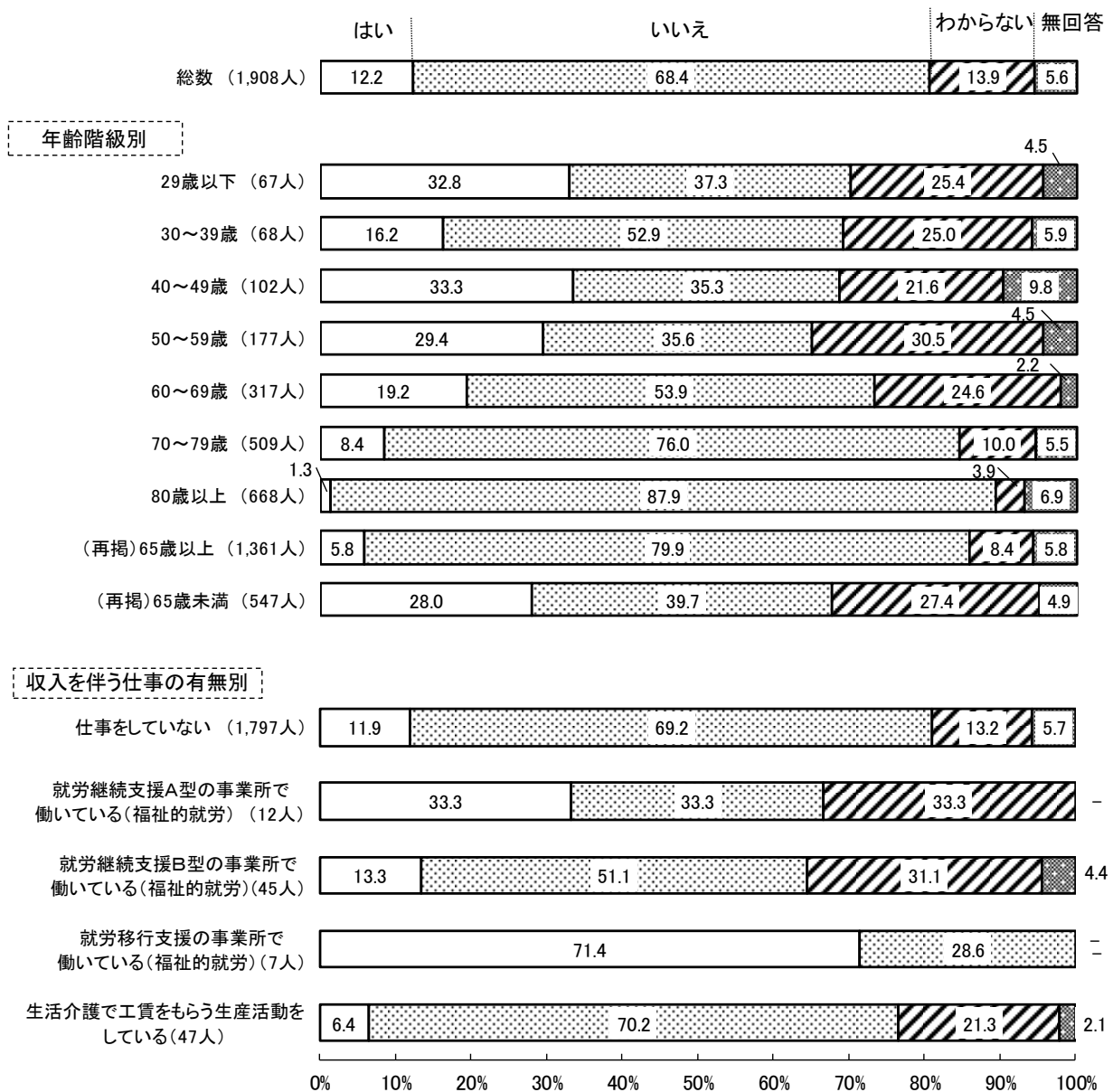
今後、企業や公的機関で働きたい（パート、アルバイト等を含む）割合は、65歳未満では28.0%

現在、企業や公的機関などで働いていない（一般就労をしていない）人（1,908人）に今後、企業や公的機関などで働きたいか（パート、アルバイト等を含む）聞いたところ、「はい」の割合が12.2%、「いいえ」が68.4%となっている。

年齢階級別にみると、「はい」の割合は40代が33.3%で最も高く、次いで29歳以下が32.8%、50代が29.4%となっている。（図Ⅱ-5-9）

図Ⅱ-5-9 企業や公的機関などでの就労意向の有無

－年齢階級別、収入を伴う仕事の有無別

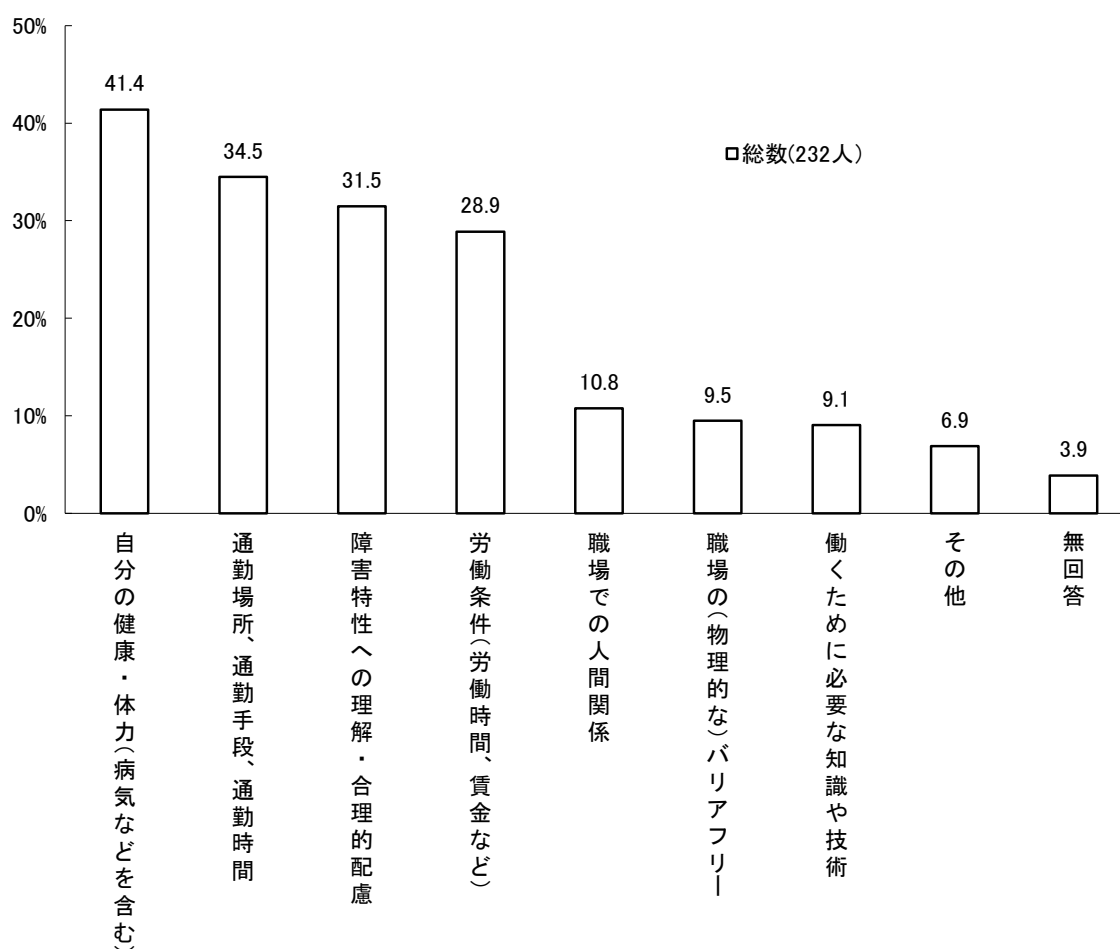


(16) 企業や公的機関などで働くにあたって心配なこと（課題）〔2つまでの複数回答〕

企業や公的機関で働くにあたって心配なことは「自分の健康・体力（病気等を含む）」が41.4%

現在、企業や公的機関などで働いていない（一般就労をしていない）人（1,908人）のうち、今後、企業や公的機関などで働きたい（パート、アルバイト等を含む）と答えた人（232人）に、企業や公的機関などで働くにあたって心配なこと（課題）を聞いたところ、「自分の健康・体力（病気等を含む）」の割合が41.4%で最も高く、次いで「通勤場所、通勤手段、通勤時間」が34.5%、「障害特性への理解・合理的配慮」が31.5%となっている。（図II-5-10）

図II-5-10 企業や公的機関などで働くにあたって心配なこと（課題）〔2つまでの複数回答〕



6 経済基盤

(1) 収入の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

収入の種類は「年金・恩給」を選んだ人の割合が最も高く71.0%

令和4年中の収入の種類を聞いたところ、「年金・恩給」を選んだ人の割合が71.0%で最も高く、次いで「賃金・給料」が26.3%、「手当」が16.6%となっている。「賃金・給料」は、平成30年度調査(19.6%)より6.7ポイント増えている。

年齢階級別にみると、30代から50代では「賃金・給料」の割合がいずれも約5割となっている(49.6%~53.6%)。(表II-6-1)

表II-6-1 収入の種類〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	賃金・給料	事業所得	内職収入	家賃・地代	利子・配当	仕送り・小遣い	養育費・慰謝料	年金・恩給	生活保護費	手当	雇用保険	保険金・補償金	作業所等の工賃	その他の収入	収入はなかった	無回答
総数		100.0 (2,669)	26.3	3.4	0.4	5.1	2.8	1.8	0.5	71.0	5.5	16.6	1.1	1.8	2.5	2.1	3.9	3.4
身体障害者手帳の障害名〔複数回答分〕別	視覚障害	100.0 (352)	24.1	3.1	0.3	3.7	1.7	0.9	0.3	69.9	6.3	13.4	0.6	1.7	0.9	1.4	6.0	4.0
	聴覚障害	100.0 (404)	26.2	2.5	0.7	6.9	2.0	1.7	0.7	73.8	4.5	14.9	1.2	1.2	1.7	2.5	4.0	2.7
	平衡機能障害	100.0 (14)	21.4	-	-	-	14.3	-	-	50.0	-	14.3	-	14.3	7.1	7.1	7.1	14.3
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	24.2	3.3	0.4	4.1	4.1	0.4	0.4	76.6	5.6	13.0	1.1	3.0	2.6	3.0	3.3	3.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	26.7	3.1	0.4	4.9	3.7	2.1	0.8	71.2	6.4	29.0	1.4	2.7	6.6	3.1	4.1	2.9
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	26.2	2.5	0.3	4.8	3.0	2.1	0.5	70.0	5.6	19.5	1.3	2.1	4.6	2.3	4.5	3.0
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	16.6	2.0	0.7	3.7	3.7	1.7	0.3	71.2	6.4	28.8	0.7	1.7	3.4	2.4	6.8	4.7
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	23.6	0.6	0.3	1.3	1.3	2.3	-	74.4	4.2	46.9	-	0.3	12.3	1.9	3.6	3.2
	内部障害	100.0 (779)	26.8	4.5	0.4	5.6	3.6	1.8	0.5	69.8	5.0	10.8	1.4	2.1	0.9	2.1	3.1	3.9
年齢階級別	29歳以下	100.0 (97)	34.0	1.0	-	-	2.1	6.2	-	39.2	2.1	33.0	1.0	-	13.4	-	15.5	2.1
	30~39歳	100.0 (129)	49.6	2.3	1.6	2.3	3.9	6.2	1.6	63.6	3.1	43.4	1.6	3.9	9.3	3.9	1.6	2.3
	40~49歳	100.0 (233)	52.8	3.4	-	2.1	2.6	1.7	1.3	53.2	7.3	30.0	1.3	1.7	8.2	1.3	3.0	3.0
	50~59歳	100.0 (390)	53.6	5.4	1.3	3.3	3.8	3.1	1.5	38.5	5.6	19.7	2.3	3.6	3.3	3.8	6.2	4.6
	60~69歳	100.0 (480)	34.8	5.4	0.4	4.8	4.2	0.8	0.2	66.9	7.9	19.4	2.5	2.7	1.7	3.3	4.6	2.7
	70~79歳	100.0 (623)	13.2	3.2	0.2	5.9	2.4	1.0	0.2	87.8	6.1	11.4	0.5	1.0	0.5	1.9	2.9	2.9
	80歳以上	100.0 (717)	3.3	1.5	0.1	7.5	1.8	1.0	0.1	88.1	3.5	6.3	-	0.7	-	0.8	2.1	4.2
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,589)	10.5	2.6	0.1	6.5	2.2	0.9	0.1	87.4	5.0	10.4	0.2	1.0	0.3	1.6	2.3	3.4
平成30年度	100.0 (2,490)	19.6	3.2	0.4	5.2	2.2	2.0	0.1	78.0	7.8	15.9	0.4	1.0	2.0	2.2	2.5	1.4	

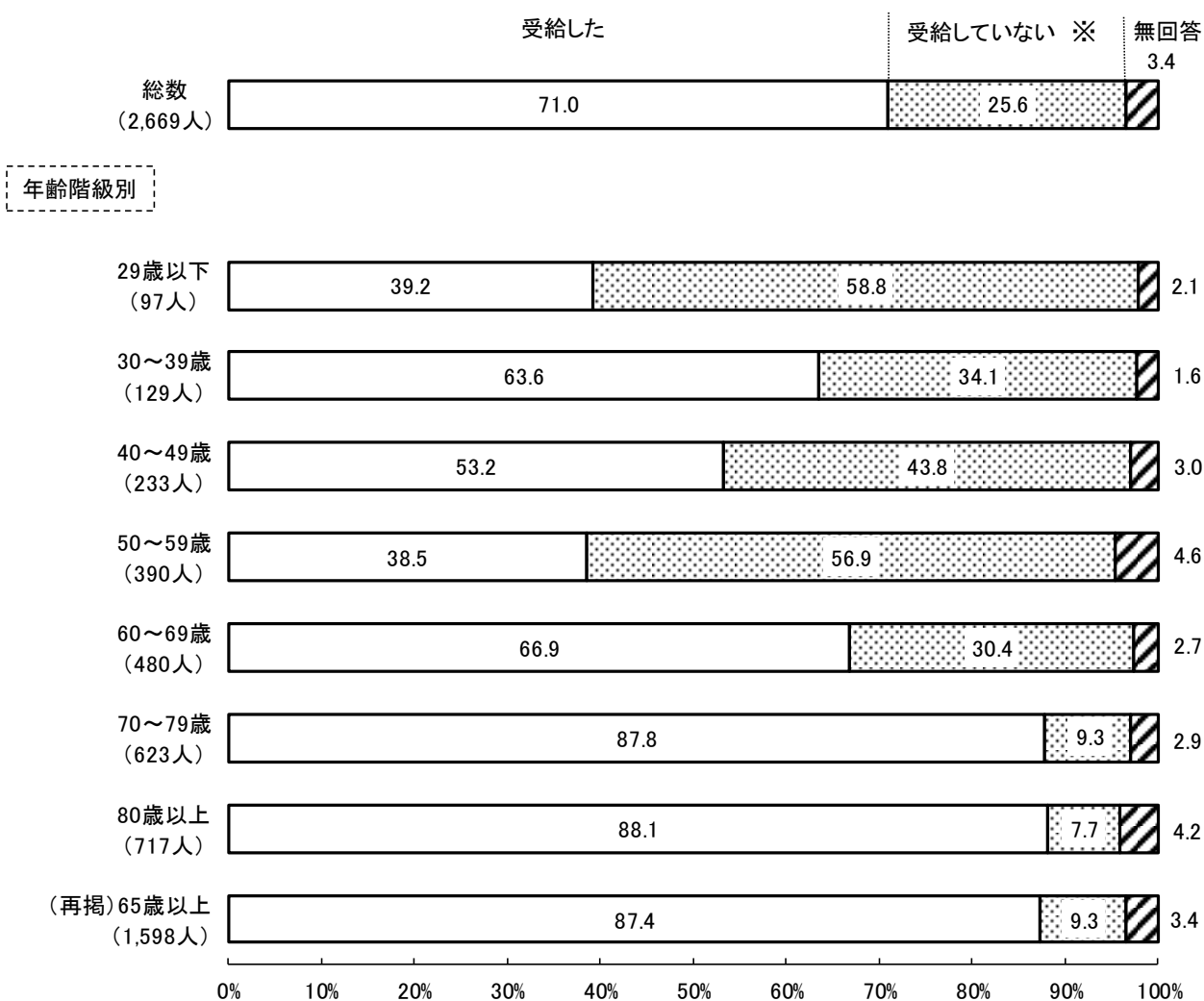
注) 平成30年度調査では「3つまで」の複数回答方式としていた。

(2) 年金・恩給の受給の有無－年齢階級別

令和4年中に年金・恩給を受給したか聞いたところ、「受給した」の割合が71.0%、「受給していない」(※)が25.6%となっている。

年齢階級別にみると、30代と60代以上の階級で「受給した」の割合が6割を超えている(63.6%～88.1%)。(図II-6-1)

図II-6-1 年金・恩給の受給の有無－年齢階級別



注) ※収入について、年金・恩給を受給していないがその他の収入があった方と、収入が何もなかった方を合わせた割合を計上している。

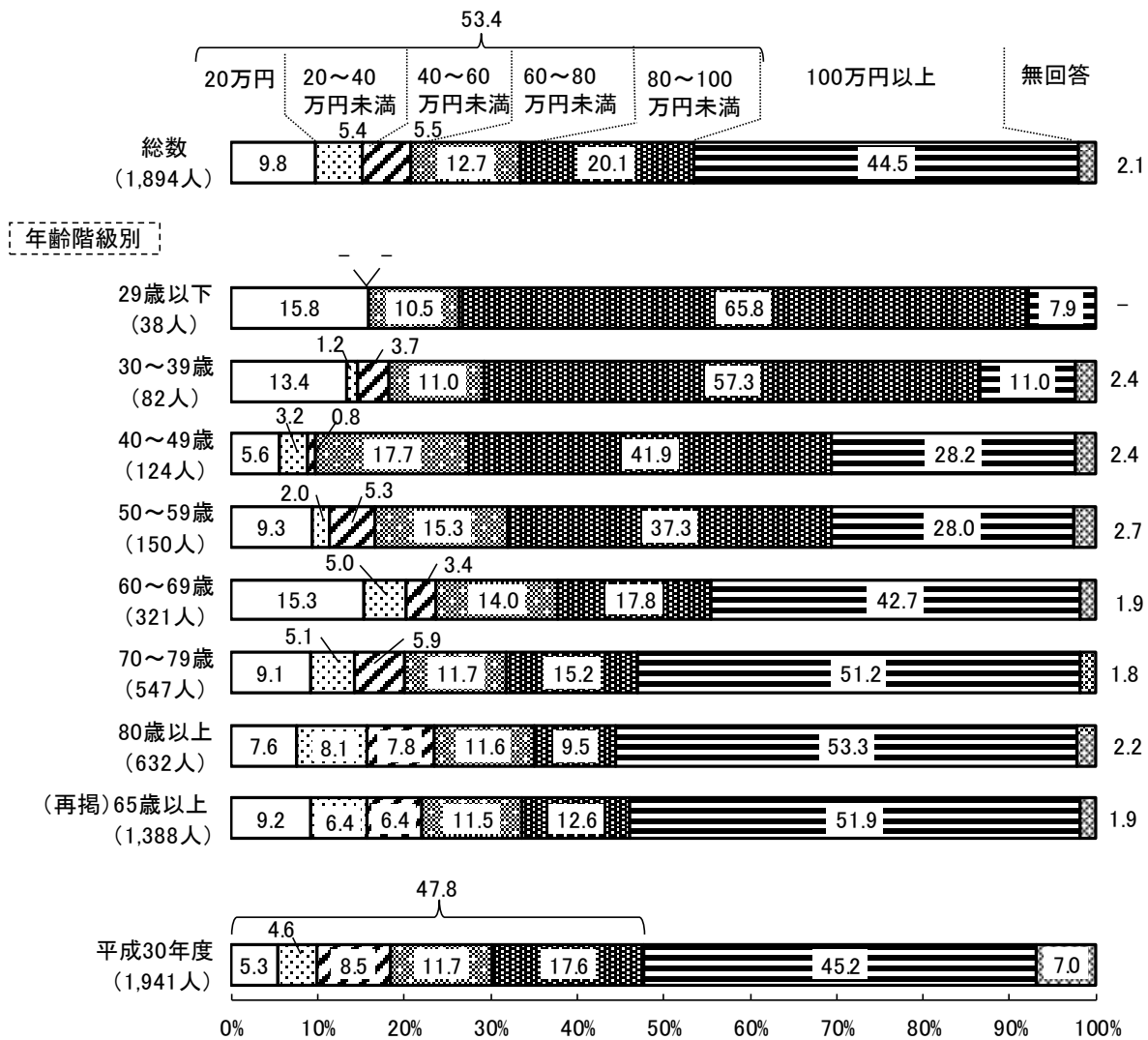
(3) 年金・恩給の収入額－年齢階級別

年金・恩給の収入額は「100万円未満」の割合が53.4%

令和4年中に年金・恩給を受給した人(1,894人)に年金・恩給の収入額を聞いたところ、「100万円未満」の割合が53.4%、「100万円以上」が44.5%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下及び30代では「80～100万円未満」の割合(65.8%、57.3%)が、65歳以上では「100万円以上」の割合(51.9%)がそれぞれ5割を超えている。(図II-6-2)

図II-6-2 年金・恩給の収入額－年齢階級別



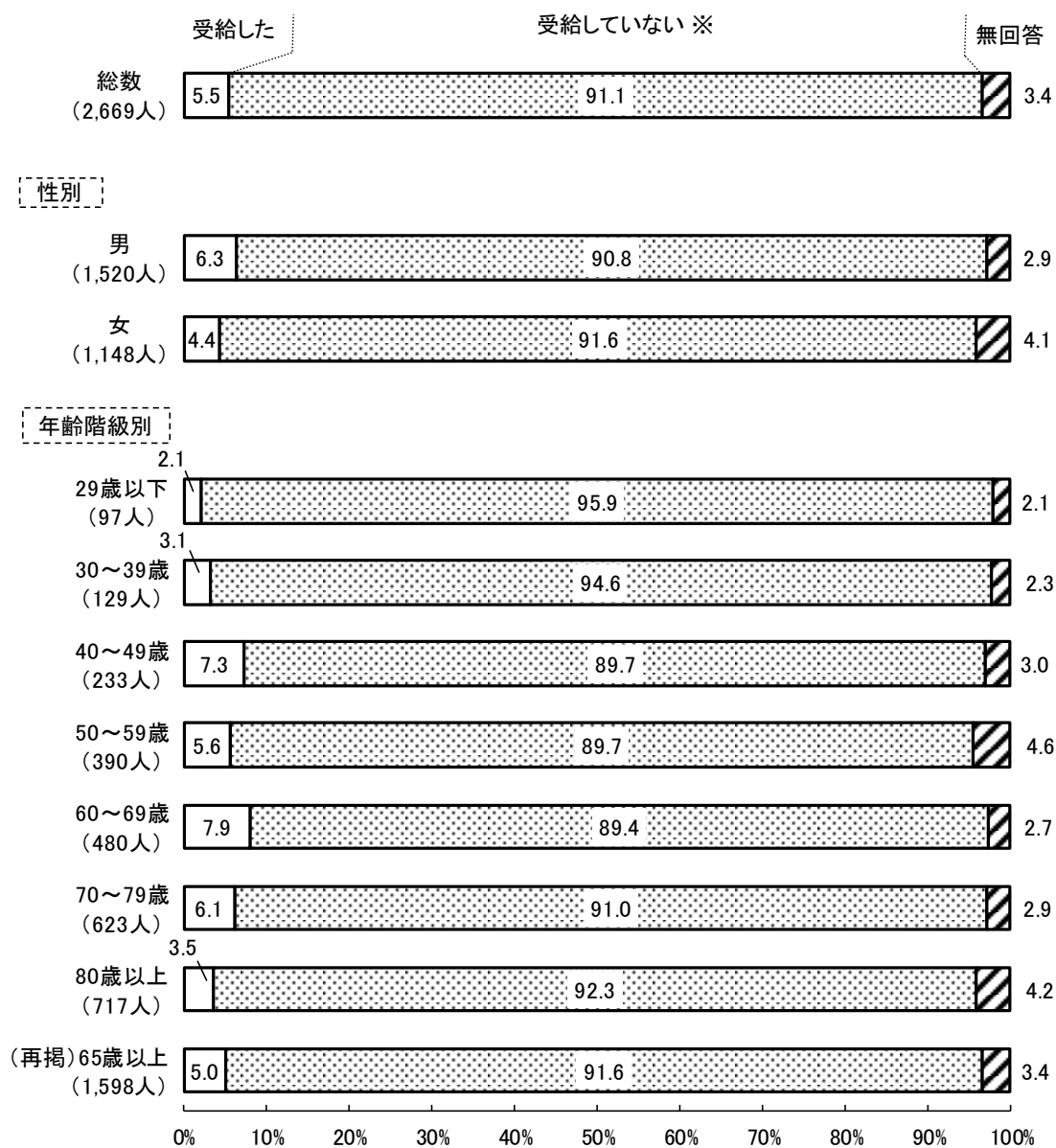
(4) 生活保護の受給の有無－性・年齢階級別

令和4年中に生活保護を受給したか聞いたところ、「受給した」の割合が5.5%、「受給していない」が91.1%となっている。

年齢階級別にみると、「受給した」の割合は、60代が最も高く、7.9%となっている。

(図Ⅱ-6-3)

図Ⅱ-6-3 生活保護の受給の有無－性・年齢階級別



注1) 性別のうち、「その他」は1人のため省略した。

2) ※ 収入について、生活保護を受給していないがその他の収入があった方と、収入が何もなかった方を合わせた割合を計上している。

(5) 年間収入額（生活保護費を除く）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

ねんしゅう
年収は「50～100万円未満」の割合が17.8%

対象者本人の令和4年中の収入額を聞いたところ、「50～100万円未満」の割合が17.8%で最も高く、次いで「100～150万円未満」が14.7%、「150万円～200万円」が11.2%となっている。（表Ⅱ-6-2）

表Ⅱ-6-2 年間収入額（生活保護費を除く）－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	収入なし	50万円未満	50万円未満	100万円未満	100万円未満	200万円未満	200万円未満	300万円未満	400万円未満	500万円未満	600万円未満	700万円以上	無回答
総数		100.0 (2,669)	5.8	7.3	17.8	14.7	11.2	9.6	6.2	6.6	4.8	2.9	1.6	4.0	7.5
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (352)	8.2	7.7	17.9	14.8	9.7	8.8	6.3	6.8	4.0	2.8	1.1	2.8	9.1
	聴覚障害	100.0 (404)	6.4	5.9	16.8	16.8	12.1	7.7	6.9	7.7	4.7	2.7	1.5	3.2	7.4
	平衡機能障害	100.0 (14)	7.1	-	7.1	28.6	7.1	7.1	7.1	-	-	-	7.1	7.1	21.4
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	5.6	6.3	19.0	13.0	12.6	10.0	7.8	6.3	4.1	2.6	2.6	2.2	7.8
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	6.2	8.0	17.9	16.5	9.9	11.3	4.1	6.4	5.3	1.6	1.4	4.3	7.0
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	5.9	8.6	19.1	15.8	12.4	7.8	5.4	6.3	4.5	2.1	1.0	4.0	7.1
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	7.5	6.8	15.6	16.6	11.5	11.9	5.8	4.4	5.4	1.4	0.3	3.1	9.8
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	4.5	6.8	21.4	22.0	12.9	10.7	3.2	4.5	1.0	2.3	0.6	1.0	9.1
	内部障害	100.0 (779)	4.7	6.7	16.4	12.7	10.7	10.5	6.8	7.3	5.4	4.2	1.9	5.6	6.9
年齢階級別	29歳以下	100.0 (97)	19.6	12.4	13.4	14.4	11.3	8.2	2.1	5.2	6.2	2.1	-	-	5.2
	30～39歳	100.0 (129)	3.9	5.4	14.0	17.8	13.2	10.1	7.0	4.7	7.0	4.7	2.3	5.4	4.7
	40～49歳	100.0 (233)	4.7	2.6	16.7	16.7	4.7	7.3	4.3	9.9	7.3	6.9	4.3	6.9	7.7
	50～59歳	100.0 (390)	9.0	6.2	13.6	11.5	8.2	7.4	5.4	7.7	6.4	5.4	3.6	8.2	7.4
	60～69歳	100.0 (480)	6.9	9.0	15.8	14.0	10.4	8.3	7.7	7.5	6.9	1.7	0.8	5.4	5.6
	70～79歳	100.0 (623)	4.2	6.6	22.3	16.7	14.6	10.1	5.8	5.1	2.6	2.1	1.3	1.6	7.1
	80歳以上	100.0 (717)	3.6	8.5	19.2	13.9	12.3	11.9	7.0	6.1	3.1	1.5	0.6	2.4	9.9
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,589)	3.7	7.9	19.9	15.5	13.2	11.0	6.7	5.9	3.3	1.6	0.9	2.3	8.1
平成30年度	100.0 (2,490)	5.8	9.5	18.8	15.5	11.0	9.4	6.5	6.5	3.4	2.2	1.3	3.4	6.6	

7 社会参加等

(1) 平日の日中主に過ごしたところ－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

「^{じぶん いえ}自分の家」が 66.9%、「^{しょくば ふくしてきしゅうろう しせつ のぞ}職場(福祉的就労の施設を除く)」が 15.9%

平日の日中に主にどこで過ごしたか聞いたところ、「自分の家」の割合が 66.9%で最も高く、次いで「職場(福祉的就労の施設を除く)」が 15.9%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「通所施設(生活介護・デイケア・地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設を除く)」が最も高く、36.1%となっている。

(表Ⅱ-7-1)

表Ⅱ-7-1 平日の日中主に過ごしたところ－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	自分の家	(職場 福祉的 就労の 施設を 除く)	(職場 福祉的 就労の 施設)	学校	通所施設 (生活介護、 デイケア、 地域活動支 援センター等 を含む・福祉 的就労の施設 を除く)	入所施設	その他	無回答
総数		100.0 (2,669)	66.9	15.9	2.1	0.5	6.7	3.7	1.6	2.5
身体障害者 手帳の障害名 (複数回答)別	視覚障害	100.0 (352)	67.6	15.9	2.3	0.9	5.1	4.0	1.4	2.8
	聴覚障害	100.0 (404)	71.0	17.3	0.5	0.2	5.4	2.0	1.0	2.5
	平衡機能障害	100.0 (14)	64.3	7.1	-	-	14.3	7.1	7.1	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	72.1	15.2	1.9	-	4.5	2.2	1.5	2.6
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	57.6	14.8	4.7	0.8	12.8	5.1	1.9	2.3
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	65.0	14.5	2.6	0.5	8.6	4.6	1.5	2.6
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	63.7	7.8	1.0	1.0	12.9	8.5	1.7	3.4
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	37.2	10.7	10.7	1.0	27.8	7.4	2.6	2.6
内部障害	100.0 (779)	72.5	16.9	0.9	0.3	2.1	2.7	2.1	2.6	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (97)	18.6	22.7	6.2	14.4	36.1	2.1	-	-
	30～39歳	100.0 (129)	32.6	28.7	7.8	-	24.0	2.3	1.6	3.1
	40～49歳	100.0 (233)	39.1	36.1	6.4	-	12.0	2.6	1.7	2.1
	50～59歳	100.0 (390)	50.8	33.3	3.3	-	6.7	2.1	2.1	1.8
	60～69歳	100.0 (480)	69.0	21.7	1.5	-	2.1	2.7	1.5	1.7
	70～79歳	100.0 (623)	81.1	6.4	1.0	-	3.0	3.4	2.4	2.7
	80歳以上	100.0 (717)	83.8	1.1	-	-	4.0	6.4	1.0	3.6
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,589)	81.9	4.9	0.5	-	3.2	4.8	1.6	3.1
平成30年度	100.0 (2,490)	70.9	14.2	1.5	0.7	5.3	4.9	1.1	1.3	

(2) 現在利用している施設に満足しているかー性別、障害名〔複数回答〕、年齢階級別

利用施設に「満足している」割合は69.4%、そのうち「とても満足している」は20.4%

平日の日中、主に職場（福祉的就労の施設）又は通所施設（生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く）で過ごしている人（235人）に現在利用している施設に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」の割合は20.4%で、「満足している」（27.2%）及び「だいたい満足している」（21.7%）と合わせた割合は69.4%となっている。

一方で、「やや不満である」（4.7%）、「不満である」（1.3%）、「とても不満である」（0.9%）を合わせた割合は、6.8%となっている。（表Ⅱ-7-2）

表Ⅱ-7-2 現在利用している施設に満足しているか
ー性別、障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	満足 とても している	満足 している	満足 だいた いして いる	ふ つ う	不 満 や や 不 満 で あ る	不 満 で あ る	不 満 と も と も 不 満 で あ る	無 回 答
総数		100.0 (235)	20.4	27.2	21.7	18.3	4.7	1.3	0.9	5.5
			69.4				6.8			
性別	男	100.0 (135)	15.6	28.1	25.9	16.3	5.9	1.5	-	6.7
	女	100.0 (100)	27.0	26.0	16.0	21.0	3.0	1.0	2.0	4.0
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (26)	15.4	34.6	19.2	19.2	3.8	3.8	-	3.8
	聴覚障害	100.0 (24)	25.0	29.2	16.7	20.8	4.2	-	-	4.2
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (17)	17.6	17.6	29.4	11.8	11.8	-	5.9	5.9
	肢体不自由(上肢)	100.0 (85)	20.0	24.7	28.2	15.3	7.1	2.4	1.2	1.2
	肢体不自由(下肢)	100.0 (68)	13.2	25.0	30.9	22.1	5.9	2.9	-	-
	肢体不自由(体幹)	100.0 (41)	17.1	29.3	26.8	17.1	4.9	-	-	4.9
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (119)	18.5	27.7	24.4	17.6	5.9	0.8	-	5.0
	内部障害	100.0 (23)	30.4	17.4	8.7	26.1	-	-	-	17.4
年齢階級別	29歳以下	100.0 (41)	24.4	41.5	9.8	7.3	4.9	2.4	2.4	7.3
	30～39歳	100.0 (41)	22.0	36.6	22.0	12.2	2.4	2.4	-	2.4
	40～49歳	100.0 (43)	16.3	16.3	27.9	23.3	9.3	-	-	7.0
	50～59歳	100.0 (39)	20.5	20.5	30.8	15.4	5.1	2.6	-	5.1
	60～69歳	100.0 (17)	11.8	35.3	23.5	17.6	-	-	5.9	5.9
	70～79歳	100.0 (25)	28.0	16.0	20.0	24.0	4.0	-	-	8.0
	80歳以上	100.0 (29)	17.2	24.1	17.2	34.5	3.4	-	-	3.4
	(再掲)65歳以上	100.0 (59)	22.0	20.3	20.3	27.1	3.4	-	-	6.8
平成30年度		100.0 (171)	21.6	22.8	27.5	16.4	3.5	1.8	1.2	5.3

注1) 性別のうち、「その他」は1人のため省略した。

2) 障害名〔複数回答〕のうち、「平衡機能障害」は3人のため省略した。

(3) 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

この1年間^{ねんかん}に行った趣味^{おこな}、学習^{しゅみ}、スポーツ^{がくしゅう}、社会活動^{しゃかいかつどう}などについて「活動した^{かつどう}」は51.6%、「活動しなかった^{かつどう}」は41.3%

この1年間に行った趣味、学習、スポーツ、社会活動などについて聞いたところ、「活動した」が51.6%、「活動しなかった」が41.3%となっている。

活動内容のうち、「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞、見物」、「健康維持等を目的とした運動、スポーツ活動」、「旅行やアウトドアなどの余暇活動」は、それぞれ2割を超えている。(23.0%、22.2%、21.7%)

「活動しなかった」理由としては「活動したいと思わない」が最も高く、22.0%となっている。(表Ⅱ-7-3)

表Ⅱ-7-3 趣味や社会活動への参加〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	活動した	鑑賞、見物	コンサートや映画、スポーツなどの	健康維持等を目的とした運動、スポーツ活	旅行やアウトドアなどの余暇活動	学習活動(オンライン参加含む)	趣味の習い事やサークル活動	ボランティア活動	障害者団体での活動	その他	活動しなかった	由で参加できない	活動したいと思うものはあるが、体調や情報保障の面などで合理的配慮がない等の理由	が見つけられない	何か活動したいと思うが、参加したいもの	活動したいと思わない	無回答
総数	100.0 (2,669)	51.6	23.0	22.2	21.7	6.8	11.2	3.9	3.5	3.6	41.3	10.7	8.6	22.0	7.2			
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (352)	50.3	22.2	20.2	22.7	9.9	9.7	6.3	7.1	4.3	40.9	11.9	5.4	23.6	8.8		
	聴覚障害	100.0 (404)	54.2	16.8	28.7	21.0	5.9	12.6	3.2	4.0	5.0	39.1	7.2	8.2	23.8	6.7		
	平衡機能障害	100.0 (14)	57.1	7.1	35.7	14.3	14.3	28.6	7.1	14.3	14.3	35.7	7.1	7.1	21.4	7.1		
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	52.8	18.6	21.9	13.4	3.3	8.9	4.8	6.7	4.1	40.1	10.4	11.9	17.8	7.1		
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	45.7	25.7	15.8	21.0	7.0	9.7	3.7	4.5	3.1	45.1	14.2	9.7	21.2	9.3		
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	46.2	22.1	17.3	19.3	4.6	8.9	3.1	3.0	3.0	44.7	14.4	9.6	20.8	9.1		
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	36.3	16.9	13.2	12.5	5.8	7.8	2.7	4.4	2.4	51.2	16.3	7.5	27.5	12.5		
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	59.9	30.1	17.8	22.7	10.4	11.7	4.9	9.4	5.2	29.8	10.0	7.8	12.0	10.4		
	内部障害	100.0 (779)	53.4	25.9	25.0	25.0	6.9	12.5	3.7	0.5	2.4	41.3	10.1	9.0	22.2	5.3		
年齢階級別	29歳以下	100.0 (97)	71.1	42.3	23.7	39.2	16.5	8.2	3.1	5.2	3.1	23.7	7.2	6.2	10.3	5.2		
	30～39歳	100.0 (129)	76.0	39.5	31.8	44.2	11.6	20.9	3.1	9.3	5.4	19.4	9.3	3.9	6.2	4.7		
	40～49歳	100.0 (233)	60.9	36.9	22.7	35.6	13.3	10.7	3.9	5.6	4.7	31.8	9.9	11.2	10.7	7.3		
	50～59歳	100.0 (390)	56.9	31.5	20.8	24.9	8.7	7.9	5.4	3.3	2.8	37.9	12.8	9.2	15.9	5.1		
	60～69歳	100.0 (480)	52.3	27.9	21.7	24.2	7.1	9.6	3.5	3.8	3.3	42.7	11.9	9.4	21.5	5.0		
	70～79歳	100.0 (623)	50.4	17.2	24.6	19.4	5.5	12.5	5.3	4.0	2.7	41.4	9.6	10.1	21.7	8.2		
	80歳以上	100.0 (717)	39.2	9.9	19.1	9.3	2.5	11.9	2.5	1.1	4.3	51.3	10.6	6.7	34.0	9.5		
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,589)	45.0	15.0	21.6	15.4	4.3	11.8	3.8	2.5	3.4	46.4	10.3	8.6	27.4	8.6		

(4) 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕別

社会参加の妨げになっていることは、「電車やバスなどを使っての移動が不便」が21.4%、「道路や駅などの利用が不便」が15.7%

社会参加をする上で妨げになっていることがあるか聞いたところ、「電車やバスなどを使っての移動が不便」の割合が21.4%、「道路や駅などの利用が不便」が15.7%となっている。一方で、「特にない」と答えた割合は、42.9%となっている。

障害名別にみると、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「電車やバスなどを使っての移動が不便」の割合が3割を超えている（30.2%～35.6%）。また、視覚障害、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（下肢）、肢体不自由（体幹）、肢体不自由（脳原性運動機能障害）では、「道路や駅などの利用が不便」がそれぞれ2割を超えている（21.5%～25.4%）。

一方、聴覚障害、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害及び内部障害では「特にない」がそれぞれ4割を超えている（45.3%～54.7%）。(表II-7-4)

表II-7-4 社会参加をする上で妨げになっていること〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕別

	総数	道路や駅などの利用が不便	電車やバスなどを使っての移動が不便	利用する建物の設備が整備されていない	点字版が古い、破損等により利用が不便	介助者がいない	情報がない	参加連絡などの問合せができないため、FAX番号やメールアドレスなど、連絡方法の整備がされていない	理解不足	まわりの人の障害者に対する拒否される	障害を理由に施設等の利用を拒否される	適切な指導者がいない	一緒に行く仲間がいない	※1 表示、点字などの準備がされていない	※2 要約筆記、手話通訳、字幕・文字表示、点字などの準備がされていない	ヘルプマーク等をつけて外出しているが、必要な配慮がされない	その他	特にない	無回答
総数	100.0 (2,669)	15.7	21.4	5.7	0.1	7.9	6.6	1.8	8.2	0.9	2.4	6.8	2.6	3.6	9.1	42.9	7.6		
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (352)	23.9	28.1	5.4	0.9	11.1	9.1	2.3	11.6	1.1	3.1	6.8	2.3	4.3	8.0	32.7	10.2	
	聴覚障害	100.0 (404)	6.9	9.9	1.2	-	6.2	8.7	5.4	11.1	1.0	2.5	8.9	14.1	1.2	6.7	45.3	9.2	
	平衡機能障害	100.0 (14)	28.6	35.7	14.3	-	7.1	14.3	7.1	14.3	-	-	21.4	7.1	14.3	-	21.4	-	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	8.9	12.6	2.6	-	5.2	7.8	3.0	13.4	0.7	3.0	7.8	2.6	4.5	11.2	46.1	4.8	
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	22.8	30.2	13.4	-	13.4	7.6	1.6	11.5	1.4	3.5	7.0	0.2	4.9	8.2	31.1	7.4	
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	21.5	28.1	11.1	-	10.2	5.8	0.8	8.7	0.7	2.8	6.6	0.2	4.8	9.4	34.7	8.9	
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	25.4	35.6	11.2	-	14.9	8.8	1.4	7.5	2.0	4.1	6.4	0.3	3.7	12.2	22.0	11.5	
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	23.3	32.4	16.8	-	15.2	7.4	1.3	12.0	2.3	4.2	9.7	-	2.3	7.4	23.9	10.0	
内部障害	100.0 (779)	11.3	17.3	3.5	-	5.0	4.7	0.9	3.2	0.5	1.4	5.4	0.1	3.9	9.4	54.7	6.4		
平成30年度	100.0 (2,490)	19.0	20.5	6.0	0.4	8.7	5.3	2.3	9.2	1.3	1.9	7.0	2.1	2.4	11.2	43.4	3.6		

注1) ※1 平成30年度調査では「障害者の参加を想定していないため、通訳、文字表示、点字など配慮がされていない」としていた。

2) ※2 平成30年度調査では「ヘルプマークを持っているが、配慮がされない」としていた。

(5) 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

「旅行や遠距離の外出」の割合が32.9%で、平成30年度調査よりも5.7ポイント減

障害のためにあきらめたり、妥協せざるを得なかったことを聞いたところ、「旅行や遠距離の外出」が32.9%、「スポーツ・文化活動」が21.4%、「人付き合い」が17.6%となっている。「旅行や遠距離の外出」は、平成30年度調査（38.6%）より5.7ポイント減少している。また、「特にない」の割合は36.2%となっている。

障害名別にみると、視覚障害、音声機能・言語機能障害・そしゃく機能の障害、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（下肢）及び肢体不自由（体幹）では「旅行や遠距離の外出」が最も高く、それぞれ35.8%、29.4%、41.4%、40.3%、50.8%となっている。音声機能・言語機能・そしゃく機能障害では「好きな食事や嗜好品」が20.4%となっている。肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「就職」及び「結婚」が最も高く、それぞれ31.1%となっている。

一方、聴覚障害及び内部障害では「特にない」が最も高く、それぞれ50.2%、38.6%となっている。（表Ⅱ-7-5）

表Ⅱ-7-5 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	総数	進学	就職	恋愛 ※1	結婚	出産・育児	人付き合い	近距離の外出	旅行や遠距離の外出	スポーツ・文化活動 などのおしゃやれ	好きな食事や嗜好品（お酒、たばこ、 コーヒーなど）※2	その他	特にない	無回答		
総数	100.0 (2,669)	5.5	14.1	8.2	9.3	4.6	17.6	15.0	32.9	8.7	21.4	12.3	3.1	36.2	4.5	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (352)	6.3	17.6	8.8	10.5	4.3	19.6	22.2	35.8	10.5	23.0	10.2	4.5	32.1	7.4
	聴覚障害	100.0 (404)	5.9	10.4	5.0	5.9	1.5	27.2	5.7	13.9	3.7	10.6	3.2	2.2	50.2	5.0
	平衡機能障害	100.0 (14)	7.1	21.4	21.4	21.4	-	28.6	21.4	50.0	7.1	21.4	7.1	-	21.4	7.1
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	4.1	13.4	3.3	5.6	2.6	26.4	8.6	29.4	6.3	18.6	20.4	3.0	34.9	4.1
	肢体不自由（上肢）	100.0 (486)	10.1	24.7	15.0	15.8	8.0	22.0	24.1	41.4	16.5	28.4	14.4	3.7	23.3	3.5
	肢体不自由（下肢）	100.0 (606)	7.4	17.8	11.2	11.7	5.4	17.5	22.3	40.3	14.7	29.0	11.6	3.6	28.7	4.1
	肢体不自由（体幹）	100.0 (295)	8.8	18.3	15.6	14.2	8.8	25.8	29.2	50.8	18.6	28.5	17.3	3.7	19.3	6.1
	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	100.0 (309)	21.4	31.1	27.8	31.1	13.6	15.5	16.2	29.8	12.9	22.3	9.1	4.9	25.6	6.5
	内部障害	100.0 (779)	1.3	8.2	4.6	5.3	3.9	9.8	11.2	38.4	4.6	18.7	16.2	3.1	38.6	4.2
平成30年度	100.0 (2,490)	4.8	13.4	6.8	7.3	3.3	15.7	18.6	38.6	7.8	22.0	-	2.2	37.3	3.0	

注1) ※1 平成30年度では「異性との付き合い」としていた。

2) ※2 平成30年度では選択肢として設けていなかった。

(6) 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕

－医療的ケアの内容〔複数回答〕別

障害のためにあきらめたり、妥協せざるを得なかったことを医療的ケアの内容別にみると、「旅行や遠距離の外出」以外の項目のうち、気管切開の管理及び経管栄養では「好きな食事や嗜好品（お酒、たばこ、コーヒーなど）」がそれぞれ 35.2%、36.7%となっている。酸素療法では「近距離の外出」が 36.6%となっている。皮下注射では、「スポーツ・文化活動」が 34.7%となっている。痙攣時の対応（座薬挿入、吸引、酸素療法、迷走神経刺激装置の作動などの処置）では、「結婚」が 37.5%、「就職」と「恋愛」がそれぞれ 32.5%となっている。（表Ⅱ-7-6）

表Ⅱ-7-6 障害のためにあきらめたり妥協したこと〔複数回答〕

－医療的ケアの内容〔複数回答〕別

	総数	進学	就職	恋愛 ※1	結婚	出産・育児	人付き合い	近距離の外出	旅行や遠距離の外出	なおのしやれ	スポーツ・文化活動	嗜好品（お酒、たばこ、コーヒーなど）※2	好きな食事や嗜好品	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (2,669)	5.5	14.1	8.2	9.3	4.6	17.6	15.0	32.9	8.7	21.4	12.3	3.1	36.2	4.5	
人工呼吸器（CPAP装置等マスク型を含む）	100.0 (41)	12.2	17.1	24.4	19.5	9.8	19.5	17.1	34.1	17.1	22.0	17.1	2.4	34.1	12.2	
気管切開の管理	100.0 (54)	3.7	11.1	7.4	5.6	7.4	35.2	18.5	50.0	24.1	24.1	35.2	3.7	14.8	5.6	
鼻咽頭エアウェイの管理	100.0 (20)	10.0	25.0	10.0	15.0	10.0	50.0	10.0	40.0	15.0	20.0	15.0	15.0	10.0	10.0	
酸素療法	100.0 (41)	7.3	19.5	17.1	12.2	12.2	22.0	36.6	46.3	12.2	24.4	24.4	7.3	14.6	12.2	
吸引	100.0 (87)	6.9	12.6	10.3	9.2	9.2	29.9	26.4	44.8	20.7	20.7	27.6	5.7	24.1	9.2	
ネブライザーの管理	100.0 (36)	11.1	19.4	11.1	13.9	13.9	22.2	22.2	36.1	22.2	19.4	16.7	2.8	38.9	2.8	
経管栄養	100.0 (60)	6.7	13.3	13.3	15.0	10.0	26.7	23.3	45.0	20.0	18.3	36.7	5.0	20.0	10.0	
中心静脈カテーテルの管理	100.0 (12)	-	16.7	16.7	8.3	8.3	16.7	16.7	50.0	8.3	25.0	25.0	-	25.0	8.3	
皮下注射	100.0 (72)	4.2	15.3	6.9	8.3	2.8	16.7	27.8	56.9	13.9	34.7	20.8	2.8	18.1	4.2	
血糖測定	100.0 (163)	4.3	11.7	5.5	5.5	2.5	13.5	20.2	41.7	9.2	22.1	17.8	3.1	29.4	4.9	
継続的な透析	100.0 (156)	1.9	13.5	3.8	5.1	5.1	12.8	9.6	56.4	1.3	16.7	28.2	4.5	21.2	2.6	
導尿	100.0 (70)	2.9	11.4	14.3	12.9	7.1	22.9	22.9	51.4	18.6	28.6	17.1	4.3	25.7	8.6	
排便管理	100.0 (187)	5.9	11.8	13.4	14.4	7.0	21.4	28.3	44.9	19.3	28.3	19.3	5.3	23.0	10.2	
痙攣時の対応（座薬挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置）	100.0 (40)	22.5	32.5	32.5	37.5	27.5	22.5	30.0	55.0	25.0	25.0	27.5	7.5	5.0	17.5	
その他	100.0 (73)	5.5	17.8	12.3	19.2	11.0	34.2	27.4	45.2	19.2	31.5	26.0	9.6	23.3	4.1	
特に必要としていない	100.0 (1,669)	5.8	14.3	8.2	9.2	4.0	17.1	12.5	27.3	7.2	20.4	8.0	2.5	40.7	3.2	

注1) ※1 平成30年度では「異性との付き合い」としていた。

2) ※2 平成30年度では選択肢として設けていなかった。

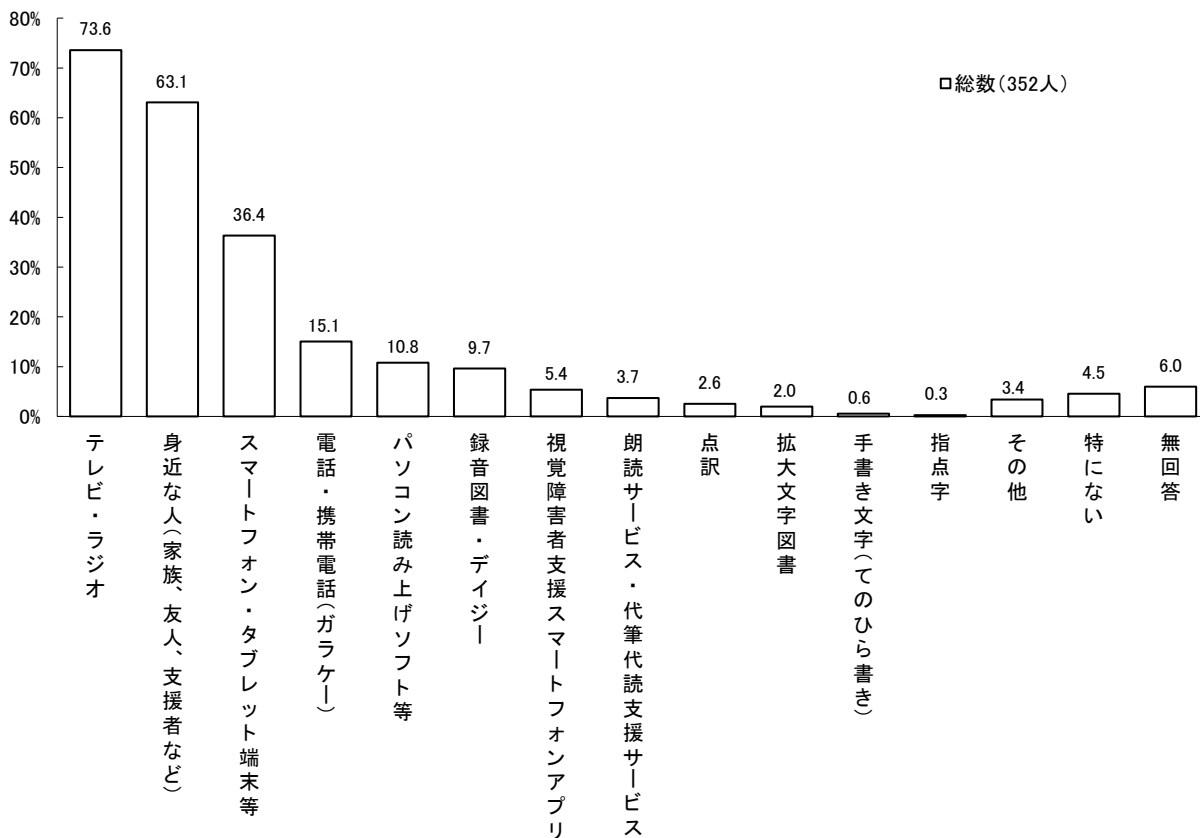
8 情報の入手やコミュニケーションの手段

(1) 情報の入手やコミュニケーションの手段（視覚障害者）〔複数回答〕

視覚障害者の情報の入手やコミュニケーションの手段は、「テレビ・ラジオ」の割合が73.6%、「身近な人（家族、友人、支援者など）」が63.1%

視覚障害者（352人）に情報の入手やコミュニケーションの手段について聞いたところ、「テレビ・ラジオ」が73.6%、「身近な人（家族、友人、支援者など）」が63.1%、「スマートフォン・タブレット端末等」が36.4%となっている。（図II-8-1）

図II-8-1 情報の入手やコミュニケーションの手段（視覚障害者）〔複数回答〕



(2) 情報の入手やコミュニケーションの手段（視覚障害者）〔複数回答〕-性・年齢階級別
 視覚障害者（352人）の情報の入手やコミュニケーションの手段について、年齢階級別にみると、「スマートフォン・タブレット端末等」について、60代以下の各階級では4割を超えている（47.0%～68.4%）。

表II-8-1 情報の入手やコミュニケーションの手段（視覚障害者）〔複数回答〕

-性・年齢階級別

		総数	点訳	指点字	手書き文字 (へのひら書き)	拡大文字図書	録音図書・デージー	朗読サービス・ 代筆代読支援サービス	テレビ・ラジオ	電話・携帯電話 (ガラケー)	スマートフォン・ タブレット端末等	パソコン読み上げ ソフト等	視覚障害者用スマート フォンアプリ	身近な人(家族、友 人、支援者など)	その他	特にない	無回答
総数		100.0 (352)	2.6	0.3	0.6	2.0	9.7	3.7	73.6	15.1	36.4	10.8	5.4	63.1	3.4	4.5	6.0
性別	男	100.0 (183)	2.7	0.5	0.5	2.2	10.9	4.4	73.8	12.6	42.6	14.2	6.0	59.6	2.7	4.4	6.0
	女	100.0 (169)	2.4	-	0.6	1.8	8.3	3.0	73.4	17.8	29.6	7.1	4.7	66.9	4.1	4.7	5.9
年齢階級別	29歳以下	100.0 (15)	13.3	-	-	6.7	13.3	-	66.7	13.3	<u>60.0</u>	40.0	13.3	86.7	-	-	-
	30～39歳	100.0 (12)	8.3	-	-	-	-	-	66.7	-	<u>58.3</u>	8.3	-	75.0	-	-	8.3
	40～49歳	100.0 (38)	2.6	-	-	-	13.2	7.9	71.1	2.6	<u>68.4</u>	21.1	15.8	63.2	2.6	7.9	-
	50～59歳	100.0 (47)	6.4	-	-	4.3	8.5	2.1	70.2	12.8	<u>61.7</u>	8.5	8.5	55.3	2.1	4.3	8.5
	60～69歳	100.0 (66)	1.5	1.5	1.5	1.5	13.6	6.1	77.3	15.2	<u>47.0</u>	18.2	9.1	59.1	3.0	4.5	4.5
	70～79歳	100.0 (76)	1.3	-	-	2.6	9.2	2.6	73.7	30.3	18.4	6.6	1.3	59.2	2.6	7.9	7.9
	80歳以上	100.0 (98)	-	-	1.0	1.0	7.1	3.1	75.5	11.2	12.2	2.0	-	67.3	6.1	2.0	7.1
	(再掲)65歳以上	100.0 (208)	1.0	-	0.5	1.4	9.1	3.8	74.5	17.8	19.2	6.3	1.9	62.0	4.3	4.8	7.2

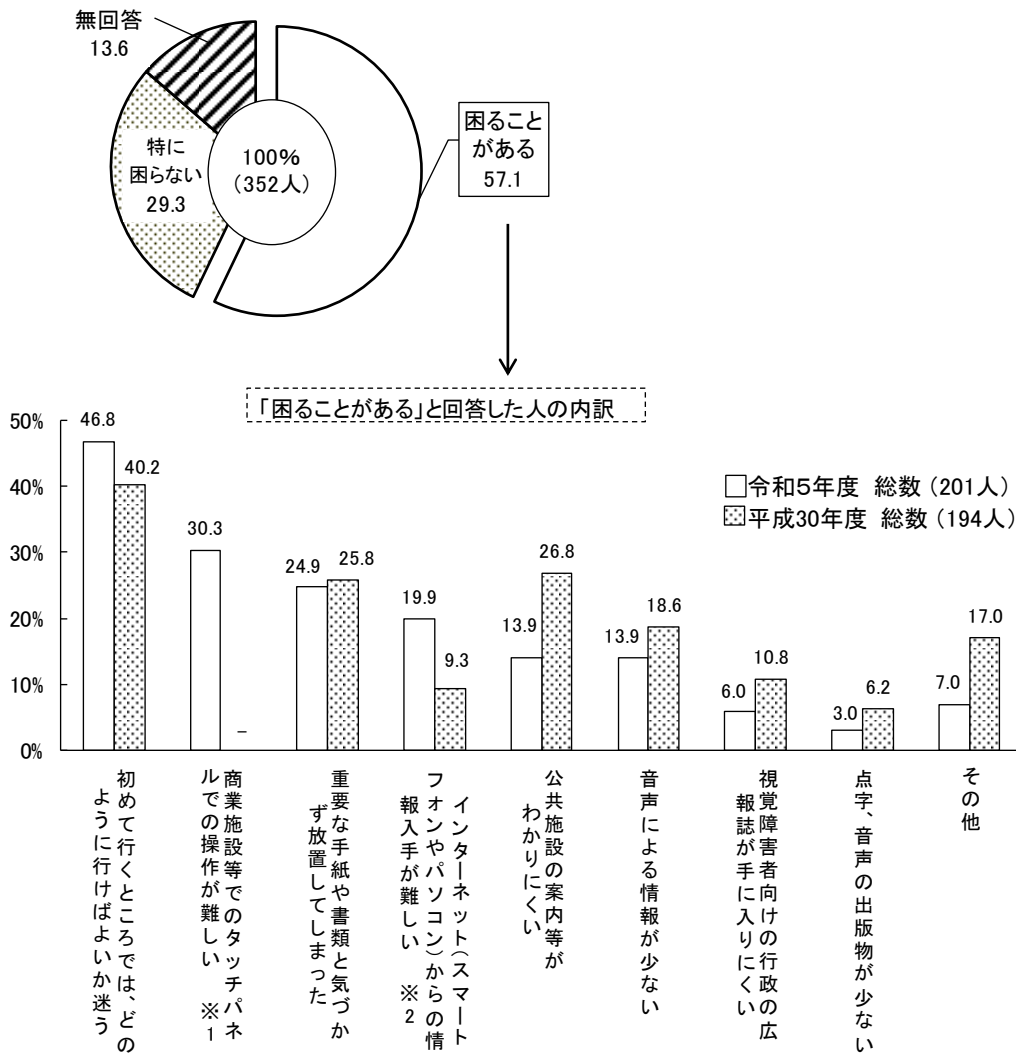
(3) 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）
〔2つまでの複数回答〕

視覚障害者が情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」が46.8%

視覚障害者（352人）に情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合は57.1%、「特に困らない」は29.3%となっている。

困ることの内容では、「初めて行くところでは、どのように行けばよいか迷う」の割合が46.8%で最も高く、次いで「商業施設等でのタッチパネルでの操作が難しい」の割合が30.3%となっている。「公共施設の案内等がわかりにくい」は平成30年度調査(26.8%)より12.9ポイント減少し、13.9%となっている。（図II-8-2）

図II-8-2 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（視覚障害者）
〔2つまでの複数回答〕



注1) ※1 平成30年度調査では選択肢として設けていなかった。

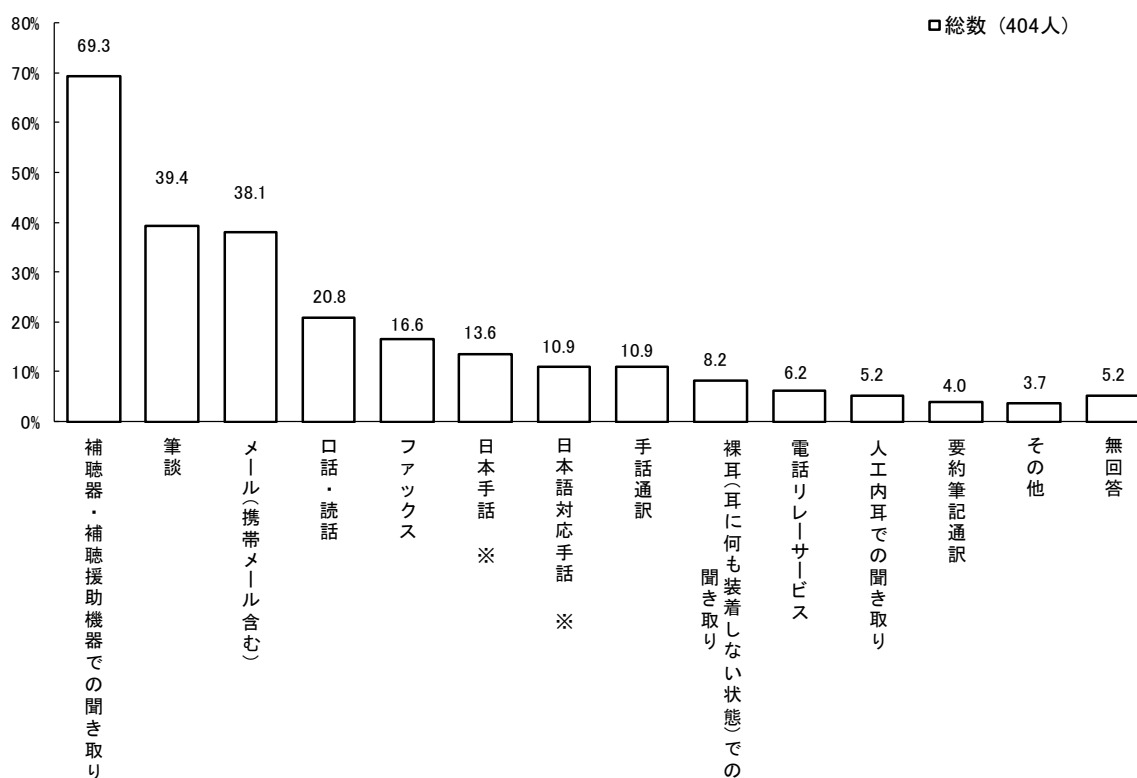
2) ※2 平成30年度調査では「ウェブ上(スマートフォンやパソコン)からの情報入手が難しい」としていた。

(4) コミュニケーションの手段（聴覚障害者）〔複数回答〕

聴覚障害者のコミュニケーションの手段は、「補聴器・補聴援助機器での聞き取り」の割合が 69.3%

聴覚障害者（404人）にコミュニケーションの手段について聞いたところ、「補聴器・補聴援助機器での聞き取り」の割合が 69.3%、「筆談」が 39.4%、「メール（携帯メール含む）」が 38.1%となっている。手話の利用については、「日本手話」が 13.6%、「日本語対応手話」及び「手話通訳」がそれぞれ 10.9%となっている。（図 II-8-3）

図 II-8-3 コミュニケーションの手段（聴覚障害者）〔複数回答〕



注1) ※東京都手話言語条例（令和4年6月22日条例第110号）の施行に伴い、新たに選択肢に追加した。

2) 本調査では、「日本手話」と「日本語対応手話」の用語について、以下の意味で用いている。

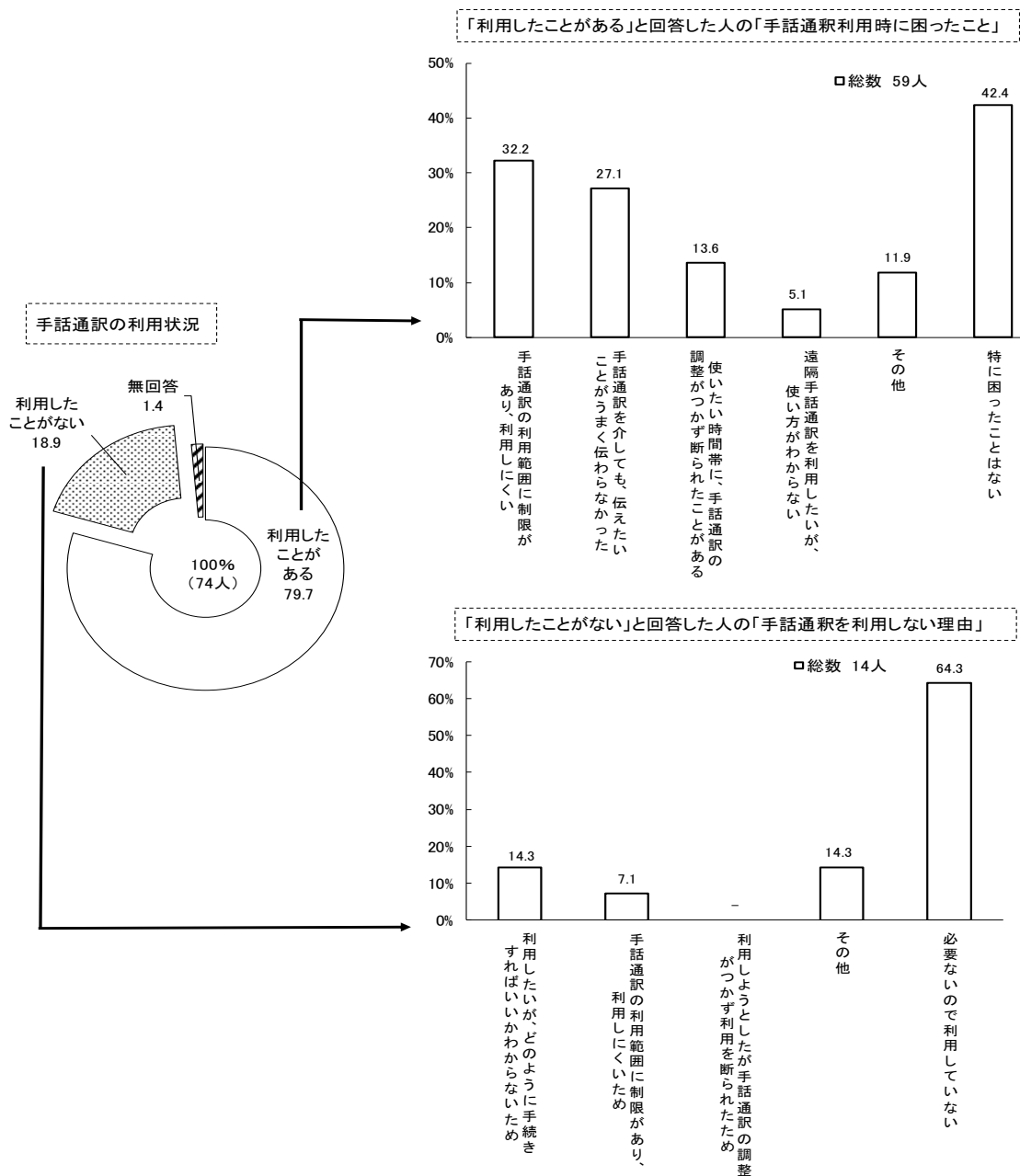
	日本手話	日本語対応手話
説明	ろう者が伝統的に用いてきた手話で、日本語との対応はなく独自の文法の手話	文章を書く時の文法に合わせて表現する日本語に合わせた手話
手話(例)	「パソコン」「私」 「何+困る表情(どこ?)」	「私」「の(口形)」「パソコン」「は(口形)」 「どこ(「何」+「場所」)」 「?(指でなぞる)」

(5) 手話通訳の利用状況、手話通訳の利用時に困ったこと〔複数回答〕、
手話通訳を利用しない理由〔複数回答〕

「日本手話」、「日本語対応手話」のどちらか一つ以上を利用している人（74人）に手話通訳を利用したことがあるかを聞いたところ、手話通訳を利用したことが「ある」人は79.7%、利用したことが「ない」人は18.9%となっている。

手話通訳を利用したことが「ある」と回答した人（59人）に手話通訳の利用時に困ったことについて聞いたところ、「手話通訳の利用範囲に制限があり、利用しにくい」が32.2%、「手話通訳を介しても、伝えたいことがうまく伝わらなかった」が27.1%となっている。一方、「特に困ったことはない」は42.4%となっている。（図II-8-4）

図II-8-4 手話通訳の利用状況、手話通訳利用時に困ったこと〔複数回答〕、手話通訳を利用しない理由〔複数回答〕



(6) 情報の入手やコミュニケーションの手段（聴覚障害者）〔複数回答〕-性・年齢階級別
 聴覚障害者（404人）のコミュニケーションの手段について年齢階級別にみると、30代から50代までの各階級では、「口話・読話」が4割を超えており（44.0%～51.2%）、70代及び80歳以上では、「補聴器・補聴援助機器での聞き取り」が7割を超えている（71.6%、76.1%）。50代では、「ファックス」の割合が36.6%となっている。

（表II-8-2）

表II-8-2 情報の入手やコミュニケーションの手段（聴覚障害者）〔複数回答〕
 -性・年齢階級別

		総数	裸耳（耳に何も装着しない）での聞き取り	補聴器・補聴援助機器での聞き取り	人工内耳での聞き取り	筆談	要約筆記通訳	口話・読話	日本手話	日本語対応手話	手話通訳	メール（携帯メール含む）	ファックス	電話リレーサービス	その他	無回答
総数		100.0 (404)	8.2	69.3	5.2	39.4	4.0	20.8	13.6	10.9	10.9	38.1	16.6	6.2	3.7	5.2
性別	男	100.0 (204)	8.3	72.5	4.4	36.8	3.4	17.6	14.7	12.7	11.3	33.3	17.6	6.4	4.9	3.9
	女	100.0 (200)	8.0	66.0	6.0	42.0	4.5	24.0	12.5	9.0	10.5	43.0	15.5	6.0	2.5	6.5
年齢階級別	29歳以下	100.0 (18)	11.1	55.6	16.7	22.2	5.6	38.9	16.7	33.3	11.1	27.8	-	11.1	5.6	5.6
	30～39歳	100.0 (18)	5.6	55.6	11.1	55.6	5.6	<u>44.4</u>	27.8	27.8	27.8	61.1	5.6	22.2	5.6	5.6
	40～49歳	100.0 (25)	8.0	52.0	16.0	64.0	4.0	<u>44.0</u>	20.0	16.0	8.0	32.0	8.0	12.0	8.0	-
	50～59歳	100.0 (41)	9.8	61.0	4.9	61.0	7.3	<u>51.2</u>	39.0	26.8	29.3	78.0	<u>36.6</u>	12.2	7.3	4.9
	60～69歳	100.0 (48)	2.1	66.7	2.1	52.1	4.2	22.9	14.6	12.5	18.8	56.3	20.8	10.4	-	4.2
	70～79歳	100.0 (74)	8.1	<u>71.6</u>	6.8	37.8	5.4	12.2	12.2	9.5	9.5	32.4	17.6	2.7	4.1	-
	80歳以上	100.0 (180)	9.4	<u>76.1</u>	2.2	28.3	2.2	9.4	5.6	2.8	3.9	26.1	14.4	2.2	2.8	8.3
	(再掲)65歳以上	100.0 (280)	8.2	74.6	3.6	32.1	2.9	10.7	7.5	4.6	6.1	30.4	15.0	2.5	2.9	5.4

(7) 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）

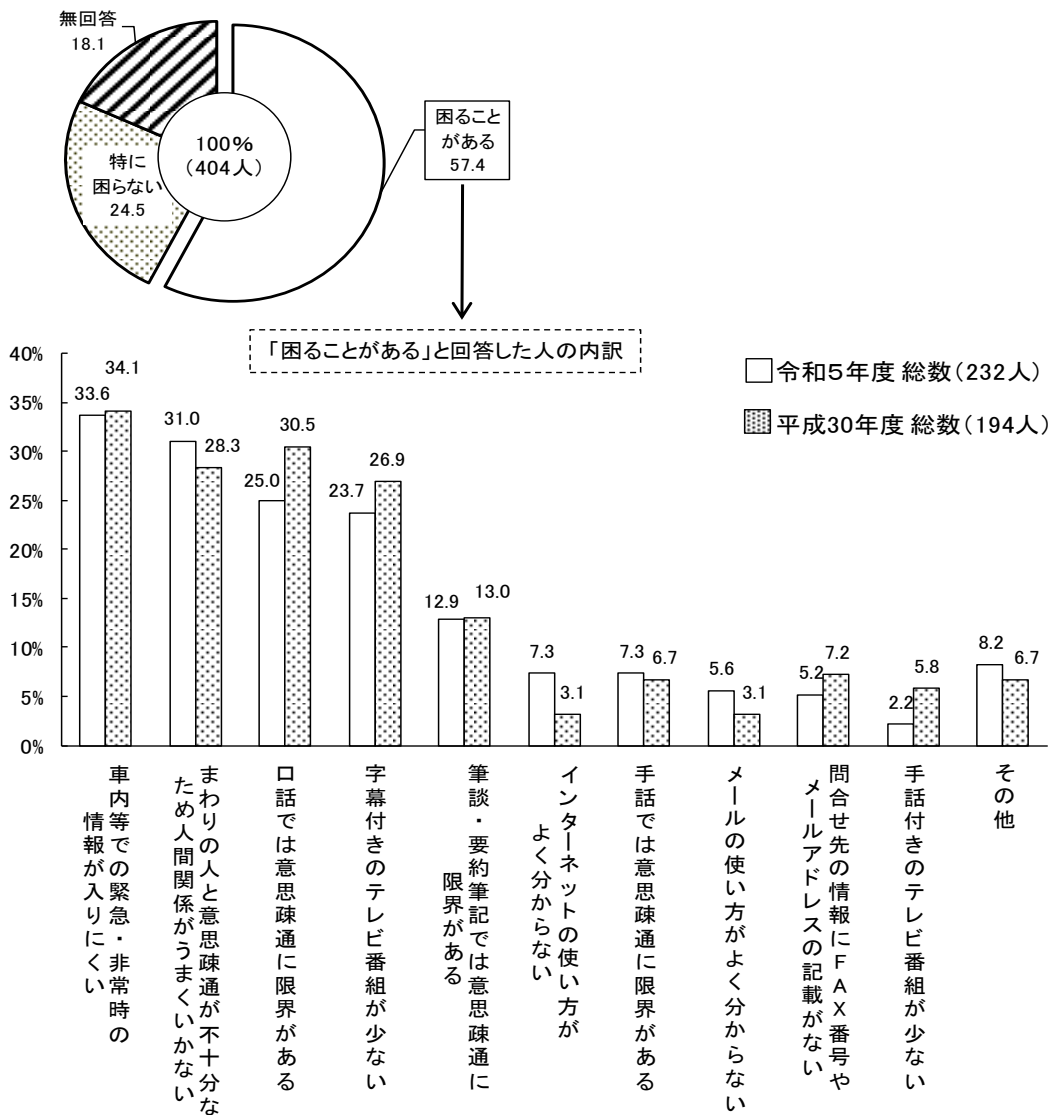
〔2つまでの複数回答〕

聴覚障害者が情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることは、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」及び「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」で、いずれも3割を超えている

聴覚障害者（404人）に情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ることがあるか聞いたところ、「困ることがある」の割合は57.4%、「特に困らない」は24.5%となっている。

困ることの内容では、「車内等での緊急・非常時の情報が入りにくい」の割合が33.6%、「まわりの人と意思疎通が不十分なため人間関係がうまくいかない」が31.0%となっている。（図II-8-5）

図II-8-5 情報を入力したり、コミュニケーションをとる上で困ること（聴覚障害者）
〔2つまでの複数回答〕



(8) 意思を伝える場合に困ること〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

しょうがいがあるためいしをつたえるばあいこまかいは、かいわはつごができない、こえがききとれないなど)が26.9%

障害があるため、意思を伝える場合に困ることがあるか聞いたところ、「会話（発語ができない、声が聞きとれないなど）」が26.9%となっている。一方で、「困ることはない」の割合は56.9%となっている。

障害名別にみると、「会話（発語ができない、声が聞きとれないなど）」の割合は、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では74.7%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下では「会話（発語ができない、声が聞きとれないなど）」の割合が48.5%となっている。（表Ⅱ-8-3）

表Ⅱ-8-3 意思を伝える場合に困ること〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	※1 1 会話が聞きとれないなど、	※2 2 読めない（文字を書けない、	※3 3 自分の意思を読み取って 表情やサインなどから、 家族や支援者などに、 もらうことが必要	その他	困ることはない	無回答
総数		100.0 (2,669)	26.9	14.8	9.7	4.8	56.9	3.5
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (352)	10.8	40.3	5.4	6.5	44.0	4.8
	聴覚障害	100.0 (404)	67.6	5.4	10.1	5.7	23.8	3.7
	平衡機能障害	100.0 (14)	28.6	14.3	14.3	7.1	35.7	21.4
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	74.7	21.2	27.1	5.2	16.4	1.9
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	28.2	24.5	16.7	6.0	53.9	3.1
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	19.1	16.0	9.7	4.3	66.5	4.0
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	29.5	23.4	19.7	7.1	48.1	5.4
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	39.2	29.4	26.9	7.4	36.6	4.9
	内部障害	100.0 (779)	5.5	4.2	2.7	3.2	85.5	3.2
年齢階級別	29歳以下	100.0 (97)	48.5	33.0	33.0	5.2	38.1	1.0
	30～39歳	100.0 (129)	34.9	21.7	30.2	7.0	39.5	5.4
	40～49歳	100.0 (233)	27.9	14.6	14.2	4.7	56.2	3.4
	50～59歳	100.0 (390)	24.4	14.6	8.7	6.9	58.5	2.1
	60～69歳	100.0 (480)	23.3	15.2	4.6	4.4	62.1	1.3
	70～79歳	100.0 (623)	24.7	14.8	6.6	4.0	60.7	3.4
	80歳以上	100.0 (717)	27.8	11.0	8.1	4.3	55.1	6.0
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,589)	25.5	12.8	6.9	4.1	58.8	4.2
平成30年度	100.0 (2,490)	28.9	15.7	-	2.6	60.1	3.5	

- 注1) ※1 平成30年度調査では「会話」としていた。
 2) ※2 平成30年度調査では「筆記」としていた。
 3) ※3 平成30年度調査では選択肢として設けていなかった。

(9) 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している日常生活用具
〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕

日常生活用具にちじょうせいかつようぐを利用りようしている割合わりあいは 12.5%

情報を入手したり、コミュニケーションを円滑にするために利用している日常生活用具があるか聞いたところ、「利用しているものがある」の割合が 12.5%、「日常生活用具給付等事業の制度自体を知らなかった（利用できることを知らなかった）」が 33.6%（P. 85）、「日常生活用具給付等事業の制度は知っているが、利用していない」が 26.0%（P. 85）となっている。

障害名別にみると、視覚障害、聴覚障害及び音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では、「利用しているものがある」の割合が 2 割を超えている（24.8%～31.6%）。

利用している日常生活用具は、視覚障害では「視覚障害者用拡大読書器」の割合が 9.7%、聴覚障害では「聴覚障害者用通信装置」が 10.6%（P. 85）、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害では「人工喉頭」が 14.1%（P. 85）となっている。（表 II-8-4）

表 II-8-4 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している日常生活用具〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別

	総数	利用しているものがある	携帯用会話補助装置	情報・通信支援用具	点字ディスプレイ	点字器	点字タイプライター	ポータブルレコーダー	視覚障害者用拡大読書器	視覚障害者用活字文書読上げ装置	視覚障害者用拡大読書器	盲人用時計
総数	100.0 (2,669)	12.5	2.8	1.7	0.6	0.5	0.2	0.7	0.8	1.3	1.2	
視覚障害	100.0 (352)	29.3	1.1	4.8	4.0	3.7	1.4	5.7	6.3	9.7	9.4	
聴覚障害	100.0 (404)	24.8	5.9	2.0	0.2	-	-	-	-	0.2	-	
平衡機能障害	100.0 (14)	14.3	-	-	7.1	-	-	-	-	-	-	
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	31.6	11.5	3.0	0.4	-	-	-	-	-	-	
肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	4.5	1.0	1.4	-	-	-	-	-	0.2	-	
肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	4.3	1.0	0.7	-	-	-	-	-	-	-	
肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	6.8	1.7	2.4	0.3	-	-	-	-	-	-	
肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	4.9	2.3	0.6	-	-	-	-	-	-	-	
内部障害	100.0 (779)	3.7	1.2	0.6	-	-	-	0.1	-	-	0.3	

(次ページに続く)

表 II-8-4 情報の入手やコミュニケーションを円滑にするために利用している
日常生活用具〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕別（続）

	聴覚障害者用通信装置	聴覚障害者用情報受信装置	人工喉頭	福祉電話（貸与）	ファックス（貸与）	視覚障害者用ワープロセッター	点字図書	その他	日常生活用具給付等、利用していない	日常生活用具給付等、利用した（利用できなかった）	無回答
総数	1.7	1.5	1.5	0.1	1.1	0.1	0.5	1.7	26.0	33.6	27.9
視覚障害	0.6	0.3	-	0.3	0.6	1.1	4.0	2.0	26.4	23.0	21.3
聴覚障害	10.6	9.4	-	-	4.7	-	-	2.0	18.8	31.4	25.0
平衡機能障害	7.1	7.1	-	-	-	-	-	-	14.3	28.6	42.9
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	0.7	0.7	14.1	0.4	3.7	-	-	4.1	21.6	26.8	20.1
肢体不自由(上肢)	-	-	0.6	-	0.6	-	-	1.4	32.5	34.6	28.4
肢体不自由(下肢)	0.2	-	0.5	0.2	0.5	-	-	1.7	29.4	38.0	28.4
肢体不自由(体幹)	0.3	0.3	-	-	-	-	-	2.4	30.5	28.8	33.9
肢体不自由(脳原性運動機能障害)	0.3	0.3	-	0.3	0.6	-	-	1.3	35.6	25.2	34.3
内部障害	0.1	0.1	0.1	-	0.3	-	-	1.3	25.9	38.3	32.1

注) 日常生活用品給付事業とは、障害者総合支援法の地域生活支援事業（区市町村事業）の1つで、障害者等の日常生活がより円滑に行われるための用具を給付・貸与する事業

9 障害者総合支援法による障害福祉サービス等

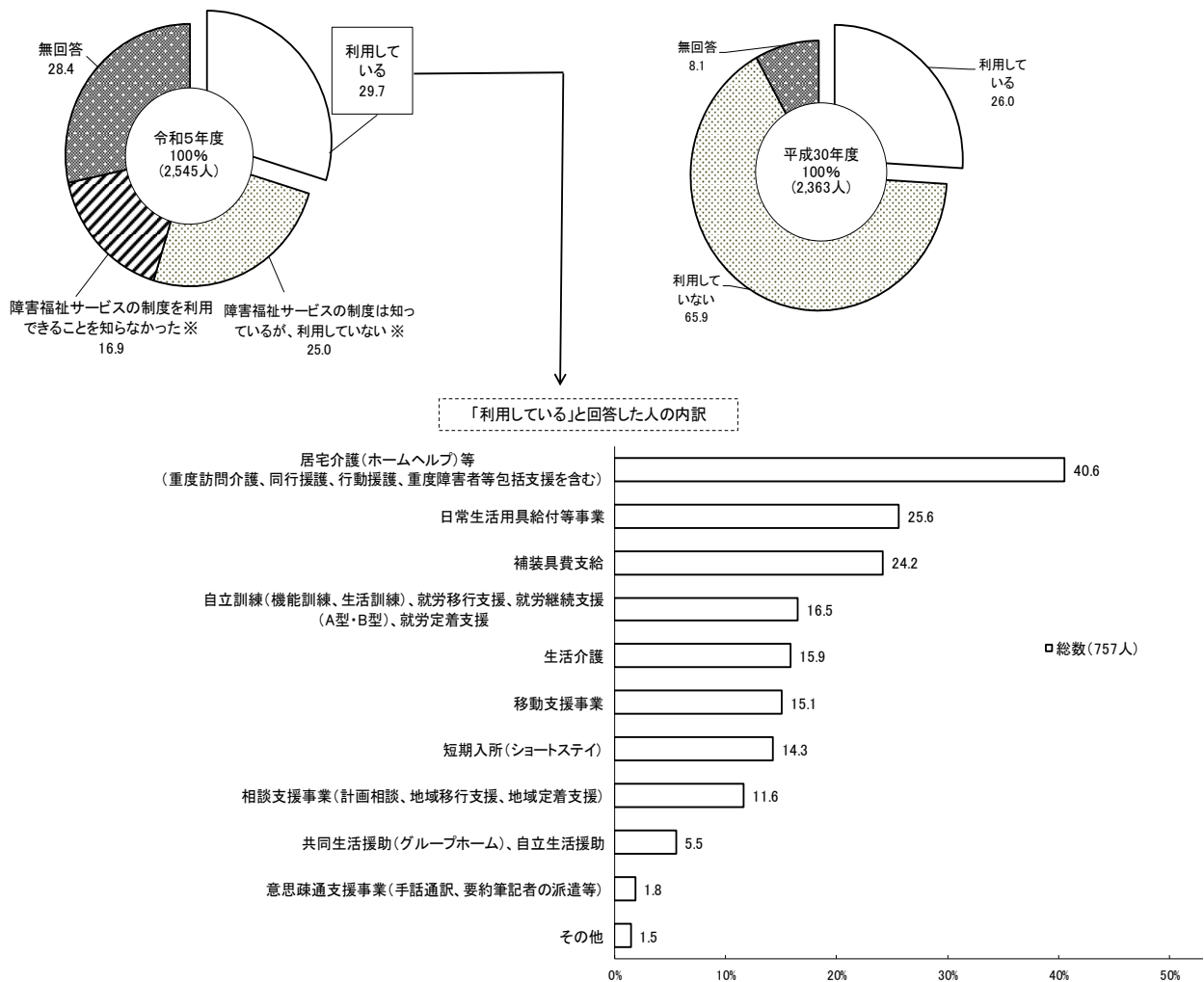
(1) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

障害者総合支援法による障害福祉サービス等を「利用している」割合は 29.7%で、利用した内容では「居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援を含む）」が 40.6%

自宅で生活している（2,545人）に過去1年間に障害者総合支援法による障害福祉サービスを利用したか聞いたところ、「利用している」の割合が 29.7%、「障害福祉サービスの制度は知っているが、利用していない」が 25.0%、「障害福祉サービスの制度を利用できることを知らなかった」が 16.9%となっている。

利用したサービスでは、「居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援を含む）」の割合が 40.6%、「日常生活用具給付等事業」が 25.6%、「補装具費支給」が 24.2%となっている。（図Ⅱ-9-1）

図Ⅱ-9-1 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕



注) ※ 平成 30 年度調査では「利用していない」という選択肢としていた。

(2) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）を障害名別にみると、「利用している」割合が高いのは、肢体不自由（脳原性運動機能障害）が62.8%、肢体不自由（体幹）が49.1%、肢体不自由（上肢）は44.5%となっている。利用したサービス内容では「居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援を含む）」の割合が最も高く、それぞれ33.7%、30.9%、24.0%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下、30代及び40代では、「利用している」割合がいずれも4割を超えている（61.7%、53.2%、43.2%）。（表Ⅱ-9-1）

表Ⅱ-9-1 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	利用している	居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援を含む）	短期入所（ショートステイ）	生活介護	自立訓練（機能訓練、生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労定着支援	共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助	補装具費支給	移動支援事業	意思疎通支援事業（手話通訳、要約筆記者の派遣等）	日常生活用具給付等事業	相談支援事業（計画相談、地域移行支援、地域定着支援）	その他	障害福祉サービスの制度は知っているが、利用していない	障害福祉サービスの制度を利用できることを知らなかった	無回答	
総数	100.0 (2,545)	29.7	12.1	4.2	4.7	4.9	1.7	7.2	4.5	0.6	7.6	3.5	0.4	25.0	16.9	28.4	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (334)	35.0	15.3	1.8	3.6	5.4	1.8	5.1	5.7	-	12.9	3.0	-	24.9	19.2	21.0
	聴覚障害	100.0 (394)	30.2	5.1	3.3	1.8	2.8	0.8	9.1	1.3	3.3	8.9	1.3	1.3	27.4	16.2	26.1
	平衡機能障害	100.0 (13)	38.5	23.1	-	7.7	-	7.7	-	7.7	7.7	-	-	-	23.1	15.4	23.1
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (256)	36.3	10.9	3.1	3.9	5.9	0.4	3.9	2.0	0.8	14.8	3.5	-	27.3	15.6	20.7
	肢体不自由（上肢）	100.0 (454)	44.5	24.0	9.5	10.4	10.1	4.0	12.8	10.6	-	6.4	7.7	0.2	22.5	13.4	19.6
	肢体不自由（下肢）	100.0 (573)	33.2	16.6	6.3	7.0	6.3	2.4	11.2	5.6	-	4.7	4.4	0.3	22.5	16.9	27.4
	肢体不自由（体幹）	100.0 (265)	49.1	30.9	10.9	12.1	7.9	1.9	11.7	10.2	-	6.4	6.4	0.8	20.0	10.9	20.0
	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	100.0 (282)	62.8	33.7	17.4	20.9	20.9	11.0	19.1	15.2	-	9.6	16.7	0.7	17.0	7.8	12.4
	内部障害	100.0 (754)	16.8	6.5	1.7	2.0	1.7	0.4	4.2	2.0	-	5.3	0.8	0.3	24.8	18.6	39.8
年齢階級別	29歳以下	100.0 (94)	61.7	23.4	21.3	26.6	16.0	2.1	17.0	25.5	-	14.9	21.3	-	22.3	10.6	5.3
	30～39歳	100.0 (124)	53.2	25.8	15.3	16.1	16.1	8.1	21.0	16.1	0.8	9.7	15.3	0.8	27.4	11.3	8.1
	40～49歳	100.0 (222)	43.2	16.7	6.3	10.4	11.7	7.2	10.4	11.3	-	7.7	6.3	0.9	27.5	18.9	10.4
	50～59歳	100.0 (381)	28.6	11.8	2.6	3.9	5.8	2.1	7.9	5.0	1.0	5.5	3.1	0.3	33.1	16.8	21.5
	60～69歳	100.0 (463)	25.5	10.8	1.5	2.8	3.5	0.4	6.0	1.9	0.6	7.3	2.2	0.6	27.4	19.7	27.4
	70～79歳	100.0 (600)	22.2	8.0	1.5	1.7	2.3	-	3.5	1.5	0.8	7.2	1.2	0.2	24.0	15.5	38.3
	80歳以上	100.0 (661)	26.8	11.0	4.4	2.1	1.8	0.6	5.9	1.2	0.2	8.0	0.9	0.5	18.5	17.5	37.2
	（再掲）65歳以上	100.0 (1,498)	24.2	9.5	2.8	1.9	2.1	0.3	5.0	1.3	0.4	7.6	1.3	0.3	21.8	17.2	36.8

(3) 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕－障害支援区分別
 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）を障害支援区分別にみると、区分5及び区分6では、サービスを「利用している」と回答した割合は9割を超えている（97.1%、98.2%）。利用したサービス内容では、居宅介護（ホームヘルプ）等について、区分3、区分4、区分5及び区分6では5割を超えている（50.0%～70.4%）。

障害支援区分を申請していない人では、「障害福祉サービスの制度は知っているが、利用していない」割合が67.6%、「障害福祉サービスの制度を利用できることを知らなかった」が25.3%となっている。（表Ⅱ-9-2）

表Ⅱ-9-2 障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕
 －障害支援区分別

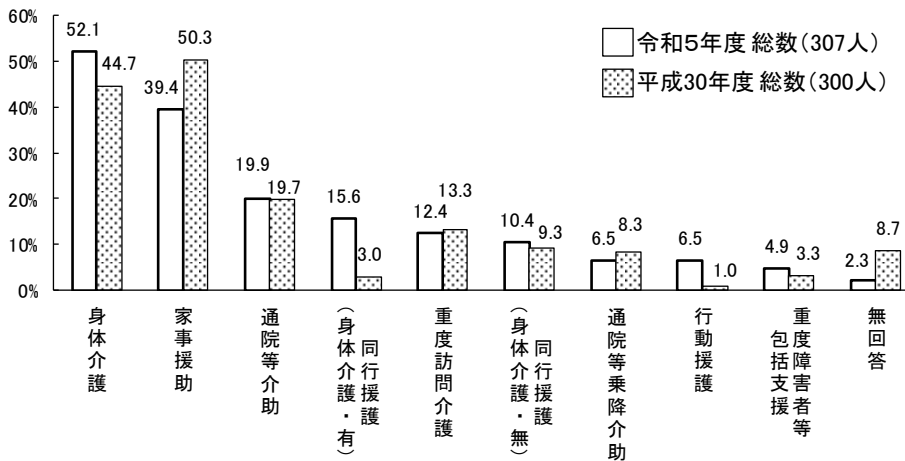
	総数	利用している	居宅介護（ホームヘルプ）等 （重度訪問介護、同行援護、行動援護、 重度障害者等包括支援を含む）	短期入所（ショートステイ）	生活介護	自立訓練（機能訓練、生活訓練） 型）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）	自立生活援助（グループホーム）、 共同生活援助	補装具費支給	移動支援事業	意思疎通支援事業（手話通訳、 要約筆記者の派遣等）	日常生活用具給付等事業	相談支援事業（計画相談、地域移行 支援、地域定着支援）	その他	障害福祉サービスの制度は知って いるが、利用していない	障害福祉サービスの制度を利用できる ことを知らなかった	無回答
総数	100.0 (2,545)	29.7	12.1	4.2	4.7	4.9	1.7	7.2	4.5	0.6	7.6	3.5	0.4	25.0	16.9	28.4
区分1	100.0 (33)	75.8	48.5	15.2	15.2	21.2	9.1	18.2	12.1	-	9.1	15.2	-	-	-	24.2
区分2	100.0 (25)	80.0	48.0	8.0	4.0	4.0	-	12.0	4.0	-	28.0	4.0	4.0	-	-	20.0
区分3	100.0 (27)	88.9	<u>70.4</u>	3.7	3.7	14.8	3.7	14.8	18.5	-	11.1	11.1	-	-	-	11.1
区分4	100.0 (38)	86.8	<u>50.0</u>	18.4	15.8	26.3	10.5	18.4	31.6	-	13.2	15.8	2.6	-	-	13.2
区分5	100.0 (34)	<u>97.1</u>	<u>50.0</u>	17.6	38.2	29.4	17.6	17.6	32.4	-	5.9	29.4	-	-	-	2.9
区分6	100.0 (109)	<u>98.2</u>	<u>62.4</u>	35.8	48.6	11.9	13.8	34.9	31.2	-	22.0	33.9	-	-	-	1.8
申請していない	100.0 (825)	7.0	1.2	0.6	0.1	0.6	0.1	2.3	1.0	0.1	2.3	0.5	0.6	<u>67.6</u>	<u>25.3</u>	-
申請したが非該当	100.0 (192)	94.8	3.1	1.0	0.5	14.6	1.0	20.8	7.8	4.7	51.0	4.7	0.5	-	1.6	3.6
わからない	100.0 (507)	41.2	22.1	6.9	5.7	5.9	0.6	8.9	3.4	0.4	5.9	2.4	0.6	-	32.9	25.8

(4) 居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕

利用した居宅介護等のサービスの種類は「身体介護」が52.1%

居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者包括支援を含む）を利用している人（307人）に利用したサービスの種類を聞いたところ「身体介護」が52.1%、「家事援助」が39.4%となっている。「身体介護」は、平成30年度（44.7%）より7.4ポイント増加し、「家事援助」は、平成30年度（50.3%）より10.9ポイント減少している。（図Ⅱ-9-2）

図Ⅱ-9-2 居宅介護等のサービスの種類〔複数回答〕



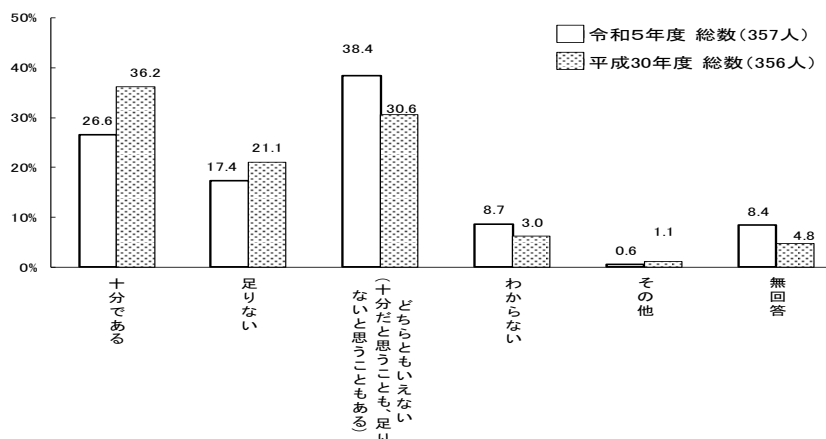
(5) サービス支給量は十分か（居宅介護等、短期入所）

サービス支給量が「十分である」と回答した人の割合は26.6%

居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者包括支援を含む）及び短期入所（ショートステイ）を利用している人（357人）に支給量は十分か聞いたところ、「十分である」が26.6%、「足りない」が17.4%、「どちらともいえない（十分だとも思うことも、足りないとも思うこともある）」が38.4%となっている。

（図Ⅱ-9-3）

図Ⅱ-9-3 サービス支給量は十分か（居宅介護等、短期入所）

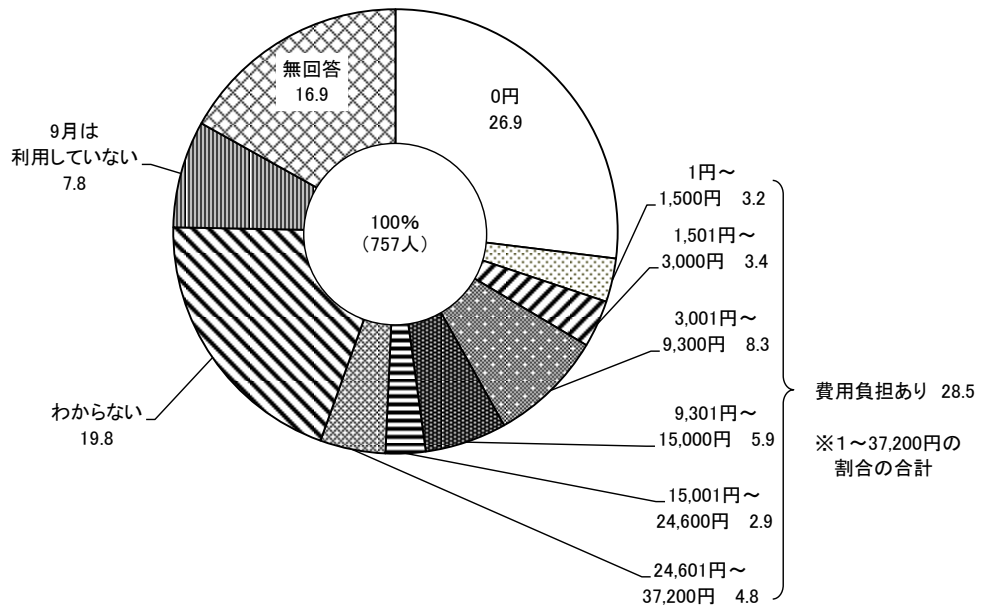


(6) 障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担

障害者総合支援法による障害福祉サービスの費用負担は「0円」が26.9%

過去1年間に障害者総合支援法のサービスを利用した人（757人）に令和5年9月の費用負担額（食費等実費負担は除く）を聞いたところ、「0円」の割合が26.9%となっている。一方で、「費用負担がある人（1円～37,200円）」の割合は28.5%となっている。（図Ⅱ-9-4）

図Ⅱ-9-4 障害者総合支援法における障害福祉サービスの費用負担

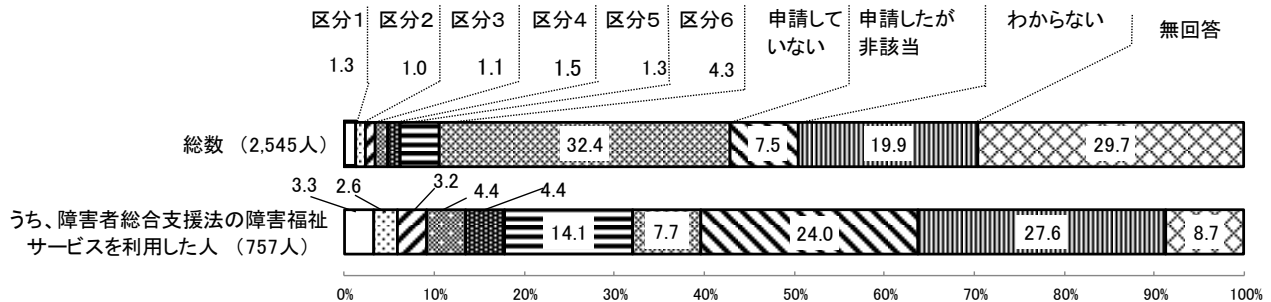


(7) 障害者総合支援法における障害支援区分

障害支援区分は「区分6」が4.3%

自宅で生活している（福祉ホーム、グループホームを含む）人（2,545人）に障害支援区分を聞いたところ、「区分6」の割合が4.3%となっている。一方で、「申請していない」の割合が32.4%、「申請したが非該当」が7.5%、「わからない」が19.9%となっている。（図Ⅱ-9-5）

図Ⅱ-9-5 障害者総合支援法における障害支援区分



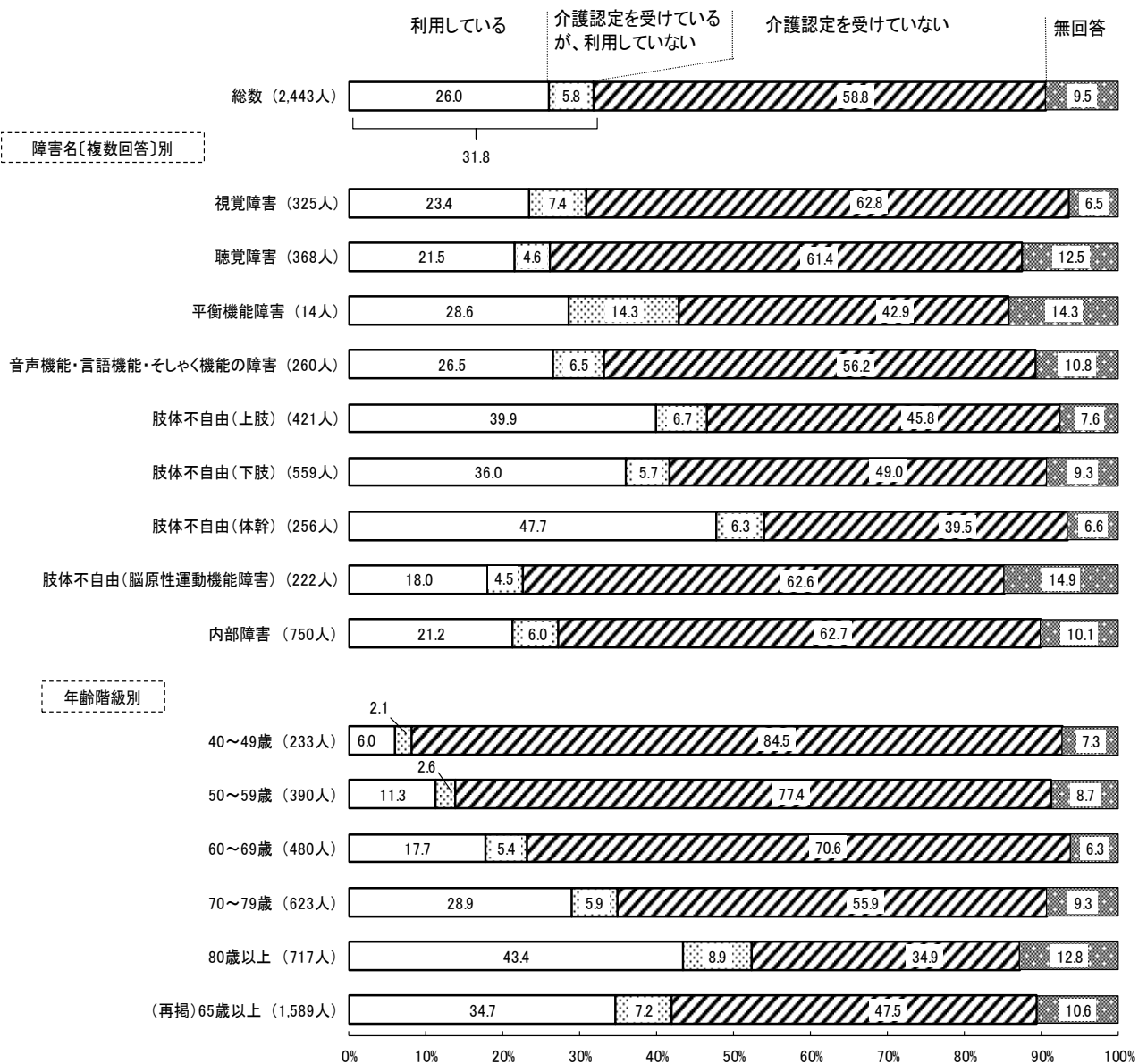
(8) 介護保険制度の利用の有無－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

介護認定を受けている人は31.8%、介護保険制度を利用している人は26.0%

調査基準日現在 40 歳以上の人（2,443 人）に介護保険制度の利用状況を聞いたところ、「利用している」の割合が 26.0%、「介護認定を受けているが、利用していない」が 5.8%、「介護認定を受けていない」が 58.8%となっている。

障害名別にみると、肢体不自由（体幹）では「利用している」の割合が 47.7%となっている。年齢階級別にみると、65 歳以上では、「利用している」の割合が 34.7%となっている。（図 II-9-6）

図 II-9-6 介護保険制度の利用の有無－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

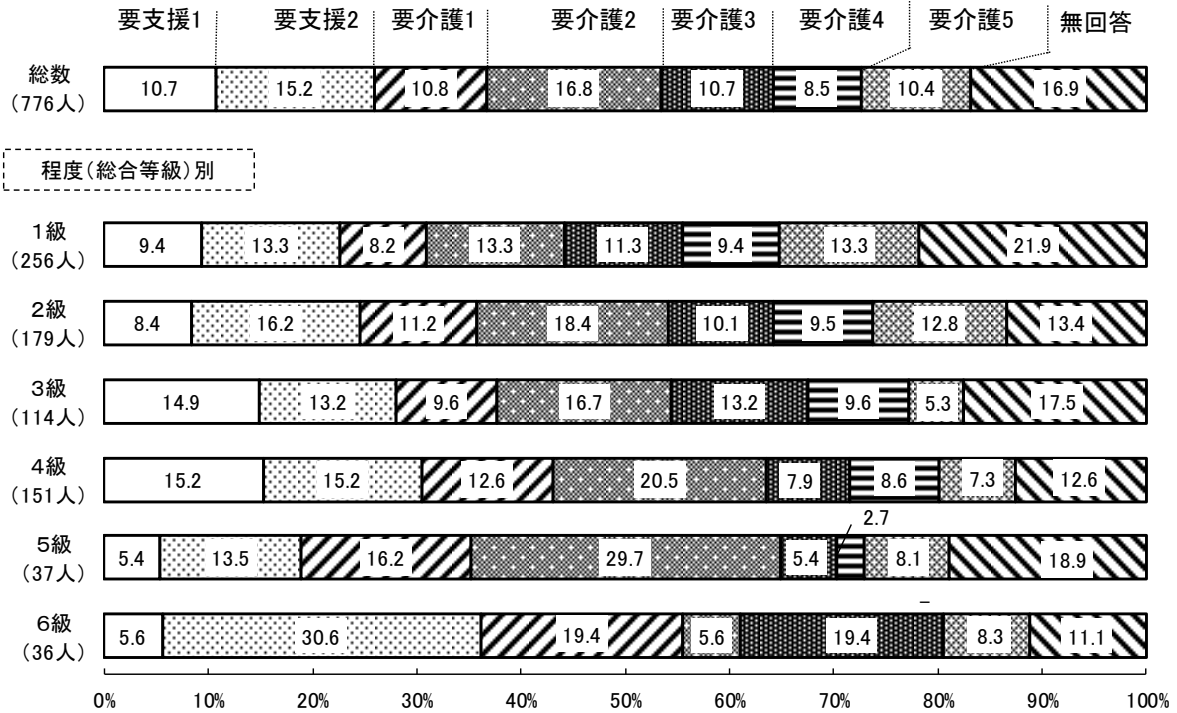


(9) 介護保険制度の要介護度－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

介護認定を受けている人の要介護度は「要介護2」の割合が16.8%

介護認定を受けている人（776人）に要介護度を聞いたところ、「要介護2」の割合が16.8%、「要支援2」が15.2%となっている。（図Ⅱ-9-7）

図Ⅱ-9-7 介護保険制度の要介護度－身体障害者手帳の程度（総合等級）別

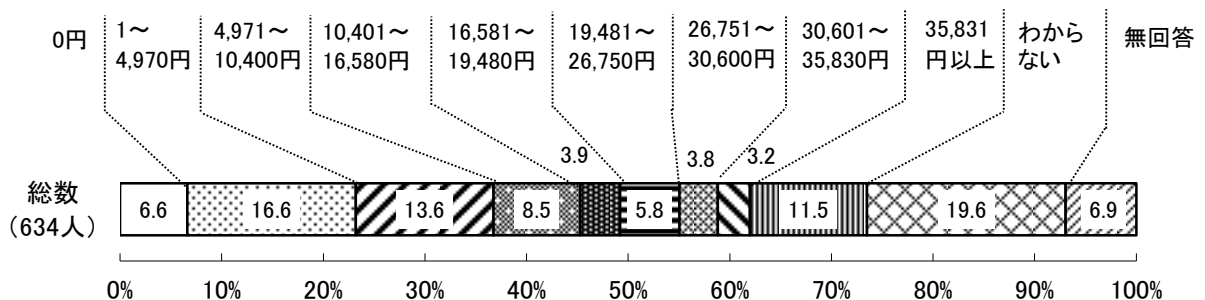


(10) 介護保険法におけるサービスの費用負担

介護保険法におけるサービスの費用負担は「1～4,970円」の割合が16.6%

介護保険制度を利用している人（634人）に介護保険法におけるサービスの費用負担額を聞いたところ「1～4,970円」の割合が16.6%、「4,971～10,400円」が13.6%となっている。一方で、「0円」（費用負担なし）が6.6%となっている。（図Ⅱ-9-8）

図Ⅱ-9-8 介護保険法におけるサービスの費用負担



(11) 介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

介護保険で受けている在宅サービスは「ホームヘルプサービス」の割合が47.3%

介護保険制度を利用している人（634人）に、どのような内容の在宅サービスを受けているか聞いたところ、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」の割合が47.3%、「訪問看護」の割合が28.7%、「デイサービス（通所介護）」が26.0%となっている。

障害名別にみると、「ホームヘルプサービス（訪問介護）」の割合は、「視覚障害」、「音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害」、「肢体不自由（上肢）」、「肢体不自由（下肢）」、「肢体不自由（脳原性運動機能障害）」では5割を超えている（53.9%、52.2%、53.0%、50.2%、50.0%）。

介護保険の要介護度別にみると、「訪問看護」の割合は、要介護5の人が54.8%となっている。（表Ⅱ-9-3）

表Ⅱ-9-3 介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

	総数	ホームヘルプサービス（訪問介護）	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	デイサービス（通所介護）	デイケア（通所リハビリテーション）	ショートステイ（短期入所生活介護）	その他	在宅サービスを受けていない	無回答	
総数	1000 (634)	47.3	11.8	28.7	20.7	26.0	15.0	9.1	8.4	16.7	5.8	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (76)	53.9	6.6	22.4	14.5	26.3	9.2	5.3	6.6	21.1	2.6
	聴覚障害	100.0 (79)	39.2	3.8	22.8	10.1	29.1	19.0	11.4	8.9	16.5	8.9
	平衡機能障害	100.0 (4)	25.0	-	25.0	-	-	50.0	-	-	-	-
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (69)	52.2	10.1	30.4	17.4	33.3	23.2	5.8	11.6	2.9	5.8
	肢体不自由（上肢）	100.0 (168)	53.0	18.5	32.1	34.5	31.0	20.8	10.7	7.1	13.1	4.2
	肢体不自由（下肢）	100.0 (201)	50.2	15.4	26.4	28.4	28.9	19.9	10.9	5.0	15.4	5.0
	肢体不自由（体幹）	100.0 (122)	48.4	23.8	40.2	33.6	23.8	13.9	10.7	7.4	19.7	2.5
	肢体不自由（脳原性運動機能障害）	100.0 (40)	50.0	7.5	12.5	10.0	20.0	5.0	15.0	-	27.5	10.0
	内部障害	100.0 (159)	43.4	8.8	33.3	17.0	22.6	7.5	5.7	10.7	18.9	7.5
介護保険の要介護度別	要支援1	100.0 (54)	40.7	1.9	13.0	5.6	18.5	13.0	1.9	1.9	25.9	3.7
	要支援2	100.0 (82)	42.7	3.7	15.9	12.2	14.6	15.9	1.2	8.5	23.2	3.7
	要介護1	100.0 (74)	50.0	5.4	25.7	14.9	23.0	23.0	1.4	10.8	6.8	4.1
	要介護2	100.0 (120)	50.0	11.7	30.8	27.5	37.5	17.5	9.2	8.3	10.0	2.5
	要介護3	100.0 (77)	45.5	11.7	31.2	16.9	36.4	14.3	15.6	6.5	16.9	5.2
	要介護4	100.0 (62)	41.9	22.6	32.3	30.6	27.4	9.7	17.7	8.1	25.8	9.7
	要介護5	100.0 (73)	61.6	28.8	54.8	35.6	31.5	8.2	21.9	13.7	12.3	8.2

(12) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容は「身体介護のみ」の割合が37.7%

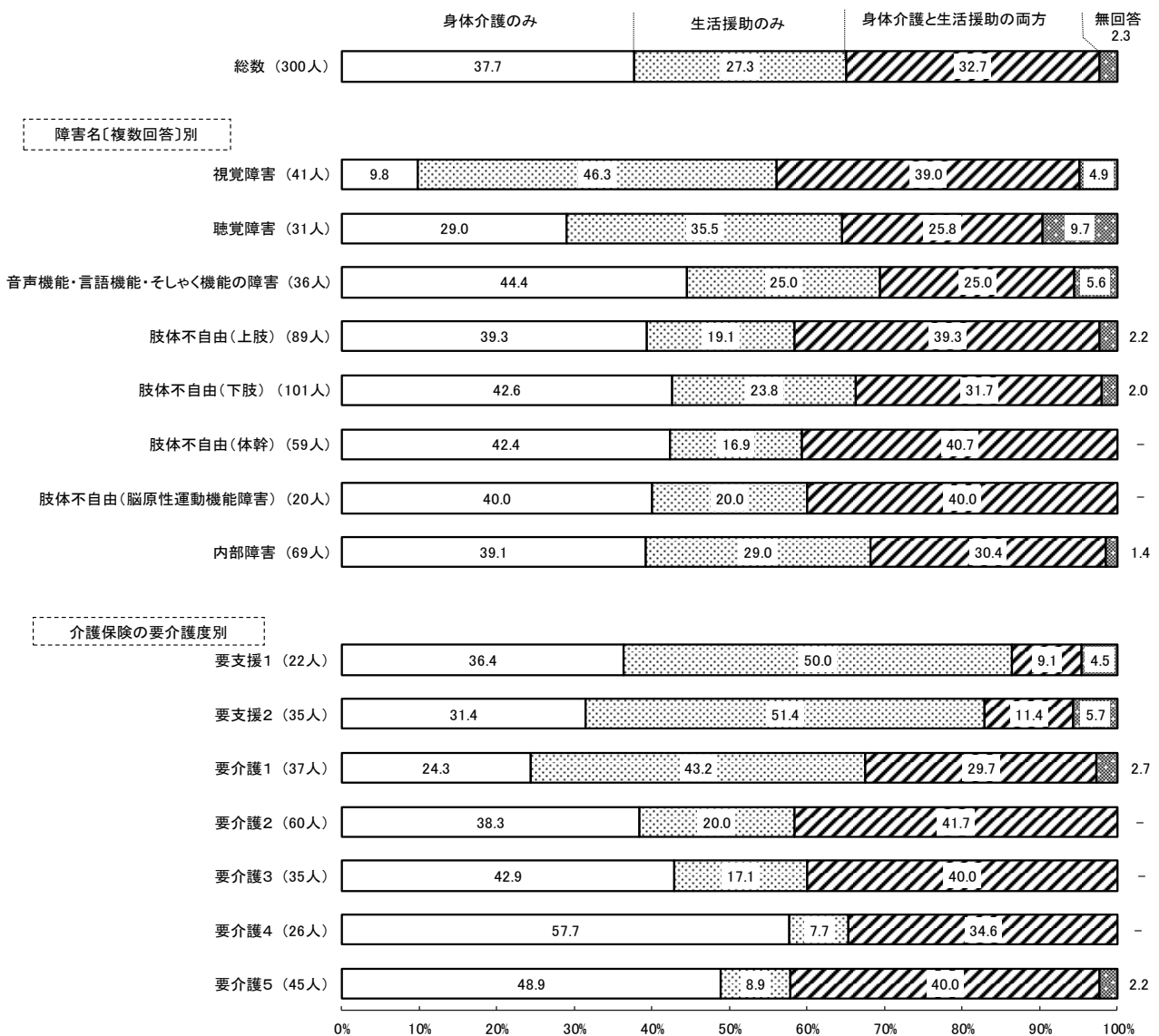
介護保険でホームヘルプサービスを受けている人（300人）にサービスの内容を聞いたところ、「身体介護のみ」の割合が37.7%、「生活援助のみ」が27.3%、「身体介護と生活援助の両方」が32.7%となっている。

介護保険の要介護度別にみると、要介護2、要介護3及び要介護5の人では「身体介護と生活援助の両方」の割合が約4割となっている（41.7%、40.0%、40.0%）。

（図Ⅱ-9-9）

図Ⅱ-9-9 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容

－障害名〔複数回答〕、介護保険の要介護度別



注) 障害名〔複数回答〕別のうち、「平衡機能障害」は1人のため省略した。

(13) 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること〔複数回答〕
 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていることは「1回の訪問介護の時間が短い」の割合が17.3%

介護保険でホームヘルプサービスを受けている人（300人）に介護保険のホームヘルプサービスの内容で困っていることがあるか聞いたところ、「困っていることがある」の割合が32.3%、「困っていることは特にない」が62.7%となっている。困っていることの内容は、「1回の訪問介護の時間が短い」の割合が17.3%、「希望するサービスが受けられない」が8.0%となっている。

障害名別にみると、「困っていることがある」の割合は、肢体不自由（脳原性運動機能障害）が最も高く50.0%となっている。（表Ⅱ-9-4）

表Ⅱ-9-4 介護保険で受けているホームヘルプサービスの内容で困っていること〔複数回答〕
 - 障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	困っていることがある										特にない	無回答
		1回の訪問介護の時間が短い	訪問介護が1日に何回かに分けられている	家族がいたので訪問介護が受けられない	希望するサービスが受けられない	時間延長を希望しても受けられない	訪問介護員が代わってしまっても対応し	外出をしなくても対応し	その他				
総数	100.0 (300)	32.3	17.3	1.0	1.0	8.0	4.3	5.0	5.7	7.0	62.7	5.0	
身体障害者手帳の障害名 (複数回答)別	視覚障害 (41)	100.0	31.7	26.8	-	-	12.2	7.3	2.4	4.9	2.4	65.9	2.4
	聴覚障害 (31)	100.0	32.3	19.4	-	-	6.5	-	3.2	3.2	16.1	58.1	9.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (36)	100.0	25.0	16.7	-	-	8.3	8.3	2.8	5.6	8.3	61.1	13.9
	肢体不自由(上肢) (89)	100.0	34.8	16.9	-	1.1	10.1	4.5	4.5	4.5	10.1	57.3	7.9
	肢体不自由(下肢) (101)	100.0	30.7	13.9	1.0	3.0	5.9	3.0	3.0	4.0	6.9	63.4	5.9
	肢体不自由(体幹) (59)	100.0	42.4	15.3	1.7	1.7	10.2	10.2	6.8	6.8	8.5	52.5	5.1
	肢体不自由(脳原性運動機能障害) (20)	100.0	50.0	10.0	10.0	5.0	15.0	5.0	5.0	20.0	20.0	40.0	10.0
内部障害 (69)	100.0	34.8	21.7	-	-	8.7	1.4	7.2	5.8	4.3	63.8	1.4	
年齢階級別	40～59歳 (26)	100.0	34.6	7.7	-	3.8	3.8	3.8	-	-	23.1	61.5	3.8
	60～69歳 (48)	100.0	41.7	20.8	2.1	2.1	12.5	8.3	8.3	8.3	10.4	56.3	2.1
	70～79歳 (85)	100.0	28.2	10.6	2.4	-	4.7	1.2	3.5	5.9	3.5	63.5	8.2
	80歳以上 (141)	100.0	31.2	22.0	-	0.7	9.2	5.0	5.7	5.7	5.0	64.5	4.3
	(再掲)65歳以上 (262)	100.0	31.7	18.3	1.1	0.4	8.0	4.2	5.3	6.5	5.7	63.0	5.3

注) 障害名〔複数回答〕別のうち、「平衡機能障害」は1人のため省略した。

(14) 介護保険制度の利用の有無、介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕

－障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕別
 自宅で生活している40歳以上の対象者（2,327人）について、介護保険制度の利用の有無、介護保険で受けている在宅サービスを障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）別にみると、介護保険制度を「利用している」人で障害者総合支援法によるサービスを「利用している」人は42.7%となっている。一方、介護保険制度を「利用している」人で、「障害福祉サービスの制度は知っているが、利用していない」人は12.4%、「障害福祉サービスの制度を利用できることを知らなかった」人は18.2%となっている。（表Ⅱ-9-5）

表Ⅱ-9-5 介護保険制度の利用の有無、介護保険で受けている在宅サービス〔複数回答〕
 －障害者総合支援法で利用したサービス（過去1年間）〔複数回答〕

	総数	介護保険制度の利用の有無、介護保険で受けている在宅サービス													無回答	
		利用している	ホームヘルプサービス（訪問介護）	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	デイサービス（通所介護）	デイケア（通所リハビリテーション）	ショートステイ（短期入所生活介護）	その他	在宅サービスは受けていない	無回答	介護認定を受けていないが、	介護認定を受けていない		
総数	100.0 (2,327)	24.1	12.5	3.1	7.8	5.6	7.0	4.0	2.4	2.0	2.6	1.1	5.5	61.1	9.3	
障害者総合支援法による障害福祉サービスの利用別	利用している	100.0 (633)	42.7	27.0	7.6	14.7	10.3	12.3	7.0	5.7	3.6	2.7	1.6	3.3	48.2	5.8
	居宅介護（ホームヘルプ）等（重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援を含む）	100.0 (253)	64.8	53.0	16.6	28.9	19.8	17.0	7.5	7.5	4.0	1.2	1.6	1.6	32.0	1.6
	短期入所（ショートステイ）	100.0 (69)	68.1	43.5	14.5	26.1	18.8	37.7	17.4	52.2	8.7	-	-	1.4	23.2	7.2
	生活介護	100.0 (75)	46.7	36.0	13.3	24.0	9.3	16.0	4.0	4.0	1.3	2.7	1.3	2.7	44.0	6.7
	自立訓練（機能訓練、生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労定着支援	100.0 (90)	40.0	22.2	8.9	13.3	14.4	13.3	11.1	3.3	2.2	1.1	1.1	5.6	51.1	3.3
	共同生活援助（グループホーム）、自立生活援助	100.0 (30)	30.0	20.0	3.3	6.7	-	10.0	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	60.0	6.7
	補装具費支給	100.0 (141)	33.3	19.9	3.5	13.5	9.2	10.6	7.1	5.0	1.4	4.3	0.7	4.3	58.2	4.3
	移動支援事業	100.0 (70)	30.0	25.7	7.1	17.1	8.6	5.7	10.0	2.9	4.3	1.4	-	2.9	62.9	4.3
	意思疎通支援事業（手話通訳、要約筆記者の派遣等）	100.0 (13)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	日常生活用具給付等事業	100.0 (168)	29.2	11.3	3.6	8.3	5.4	7.1	4.8	0.6	4.8	5.4	3.0	1.8	56.0	13.1
	相談支援事業（計画相談、地域移行支援、地域定着支援）	100.0 (49)	34.7	18.4	4.1	6.1	2.0	8.2	14.3	2.0	2.0	-	-	2.0	63.3	-
	その他	100.0 (10)	50.0	20.0	10.0	20.0	10.0	10.0	10.0	-	30.0	10.0	-	10.0	40.0	-
	障害福祉サービスの制度は知っているが、利用していない	100.0 (580)	12.4	5.0	1.2	3.6	2.9	3.3	2.4	0.5	1.4	2.1	0.2	8.1	77.1	2.4
障害福祉サービスの制度を利用できることを知らなかった	100.0 (406)	18.2	7.6	1.7	5.7	3.9	5.4	3.9	2.2	2.2	1.5	0.7	6.2	70.9	4.7	

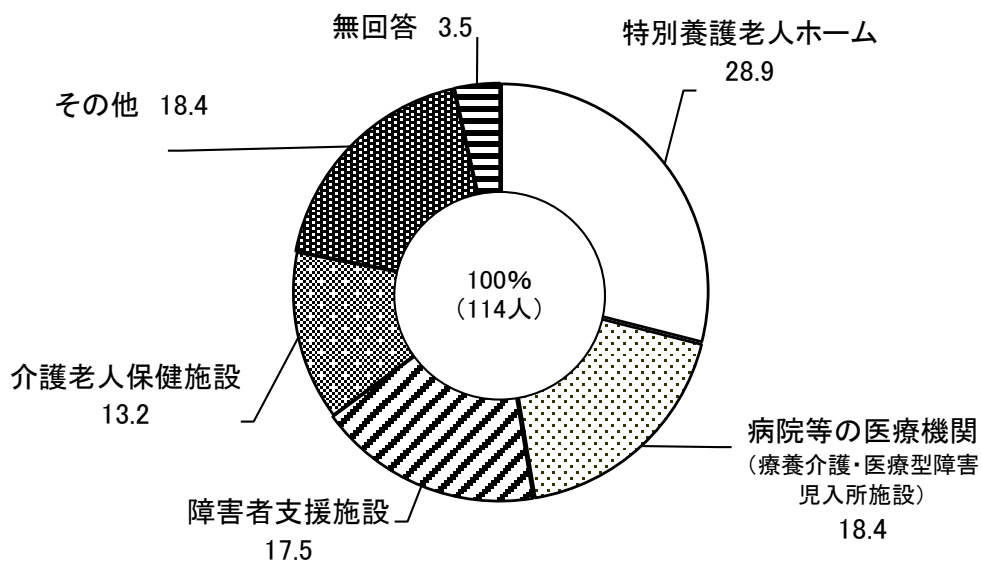
10 施設入所（施設入所者対象）

（1）入所している施設の種類の種類

現在入所している施設は「特別養護老人ホーム」が28.9%

調査基準日現在、施設に入所している人（114人）に入所している施設を聞いたところ、「特別養護老人ホーム」の割合が28.9%、「病院等の医療機関（療養介護・医療型障害児入所施設）」が18.4%、「障害者支援施設」が17.5%、「介護老人保健施設」が13.2%となっている。（図Ⅱ-10-1）

図Ⅱ-10-1 入所している施設の種類の種類



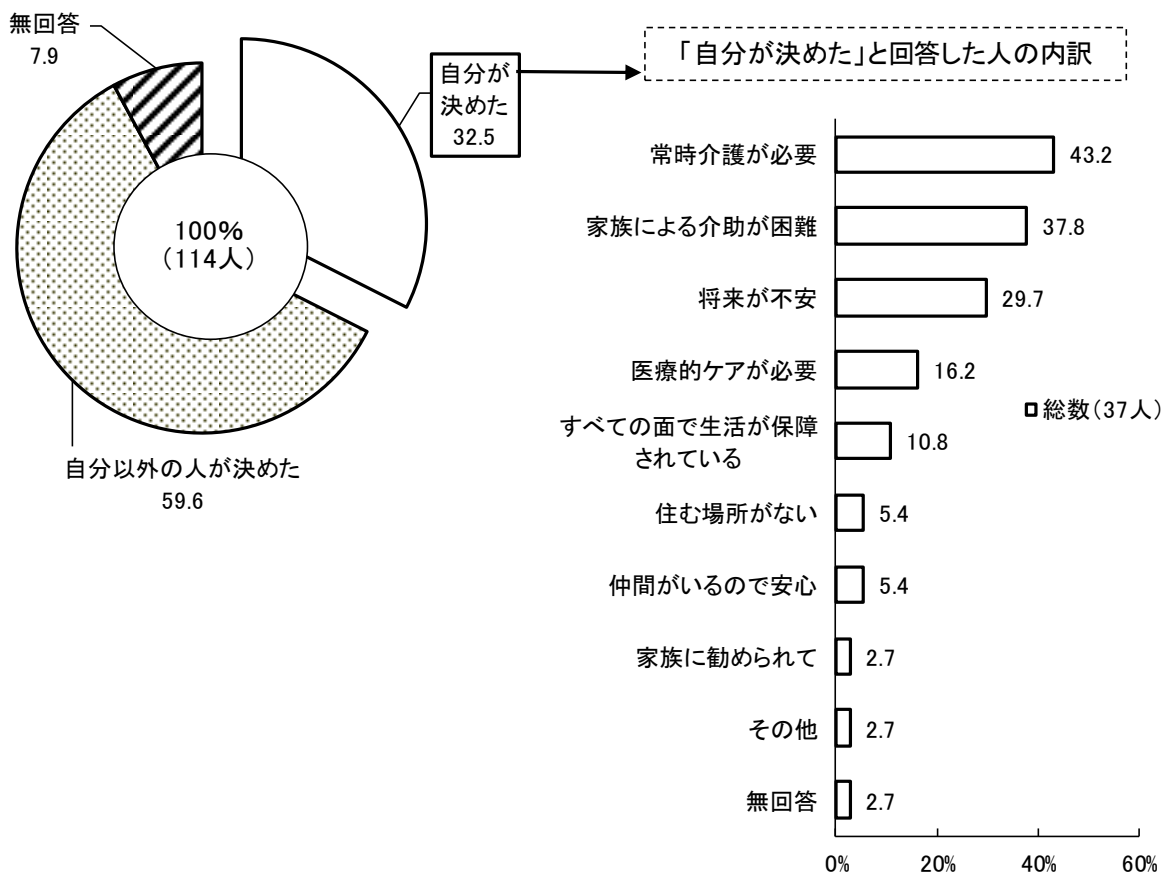
(2) 施設入所を決めた人とその理由

施設入所について「自分が決めた」人は 32.5%で、入所を決めた理由は「常時介護が必要」の割合が 43.2%

施設に入所している人（114人）に施設入所を決めた人は誰か聞いたところ、「自分が決めた」割合が 32.5%、「自分以外の人が決めた」が 59.6%となっている。

自分が施設入所を決めた人（37人）にその理由を聞いたところ、「常時介護が必要」の割合が 43.2%、「家族による介助が困難」が 37.8%、「将来が不安」が 29.7%となっている。（図 II-10-2）

図 II-10-2 入所を決めた人とその理由

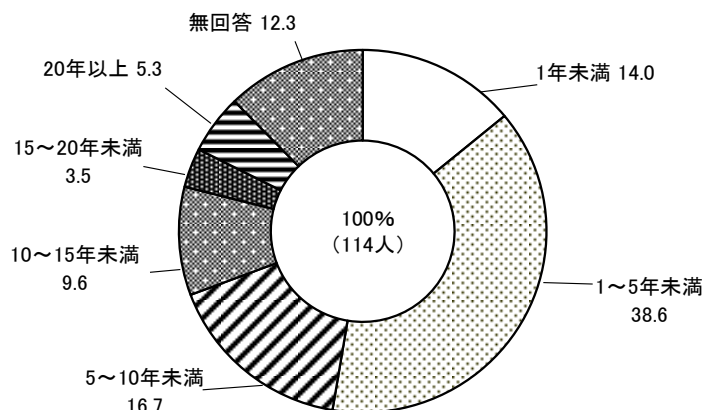


(3) 入所年数

今の施設に入ってから年数は、「1～5年未満」の割合が38.6%

今の施設に入ってから年数を聞いたところ、「1～5年未満」の割合が38.6%となっている。(図II-10-3)

図II-10-3 入所年数



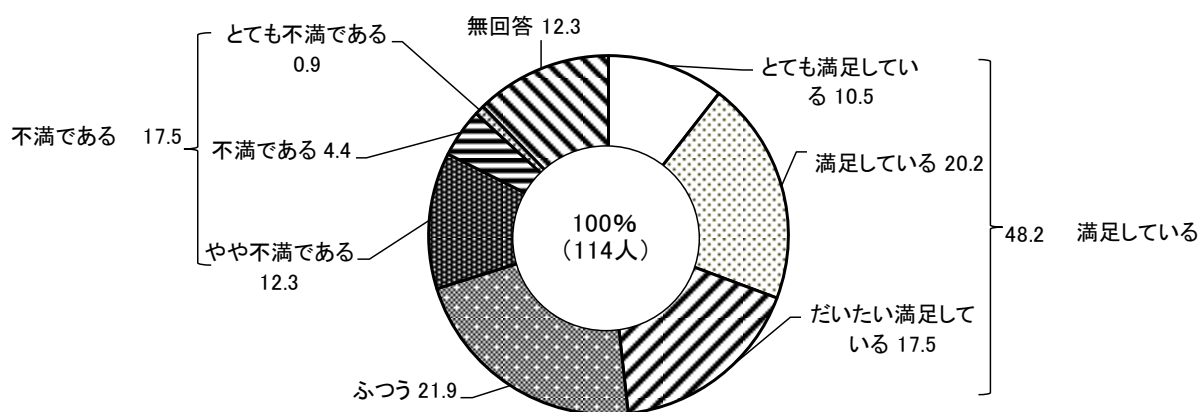
(4) 施設での生活に満足しているか

施設での生活に満足している人の割合は48.2%で、そのうち、「とても満足している」割合は10.5%

今の施設での生活に満足しているか聞いたところ、「とても満足している」と答えた割合は10.5%で、「満足している」(20.2%)及び「だいたい満足している」(17.5%)と合わせた割合は、48.2%となっている。

一方で、「やや不満である」(12.3%)、「不満である」(4.4%)及び「とても不満である」(0.9%)を合わせた「不満である」割合は、17.5%となっている。(図II-10-4)

図II-10-4 施設での生活に満足しているか



11 その他の福祉サービス等

(1) 将来暮らしたいところ－年齢階級、現在の生活の場別

将来は「^{しょうらい}家族と^{かぞく}一緒に^{いっしょ}暮らしたい」が45.1%

将来どこで暮らしたいと思うか聞いたところ、「家族と一緒に暮らしたい」の割合が45.1%で最も高く、次いで「一人暮らしをしたい（またはパートナーと暮らしたい）」が19.7%となっている。

年齢階級別にみると、29歳以下、30代～60代では「一人暮らしをしたい（またはパートナーと暮らしたい）」の割合が2割を超えている。(22.3%～27.8%)

現在の生活の場別にみると、施設に入所している人では「入所施設で暮らしたい」の割合が47.4%となっている。(表II-11-1)

表II-11-1 将来暮らしたいところ－年齢階級、現在の生活の場別

		総数	入所施設で暮らしたい	家族と一緒に暮らしたい	グループホームでずっと暮らしたい	グループホームで支援を受けた後、一人暮らしをしたい（またはパートナー）	一人暮らしをしたい（またはパートナーと暮らしたい）	その他	わからない	無回答
総数		100.0 (2,669)	6.6	45.1	2.2	0.6	19.7	0.5	13.6	11.5
年齢階級別	29歳以下	100.0 (97)	6.2	41.2	8.2	1.0	27.8	-	9.3	6.2
	30～39歳	100.0 (129)	7.8	36.4	10.9	1.6	25.6	-	12.4	5.4
	40～49歳	100.0 (233)	5.2	43.3	6.4	0.9	26.2	0.9	11.2	6.0
	50～59歳	100.0 (390)	4.1	44.6	2.6	0.5	23.3	0.3	16.7	7.9
	60～69歳	100.0 (480)	5.0	45.0	0.4	0.6	22.3	0.2	16.5	10.0
	70～79歳	100.0 (623)	6.9	47.0	0.6	0.8	18.1	1.3	10.9	14.3
	80歳以上	100.0 (717)	9.2	46.6	1.0	0.1	13.2	0.1	14.1	15.6
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,589)	7.6	46.1	0.8	0.5	16.8	0.6	13.4	14.3
現在の場の別生活	自宅で生活している(福祉ホーム、グループホームを含む)	100.0 (2,545)	4.8	46.4	2.3	0.6	20.4	0.5	13.5	11.4
	施設に入所している	100.0 (114)	47.4	21.1	0.9	-	5.3	0.9	14.0	10.5

(2) 将来暮らしたいところ－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別
 将来暮らしたいところを障害名別にみると、「一人暮らしをしたい（またはパートナーと暮らしたい）」の割合は、聴覚障害、肢体不自由（下肢）、肢体不自由（脳原性運動機能障害）で2割を超えている。（22.3%、21.9%、20.4%）

「入所施設で暮らしたい」の割合は、肢体不自由（脳原性運動機能障害）では12.9%となっている。

現在一緒に生活している人別にみると、子供、配偶者及びその他の親族と生活している人では「家族と一緒に暮らしたい」の割合はいずれも6割を超えている（71.7%、64.4%、62.7%）。（表Ⅱ-11-2）

表Ⅱ-11-2 将来暮らしたいところ

－障害名〔複数回答〕、現在一緒に生活している人〔複数回答〕別

		総数	入所施設で暮らしたい	家族と一緒に暮らしたい	グループホームでずっと暮らしたい	グループホームでサポートを受けたい（またはパートナーと暮らしたい）	グループホームでサポートを受けたい（またはパートナーと暮らしたい）	一人暮らしをしたい（またはパートナーと暮らしたい）	その他	わからない	無回答
総数		100.0 (2,669)	6.6	45.1	2.2	0.6	19.7	0.5	13.6	11.5	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (352)	7.4	43.8	1.7	0.3	19.6	0.3	15.6	11.4	
	聴覚障害	100.0 (404)	5.7	42.1	1.2	0.2	<u>22.3</u>	0.7	15.6	12.1	
	平衡機能障害	100.0 (14)	7.1	42.9	7.1	-	14.3	-	14.3	14.3	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	7.1	49.4	0.7	1.5	16.0	1.1	12.3	11.9	
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	8.4	46.3	4.5	0.6	19.3	0.4	12.6	7.8	
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	8.1	43.9	2.0	0.3	<u>21.9</u>	0.5	12.2	11.1	
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	9.2	47.1	2.4	0.3	16.9	1.4	13.2	9.5	
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	<u>12.9</u>	33.7	10.7	1.3	<u>20.4</u>	0.6	9.7	10.7	
	内部障害	100.0 (779)	5.4	47.0	1.0	0.8	18.9	0.4	12.3	14.2	
総数		100.0 (2,545)	4.8	46.4	2.3	0.6	20.4	0.5	13.5	11.4	
現在一緒に生活している人〔複数回答〕別	親	100.0 (381)	7.3	44.4	7.6	1.3	17.3	-	13.6	8.4	
	配偶者	100.0 (1,230)	2.7	<u>64.4</u>	0.4	0.2	10.4	0.5	8.9	12.4	
	子供	100.0 (654)	3.2	<u>71.7</u>	0.5	0.2	4.4	0.3	8.6	11.2	
	兄弟姉妹	100.0 (171)	2.9	55.6	2.9	0.6	11.7	-	14.6	11.7	
	その他の親族	100.0 (59)	5.1	<u>62.7</u>	1.7	1.7	5.1	1.7	11.9	10.2	
	その他	100.0 (47)	6.4	21.3	29.8	6.4	29.8	-	4.3	2.1	
	一人で暮らしている	100.0 (597)	6.0	7.9	1.7	0.7	48.6	1.0	23.5	10.7	

注) 現在一緒に生活している人〔複数回答〕別は在宅者を対象とした設問のため、総数は2,545人である。

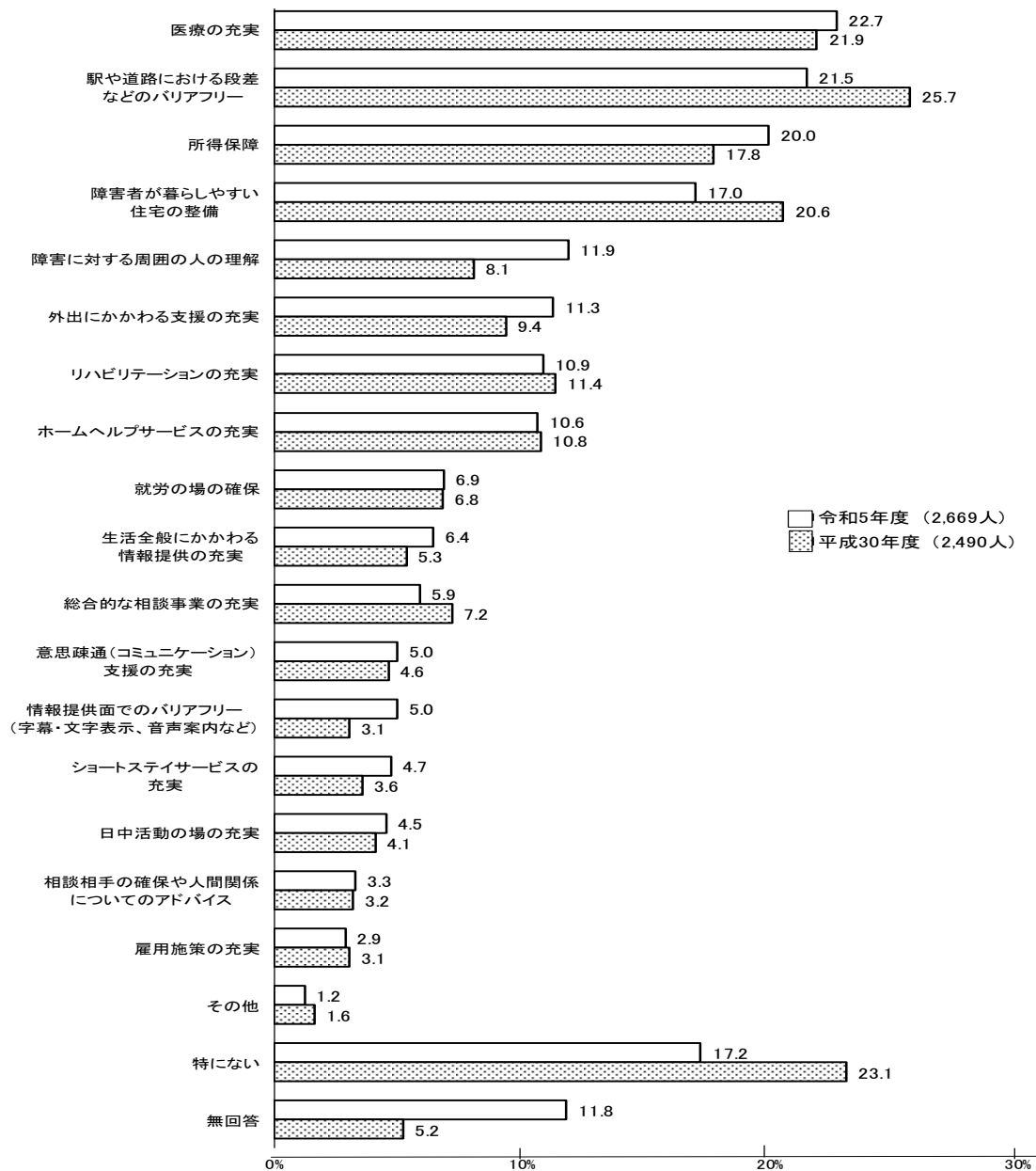
(3) 地域で生活する上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

地域で生活をする上で必要な福祉サービスは、「医療の充実」、「駅や道路における段差などのバリアフリー」及び「所得補償」の割合がそれぞれ約2割

身近な地域で生活をしたり、しようとする上で、必要な福祉サービス等は何か聞いたところ、「医療の充実」の割合が22.7%で最も高く、次いで「駅や道路における段差などのバリアフリー」が21.5%、「所得保障」が20.0%となっている。「駅や道路における段差などのバリアフリー」は平成30年度（25.7%）より4.2ポイント減少している。

(図II-11-3)

図II-11-3 地域で生活する上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕



(4) 地域で生活をする上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

身近な地域で生活をする上で必要な福祉サービス等を障害名別にみると、視覚障害、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（下肢）、肢体不自由（体幹）では「駅や道路における段差などのバリアフリー」が最も高く、それぞれ31.3%、28.2%、31.8%、29.8%となっている。また、聴覚障害では、「情報提供面でのバリアフリー」が22.3%（P.104）となっている。肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「ホームヘルプサービスの充実」が22.0%、内部障害では「医療の充実」が31.2%（P.104）となっている。音声機能・言語機能・そしゃく機能障害では「特になし」が21.6%（P.104）となっている。

表II-11-3 地域で生活する上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別

	総数	住 宅 の 整 備	な 駅 の 道 路 に お け る 段 差	就 労 の 場 の 確 保	雇 用 施 策 の 充 実	所 得 保 障	充 実 的 な 相 談 事 業 の 充 実	ホ ー ム ヘル プ サー ビス の 充 実	日 中 活 動 の 場 の 充 実	サ ー ビ ス の 充 実	充 実 に か か わ る 支 援 の	
総数	100.0 (2,669)	17.0	21.5	6.9	2.9	20.0	5.9	10.6	4.5	4.7	11.3	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (352)	16.8	<u>31.3</u>	6.5	4.0	19.9	6.0	10.5	4.3	3.7	18.8
	聴覚障害	100.0 (404)	11.1	12.9	5.7	2.7	16.1	4.0	7.7	2.7	2.7	5.0
	平衡機能障害	100.0 (14)	14.3	35.7	-	-	21.4	-	7.1	7.1	-	35.7
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	10.4	10.0	6.7	1.9	22.7	7.1	11.5	3.0	3.0	6.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	24.7	<u>28.2</u>	8.4	2.3	21.6	8.0	16.3	6.4	8.6	15.2
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	23.6	<u>31.8</u>	7.1	2.3	21.8	7.3	13.0	6.4	6.4	11.7
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	25.4	<u>29.8</u>	6.1	3.4	17.3	5.1	17.6	6.4	10.8	20.3
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	29.8	21.0	7.4	3.2	22.3	5.8	<u>22.0</u>	9.4	11.7	18.8
	内部障害	100.0 (779)	13.4	18.1	7.4	2.6	20.9	5.0	7.7	3.6	3.0	8.0
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	100.0 (1,786)	17.1	24.1	4.4	1.6	18.6	6.1	11.3	3.0	3.4	11.3
	職場(福祉的就労の施設を除く)	100.0 (425)	13.4	16.5	17.2	9.4	28.0	4.5	4.0	4.2	1.6	6.4
	職場(福祉的就労の施設)	100.0 (57)	19.3	21.1	22.8	7.0	26.3	7.0	12.3	12.3	14.0	21.1
	学校	100.0 (14)	35.7	21.4	28.6	14.3	28.6	-	7.1	21.4	7.1	14.3
	通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設は除く)	100.0 (178)	25.8	15.2	5.1	0.6	22.5	7.9	23.0	15.7	<u>23.0</u>	18.5
	入所施設	100.0 (99)	18.2	15.2	3.0	-	9.1	6.1	11.1	9.1	6.1	18.2
	その他	100.0 (43)	11.6	11.6	4.7	-	18.6	7.0	4.7	-	-	7.0

(次ページへ続く)

平日の日中主に過ごしたところ別にみると自分の家及び入所施設では「医療の充実」がそれぞれ 24.0%、25.3%となっている。通所施設では、「ショートステイサービスの充実」の割合が 23.0% (P.103) となっている。(表Ⅱ-11-3)

表Ⅱ-11-3 地域で生活する上で必要な福祉サービス等〔3つまでの複数回答〕
－障害名〔複数回答〕、平日の日中主に過ごしたところ別 (続)

	意思疎通(コミュニケーション)の充実	声案内(字幕・文字表示、音声案内など)	情報提供面でのバリアフリー(字幕・文字表示、音声案内など)	生活全般にかかわる情報提供の充実	相談相手の確保や人間関係	障害に対する周囲の人の理解	医療の充実	リハビリテーションの充実	その他	特になし	無回答
総数	5.0	5.0	6.4	3.3	11.9	22.7	10.9	1.2	17.2	11.8	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	3.7	8.8	8.0	2.3	13.4	18.5	4.8	0.3	12.8	11.9
	聴覚障害	14.6	<u>22.3</u>	6.9	4.0	19.3	20.0	5.2	2.0	18.6	12.9
	平衡機能障害	7.1	7.1	-	-	35.7	14.3	7.1	7.1	-	7.1
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	14.9	1.9	9.3	3.7	16.0	19.7	11.5	1.9	<u>21.6</u>	11.5
	肢体不自由(上肢)	2.9	0.8	6.0	2.9	14.0	19.1	20.6	1.6	11.1	8.6
	肢体不自由(下肢)	3.0	0.7	5.3	2.8	9.9	19.6	21.8	1.5	11.9	10.9
	肢体不自由(体幹)	3.7	1.0	5.8	2.7	10.8	18.6	17.3	2.4	8.8	10.8
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	2.3	1.0	3.6	4.9	16.5	17.2	15.5	2.3	4.9	11.3
内部障害	1.2	0.9	6.0	3.5	7.1	<u>31.2</u>	7.7	0.8	22.1	13.6	
平日の日中主に過ごしたところ別	自分の家	4.6	5.0	7.3	3.5	10.7	<u>24.0</u>	11.3	1.2	17.1	12.1
	職場(福祉的就労の施設を除く)	7.1	9.2	6.4	2.8	18.6	20.7	6.6	0.2	22.6	6.6
	職場(福祉的就労の施設)	1.8	-	5.3	5.3	14.0	14.0	14.0	-	8.8	7.0
	学校	-	7.1	7.1	-	28.6	28.6	7.1	-	14.3	-
	通所施設(生活介護、デイケア、地域活動支援センター等を含む・福祉的就労の施設を除く)	3.9	-	3.4	2.2	11.2	19.1	12.9	2.8	7.3	9.0
	入所施設	6.1	-	2.0	5.1	11.1	<u>25.3</u>	15.2	3.0	18.2	13.1
	その他	11.6	7.0	4.7	2.3	2.3	18.6	16.3	4.7	18.6	23.3

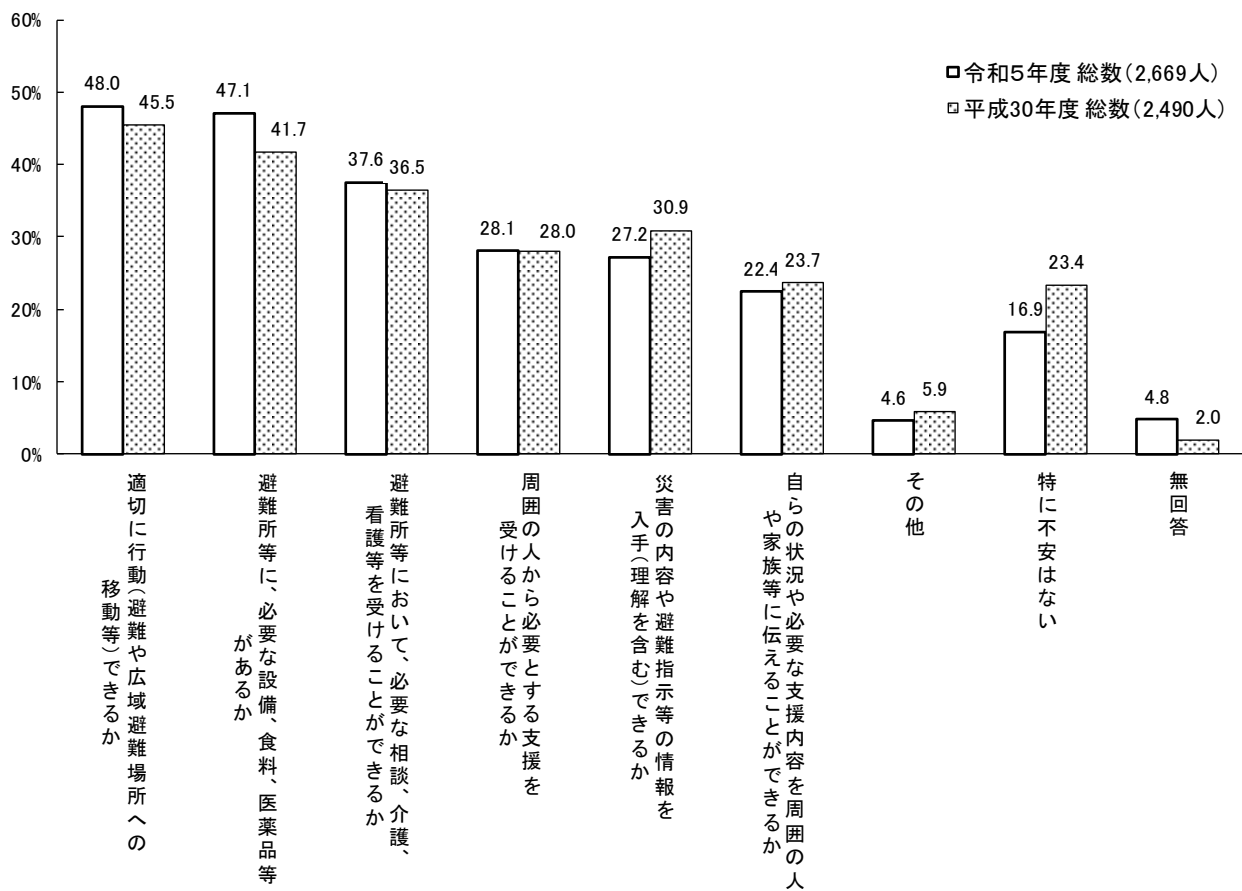
12 災害関係

(1) 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕

災害時に不安を感じることは、「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」が48.0%、「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」が47.1%

災害時に不安を感じることを聞いたところ、「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」の割合が48.0%で最も高く、次いで「避難所等に、必要な設備、食料、医薬品等があるか」が47.1%となっている。（図Ⅱ-12-1）

図Ⅱ-12-1 災害時に不安を感じる事〔複数回答〕



(2) 災害時に不安を感じることを〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

災害時に不安を感じることを障害名別にみると、視覚障害、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（下肢）、肢体不自由（体幹）及び肢体不自由（脳原性運動機能障害）では「適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか」が最も高く、それぞれ57.7%、60.1%、59.1%、63.7%、62.5%となっている。

聴覚障害では「災害の内容や避難指示等の情報を入手（理解を含む）できるか」の割合が47.8%となっている。音声機能・言語機能・そしゃく機能障害及び内部障害では「避難所等に、必要な設備・食糧・医薬品等はあるか」が最も高く、それぞれ41.6%、54.0%となっている。（表Ⅱ-12-1）

表Ⅱ-12-1 災害時に不安を感じることを〔複数回答〕－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

		総数	災害の内容や避難指示等の情報を入手（理解を含む）できるか	適切に行動（避難や広域避難場所への移動等）できるか	周囲の人や家族等に伝えることができるか	自らの状況や必要な支援内容を受けられることができるか	周囲の人から必要とする支援を受けられることができるか	避難所等において、必要な相談、介護、看護等を受けることができるか	避難所等にある必要設備、食料、医薬品等があるか	その他	特に不安はない	無回答
総数		100.0 (2,669)	27.2	48.0	22.4	28.1	37.6	47.1	4.6	16.9	4.8	
身体障害者手帳の障害名〔複数回答〕別	視覚障害	100.0 (352)	36.9	<u>57.7</u>	20.5	33.8	36.6	40.3	4.8	13.9	6.0	
	聴覚障害	100.0 (404)	<u>47.8</u>	41.3	27.5	29.7	31.9	38.9	2.5	18.1	5.4	
	平衡機能障害	100.0 (14)	35.7	71.4	21.4	28.6	28.6	35.7	-	7.1	-	
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	25.7	40.5	40.1	29.0	36.8	<u>41.6</u>	4.5	19.7	4.1	
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	25.9	<u>60.1</u>	25.7	38.1	45.9	51.4	5.3	14.2	4.3	
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	23.9	<u>59.1</u>	22.9	34.2	43.6	49.8	5.0	13.2	5.1	
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	24.7	<u>63.7</u>	27.1	39.7	52.2	53.6	7.5	8.5	5.1	
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	27.8	<u>62.5</u>	28.5	43.4	52.1	51.1	5.5	9.7	6.1	
	内部障害	100.0 (779)	20.0	37.1	14.9	18.0	33.9	<u>54.0</u>	4.6	18.5	5.4	
年齢階級別	29歳以下	100.0 (97)	33.0	58.8	27.8	51.5	50.5	46.4	4.1	9.3	1.0	
	30～39歳	100.0 (129)	34.9	60.5	27.1	41.9	50.4	53.5	6.2	15.5	3.1	
	40～49歳	100.0 (233)	33.5	53.6	26.6	39.5	41.6	51.9	5.6	10.7	3.4	
	50～59歳	100.0 (390)	27.4	43.8	21.5	29.5	36.9	49.2	6.7	15.6	3.1	
	60～69歳	100.0 (480)	24.4	47.3	21.0	24.4	37.9	49.2	4.2	17.5	3.5	
	70～79歳	100.0 (623)	22.2	44.6	20.7	23.0	34.3	46.7	4.5	19.4	4.8	
	80歳以上	100.0 (717)	29.0	48.1	22.5	25.0	35.1	42.1	3.3	18.3	7.8	
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,589)	25.4	46.9	21.5	23.5	35.1	44.6	3.8	18.6	5.9	

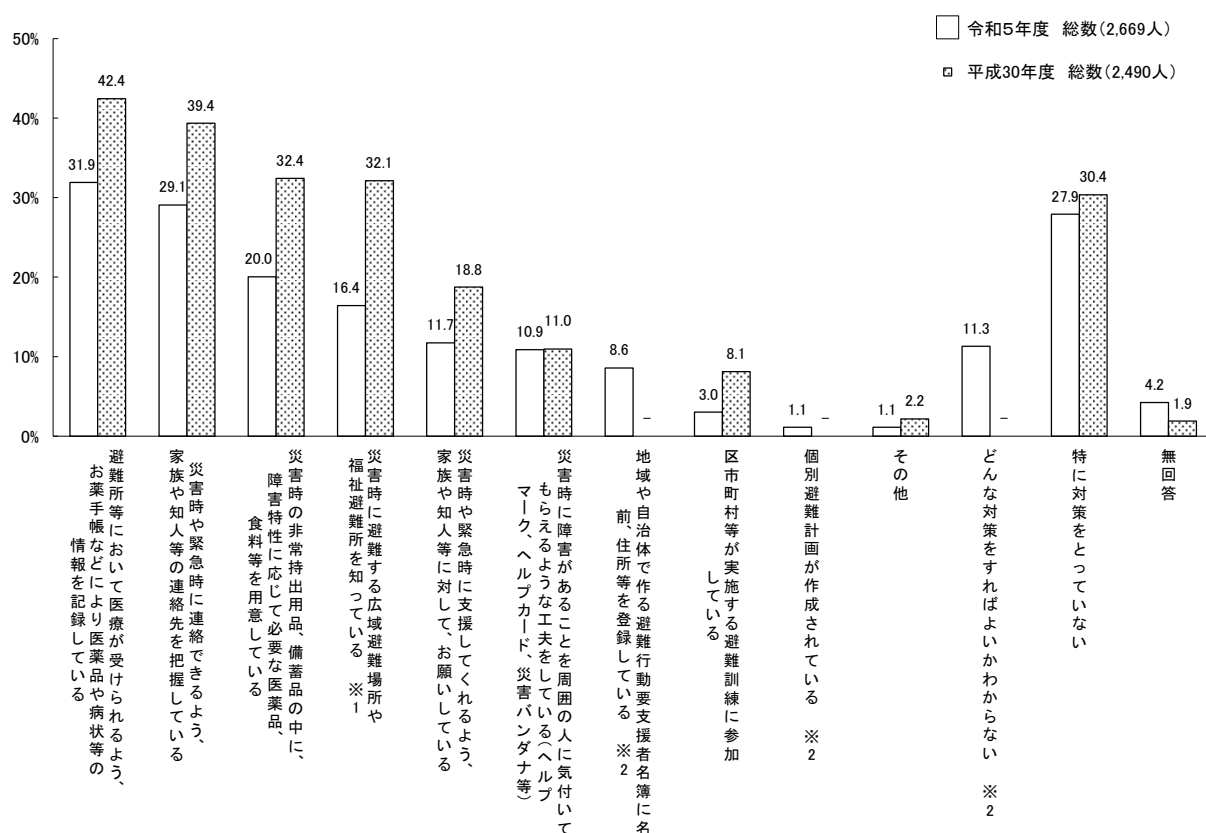
(3) 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

「^{とく}「^{たいさく}特に対策をとっていない」が 27.9%

災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか聞いたところ、「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」の割合が最も高く 31.9%、次いで「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」が 29.1%となっている。

また、「特に対策をとっていない」の割合は 27.9%、「どんな対策をすればよいかわからない」は 11.3%となっている。(図Ⅱ-12-2)

図Ⅱ-12-2 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕



注 1) ※1 平成 30 年度調査では「災害時に避難する広域避難場所を知っている」としていた。

2) ※2 平成 30 年度調査では選択肢として設けていなかった。

(4) 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているかを障害名別にみると、視覚障害では、「災害時や緊急時に連絡できるよう、家族や知人等の連絡先を把握している」が最も高く、31.5%となっている。内部障害では「避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している」の割合が最も高く、39.7%となっている。(表II-12-2)

表II-12-2 災害に備えて、障害特性に応じた特別な対策をとっているか〔複数回答〕

－障害名〔複数回答〕、年齢階級別

	総数	食料等を用意している	災害時の非常持出品、備蓄品、医薬品、備蓄品の中に、病状等の情報を記録している	避難所等において医療が受けられるよう、お薬手帳などにより医薬品や病状等の情報を記録している	家族や知人等の連絡先を把握している	災害時や緊急時に支援してくれよう、家族や知人等に対して、お願いしている	災害時に避難する広域避難場所や福祉避難所を知っている	地域や自治体で作る避難行動要支援者名簿に名前、住所等を登録している	個別避難計画が作成されている	区市町村等が実施する避難訓練に参加している	災害時に障害があることを周囲の人に気付かせるよう、ヘルプカード、災害パンダナ等を用意している	その他	どんな対策をすればよいかわからない	特に対策をとっていない	無回答
総数	100.0 (2,669)	20.0	31.9	29.1	11.7	16.4	8.6	1.1	3.0	10.9	1.1	11.3	27.9	4.2	
身体障害者手帳の障害名別	視覚障害	100.0 (352)	14.8	30.1	<u>31.5</u>	15.9	14.2	9.7	1.1	3.7	13.6	2.3	10.5	26.1	5.4
	聴覚障害	100.0 (404)	16.1	22.3	29.0	14.6	14.6	4.7	1.2	4.7	11.1	1.0	12.9	29.7	5.0
	平衡機能障害	100.0 (14)	28.6	42.9	14.3	7.1	14.3	7.1	-	-	21.4	-	7.1	21.4	7.1
	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	100.0 (269)	21.2	31.6	27.5	10.8	15.2	8.2	1.1	1.9	13.4	1.1	10.4	29.7	3.7
	肢体不自由(上肢)	100.0 (486)	20.8	32.3	27.4	11.5	19.1	14.6	1.6	2.1	7.8	1.0	11.7	27.8	3.9
	肢体不自由(下肢)	100.0 (606)	21.6	32.8	29.0	11.2	18.6	10.4	0.8	2.5	8.7	0.5	11.4	26.2	4.8
	肢体不自由(体幹)	100.0 (295)	24.7	35.3	25.8	16.3	20.3	14.9	2.7	1.7	10.5	1.0	13.6	22.4	4.4
	肢体不自由(脳原性運動機能障害)	100.0 (309)	24.9	27.8	25.2	16.5	22.0	19.7	3.2	4.2	9.4	2.3	13.6	21.4	6.1
	内部障害	100.0 (779)	22.7	<u>39.7</u>	29.3	8.2	15.8	6.3	0.6	2.7	10.9	0.9	10.8	26.3	4.2
年齢階級別	29歳以下	100.0 (97)	25.8	25.8	12.4	8.2	12.4	12.4	-	1.0	14.4	1.0	13.4	29.9	2.1
	30～39歳	100.0 (129)	24.0	28.7	28.7	10.9	17.8	15.5	3.1	2.3	11.6	2.3	15.5	25.6	3.1
	40～49歳	100.0 (233)	28.3	32.6	27.0	12.0	20.6	11.6	3.0	3.4	8.6	0.9	15.0	21.0	3.0
	50～59歳	100.0 (390)	23.6	29.0	27.2	10.3	16.9	7.9	1.3	2.6	10.5	2.1	12.3	28.7	2.8
	60～69歳	100.0 (480)	18.8	30.8	31.3	8.3	14.4	8.1	1.3	1.9	14.0	0.6	11.7	30.2	3.3
	70～79歳	100.0 (623)	18.1	37.4	32.1	11.1	17.8	7.4	0.6	3.7	10.6	0.5	7.2	28.4	3.9
	80歳以上	100.0 (717)	16.5	30.7	29.0	15.9	15.2	7.5	0.6	3.8	9.3	1.4	11.9	27.9	6.8
	(再掲)65歳以上	100.0 (1,589)	17.6	32.7	30.7	12.8	16.1	7.8	0.6	3.4	10.6	1.0	10.0	28.6	5.0